

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2025年5月2日提出
【計算期間】	第50期(自 2024年8月8日至 2025年2月7日)
【ファンド名】	三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型） 三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型） 三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型） 三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）
【発行者名】	三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 横川 直
【本店の所在の場所】	東京都港区東新橋一丁目９番１号
【事務連絡者氏名】	伊藤 晃
【連絡場所】	東京都港区東新橋一丁目９番１号
【電話番号】	03-4223-3037
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第１【ファンドの状況】

１【ファンドの性格】

（１）【ファンドの目的及び基本的性格】

当ファンドは、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。

信託金の限度額は、各ファンドについて、5,000億円です。

＊委託会社は、受託会社と合意のうえ、信託金の限度額を変更することができます。

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品の分類方法において、以下の商品分類および属性区分に該当します。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	独立区分	補足分類
単位型	国内	株式	MMF	インデックス型
	海外	債券	MR F	
追加型		不動産投信		特殊型 ()
	その他資産 ()		E T F	
	内外	資産複合		

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替 ヘッジ	対象 インデックス	特殊型
株式	年１回	グローバル (日本を含む)	ファミリー ファンド	あり ()	日経２２５	ブル・ベア型
一般	年２回					
大型株	年４回	日本			TOPIX	条件付運用型
中小型株	年６回	北米	ファンド・	なし		
債券	(隔月)	欧州	オブ・		その他 ()	ロング・
一般	年１２回	アジア	ファンズ			ショート型／
公債	(毎月)	オセアニア				絶対収益
社債	日々	中南米				追求型
その他債券	その他	アフリカ				その他 ()
クレジット	()	中近東 (中東)				
属性 ()		エマージング				
不動産投信						
その他資産						
(投資信託証券 (資産複合(株 式、債券)))						
資産複合 ()						

※当ファンドが該当する商品分類・属性区分を網掛け表示しています。商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<https://www.toushin.or.jp/>）でご覧いただけます。

※ファミリーファンド、ファンド・オブ・ファンズに該当する場合、投資信託証券を通じて投資収益の源泉となる資産に投資しますので商品分類表と属性区分表の投資対象資産は異なります。

※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

商品分類の定義

単位型・追加型	単位型	当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいいます。
	追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	国内	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	海外	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	内外	信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産	株式	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	債券	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	不動産投信（リート）	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式、債券および不動産投信以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	信託約款において、株式、債券、不動産投信およびその他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
独立区分	MMF（マネー・マネージメント・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MR F及びMMFの運営に関する規則」に規定するMMFをいいます。
	MR F（マネー・リザーブ・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MR F及びMMFの運営に関する規則」に規定するMR Fをいいます。
	ETF	投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号および第2号に規定する証券投資信託ならびに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいいます。
補足分類	インデックス型	信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	特殊型	信託約款において、投資家（受益者）に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

※上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

属性区分の定義

投資対象資産	株式	一般	次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		大型株	信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
		中小型株	信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
	債券	一般	次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		公債	信託約款において、日本国または各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含みます。以下同じ。）に主として投資する旨の記載があるものをいいます。

	社債	信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他債券	信託約款において、公債または社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	クレジット属性	目論見書または信託約款において、信用力が高い債券に選別して投資する、あるいは投資適格債（ＢＢＢ格相当以上）を投資対象の範囲とする旨の記載があるものについて高格付債、ハイイールド債等（ＢＢ格相当以下）を主要投資対象とする旨の記載があるものについて低格付債を債券の属性として併記します。
	不動産投信	信託約款において、主として不動産投信に投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	信託約款において、主として株式、債券および不動産投信以外に投資する旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	信託約款において、複数資産を投資対象とする旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	信託約款において、複数資産を投資対象とする旨の記載があるものをいいます。
決算頻度	年１回	信託約款において、年１回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年２回	信託約款において、年２回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年４回	信託約款において、年４回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年６回（隔月）	信託約款において、年６回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年１２回（毎月）	信託約款において、年１２回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。
	日々	信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいいます。
	その他	上記属性にあてはまらない全てのものをいいます。
投資対象地域	グローバル	信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	日本	信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	北米	信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	欧州	信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アジア	信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	オセアニア	信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中南米	信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アフリカ	信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中近東（中東）	信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	エマージング	信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産（一部組み入れている場合等を除きます。）を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	エマージング	信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産（一部組み入れている場合等を除きます。）を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファミリーファンド	信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。
	ファンド・オブ・ファンズ	一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第２条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。

為替ヘッジ	あり	信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。
	なし	信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。
対 象 イ ン デックス	日経２２５	信託約款において、日経２２５に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	ＴＯＰＩＸ	信託約款において、ＴＯＰＩＸに連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記以外の指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
特殊型	ブル・ベア型	信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動もしくは逆連動（一定倍の連動もしくは逆連動を含みます。）を目指す旨の記載があるものをいいます。
	条件付運用型	信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいいます。
	ロング・ショート型／絶対収益追求型	信託約款において、ロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨もしくは特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨の記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記特殊型に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

※上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

[ファンドの目的・特色]

ファンドの目的

国内債券、国内株式、外国債券および外国株式を実質的な主要投資対象とし、それぞれの基本ポートフォリオに沿った資産配分を行うことにより、長期的に安定した収益の獲得をめざします。

ファンドの特色

特色

1

内外の主要金融資産に分散投資を行います。
また、ポートフォリオの資産配分比率は、原則一定を維持します。

内外の主要金融資産に分散投資を行います。

国内債券、国内株式、外国債券および外国株式への分散投資により、リスクの低減を図り、長期的に安定した収益の獲得をめざします。

各ファンドの実質的な運用は、「三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド」を通じて行います。

ポートフォリオの資産配分比率は、原則一定を維持します。

4種類のポートフォリオは、原則として、それぞれの基本ポートフォリオに沿った資産配分を行うことにより、投資家のみなさまにお選びいただいたリスク水準の近辺でコントロールします。

機関投資家向けの資産配分モデルを利用し、比較的長期的な安定した運用成果をめざします。

特色

2

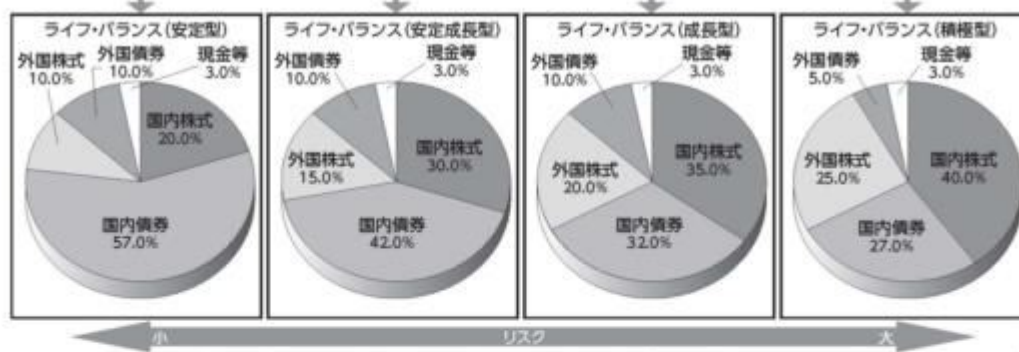
ライフプランにあわせて4つのファンドからご選択いただけます。
4つのファンドから資金性格、投資目的等に応じた選択が可能です。

ポートフォリオは、投資家のみなさまの将来設計、運用期間、リスクに対する考え方などに合わせて自由にお選びいただけるよう、リスク水準の異なる4種類をご用意いたしました。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド (安定型)	株式組入比率の上限を45%未満、外貨建資産組入比率の上限を35%未満とする安定型のバランスファンドです。4つのファンドの中では比較的値動きが小さいタイプです。
三菱UFJ ライフ・バランスファンド (安定成長型)	株式組入比率の上限を60%未満、外貨建資産組入比率の上限を40%未満とする安定成長型のバランスファンドです。成長型のファンドに比べ、値動きの大きさを抑えたタイプです。
三菱UFJ ライフ・バランスファンド (成長型)	株式組入比率の上限を70%未満、外貨建資産組入比率の上限を45%未満とする成長型のバランスファンドです。4つの中では比較的値動きの大きいタイプです。
三菱UFJ ライフ・バランスファンド (積極型)	株式組入比率の上限を80%未満、外貨建資産組入比率の上限を45%未満とする積極型のバランスファンドです。4つの中では値動きの大きいタイプです。

■基本ポートフォリオ

“投資家のみなさまのリスク・リターンへの選好度に応じたファンドの選択が可能”



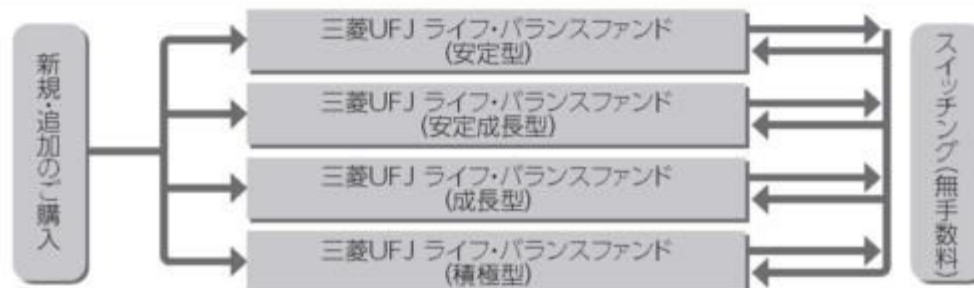
上記のリスクによる分類は、各ファンドの運用の指図範囲等に基づき、三菱UFJアセットマネジメントが分類したものであり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

実質的な組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。ただし、運用効率の向上を図るため、エクスポージャー[※]のコントロールを行う場合があります。

※エクスポージャーとは、金融資産のうち市場の価格変動リスク・為替変動リスクにさらしている資産の割合のことをいいます。

特色3

各ファンドは無手数料でスイッチング(乗換)が可能です。
ただし、スイッチングの際は、換金するファンドに対して税金がかかります。



特色4

国内債券、国内株式、外国債券および外国株式に投資するそれぞれのマザーファンドを設定し、その運用にはベンチマーク[※]を定め、アクティブ運用により、これを上回る収益を追求します。



※ベンチマークとは、ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標です。

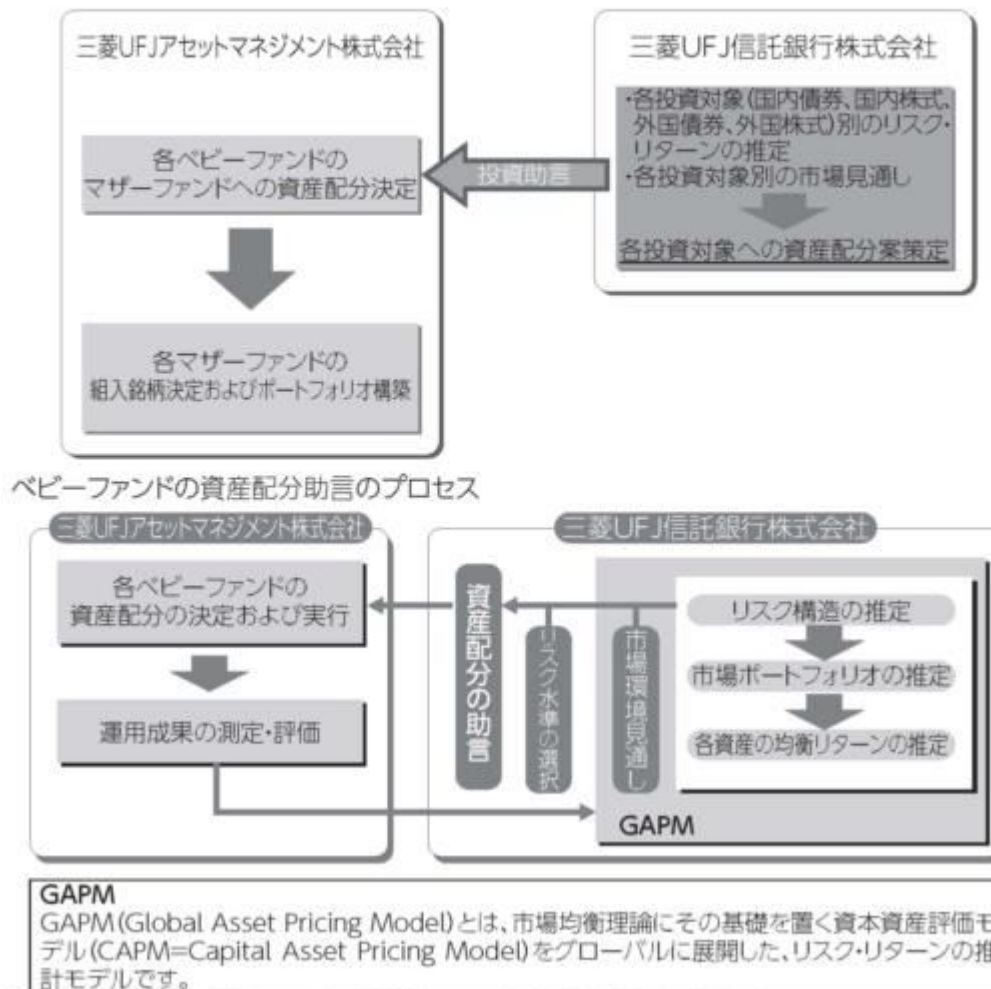
各ファンドは、以下の比率で合成したインデックスをベンチマークとします。

インデックス名称	三菱UFJ ライフ・バランスファンド （安定型）	三菱UFJ ライフ・バランスファンド （安定成長型）	三菱UFJ ライフ・バランスファンド （成長型）	三菱UFJ ライフ・バランスファンド （積極型）
NOMURA-BPI ＜総合＞ （国内債券投資収益指数）	57%	42%	32%	27%
東証株価指数（TOPIX） （配当込み）	20%	30%	35%	40%
FTSE世界国債イン デックス（除く日本・円 ベース）	10%	10%	10%	5%
MSCIコクサイ・イン デックス（配当込み、円 換算ベース）	10%	15%	20%	25%
無担保コール翌日物レート （短資協会発表）の平均値	3%	3%	3%	3%

特色5

各ベビーファンドでの資産配分にあたりましては、三菱UFJ信託銀行株式会社からの投資助言※を受けます。

※投資助言者、投資助言の内容、投資助言の有無等については、変更する場合があります。



「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページでご覧いただけます。
(https://www.am.mufig.jp/investment_policy/fm.html)

■ファンドの仕組み

運用は主に各マザーファンドへの投資を通じて、内外の株式・債券へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。



■主な投資制限

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定型)」

- ・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の45%未満とします。
- ・外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の35%未満とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定成長型)」

- ・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の60%未満とします。
- ・外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の40%未満とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)」

- ・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の70%未満とします。
- ・外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の45%未満とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド(積極型)」

- ・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の80%未満とします。
- ・外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の45%未満とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

■分配方針

- ・年2回の決算時(2・8月の各7日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円(10,000口当たり)を超えている場合に、当期の基準価額上昇分の範囲内で分配します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

指数について

NOMURA-BPI<総合>(国内債券投資収益指数)とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)(以下「TOPIX」といいます。)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

FTSE世界国債インデックス(除く日本・円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。

MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)は、MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、米ドルベース)をもとに、委託会社が計算したものです。

また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

(2) 【ファンドの沿革】

2000年2月8日

2001年4月2日

2005年10月1日

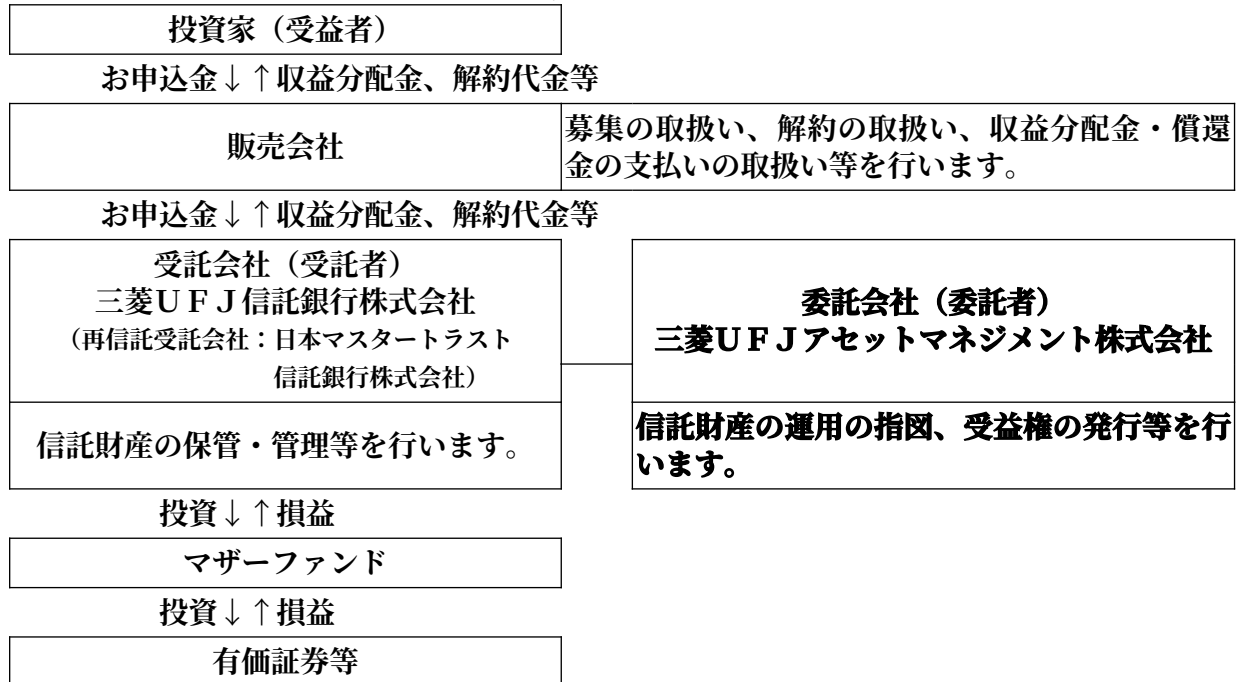
設定日、信託契約締結、運用開始

名称を「パートナーズ ライフ・バランス ファンド(安定型)」から「UFJパートナーズ ライフ・バランス ファンド(安定型)」に、「パートナーズ ライフ・バランス ファンド(安定成長型)」から「UFJパートナーズ ライフ・バランス ファンド(安定成長型)」に、「パートナーズ ライフ・バランス ファンド(成長型)」から「UFJパートナーズ ライフ・バランス ファンド(成長型)」に、「パートナーズ ライフ・バランス ファンド(積極型)」から「UFJパートナーズ ライフ・バランス ファンド(積極型)」に変更
ファンドの委託会社としての業務をユーエフジェイパートナーズ投信株式会社から三菱UFJ投信株式会社に承継
名称を「UFJパートナーズ ライフ・バランス ファンド(安定型)」から「三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定型)」に、「UFJパートナーズ ライフ・バランス ファンド(安定成長型)」から「三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定成長型)」に、「UFJパートナーズ ライフ・バランス ファンド(成長型)」から「三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)」に、「UFJパートナーズ ライフ・バランス ファンド(積極型)」から「三菱UFJ ライフ・バランスファンド(積極型)」に変更

2018年7月18日	ファンドの投資対象に「三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド」、「マネー・マーケット・マザーファンド」を追加
2018年11月7日	ファンドの投資対象から「国内債券マザーファンド」、「国内株式マザーファンド」、「世界債券マザーファンド」、「世界株式マザーファンド」、「短期資産マザーファンド」を削除

(3) 【ファンドの仕組み】

①委託会社およびファンドの関係法人の役割



②委託会社と関係法人との契約の概要

	概要
委託会社と受託会社との契約 「信託契約」	運用に関する事項、委託会社および受託会社としての業務に関する事項、受益者に関する事項等が定められています。 なお、信託契約は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づきあらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容で締結されます。
委託会社と販売会社との契約 「投資信託受益権の取扱いに関する契約」	販売会社の募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められています。

③委託会社の概況（2025年2月末現在）

- 金融商品取引業者登録番号
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第404号
- 設立年月日
1985年8月1日
- 資本金
2,000百万円
- 沿革
1997年5月 東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始
2004年10月 東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更

2005年10月 三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱UFJ投信株式会社に変更

2015年7月 三菱UFJ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を三菱UFJ国際投信株式会社に変更

2023年10月 エム・ユー投資顧問株式会社の有価証券運用事業を三菱UFJ国際投信株式会社へ統合し、商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更

・大株主の状況

株 主 名	住 所	所有株式数	所有比率
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	211,581株	100.0%

2【投資方針】

（1）【投資方針】

三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド受益証券、三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド受益証券、三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド受益証券および三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、内外の株式・公社債に直接投資することがあります。

主として、三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド受益証券、三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド受益証券、三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド受益証券および三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド受益証券への投資を通して、国内債券・国内株式・外国債券・外国株式への分散投資を行い、リスクの低減に努めつつ長期的に安定した収益の積み上げをめざします。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（安定型）」

国内債券57%、国内株式20%、外国債券10%、外国株式10%および短期金融商品3%の比率で配分した基本ポートフォリオのもと、個別資産毎におけるアクティブ運用を行い、委託会社が独自に指数化する合成インデックスをベンチマークとして超過収益を積み上げることを図ります。

（注）委託会社が独自に指数化する合成インデックスとは、NOMURA-BPI＜総合＞（国内債券投資収益指数）57%、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）20%、FTSE世界国債インデックス（除く日本・円ベース）10%、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）10%、無担保コール翌日物レート（短資協会発表）の平均値3%を合成したものです。

各資産につき、基本ポートフォリオにおける各資産毎の比率から±5%以内の範囲に配分比率の変動を抑えます。ただし、市況動向等に応じて、基本ポートフォリオは適宜見直しを行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、エクスポージャーのコントロールを行う場合があります。

株式以外の資産への実質投資割合（信託財産に属する株式以外の資産の時価総額と信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の総額に占める株式以外の資産の時価総額の割合を乗じて得た額との合計額が信託財産の総額に占める割合）は、原則として信託財産の総額の75%以下とします。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（安定成長型）」

国内債券42%、国内株式30%、外国債券10%、外国株式15%および短期金融商品3%の比率で配分した基本ポートフォリオのもと、個別資産毎におけるアクティブ運用を行い、委託会社が独自に指数化する合成インデックスをベンチマークとして超過収益を積み上げることを図ります。

（注）委託会社が独自に指数化する合成インデックスとは、NOMURA-BPI＜総合＞（国内債券投資収益指数）42%、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）30%、FTSE世界国債インデックス（除く日本・円ベース）10%、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）15%、無担保コール翌日物レート（短資協会発表）の平均値3%

を合成したものです。

各資産につき、基本ポートフォリオにおける各資産毎の比率から±5%以内の範囲に配分比率の変動を抑えます。ただし、市況動向等に応じて、基本ポートフォリオは適宜見直しを行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、エクスポージャーのコントロールを行う場合があります。株式以外の資産への実質投資割合（信託財産に属する株式以外の資産の時価総額と信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の総額に占める株式以外の資産の時価総額の割合を乗じて得た額との合計額が信託財産の総額に占める割合）は、原則として信託財産の総額の75%以下とします。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（成長型）」

国内債券32%、国内株式35%、外国債券10%、外国株式20%および短期金融商品3%の比率で配分した基本ポートフォリオのもと、個別資産毎におけるアクティブ運用を行い、委託会社が独自に指数化する合成インデックスをベンチマークとして超過収益を積み上げることを行います。

（注）委託会社が独自に指数化する合成インデックスとは、NOMURA-BPI＜総合＞（国内債券投資収益指数）32%、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）35%、FTSE世界国債インデックス（除く日本・円ベース）10%、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）20%、無担保コール翌日物レート（短資協会発表）の平均値3%を合成したものです。

各資産につき、基本ポートフォリオにおける各資産毎の比率から±5%以内の範囲に配分比率の変動を抑えます。ただし、市況動向等に応じて、基本ポートフォリオは適宜見直しを行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、エクスポージャーのコントロールを行う場合があります。

株式以外の資産への実質投資割合（信託財産に属する株式以外の資産の時価総額と信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の総額に占める株式以外の資産の時価総額の割合を乗じて得た額との合計額が信託財産の総額に占める割合）は、原則として信託財産の総額の50%以下とします。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（積極型）」

国内債券27%、国内株式40%、外国債券5%、外国株式25%および短期金融商品3%の比率で配分した基本ポートフォリオのもと、個別資産毎におけるアクティブ運用を行い、委託会社が独自に指数化する合成インデックスをベンチマークとして超過収益を積み上げることを行います。

（注）委託会社が独自に指数化する合成インデックスとは、NOMURA-BPI＜総合＞（国内債券投資収益指数）27%、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）40%、FTSE世界国債インデックス（除く日本・円ベース）5%、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）25%、無担保コール翌日物レート（短資協会発表）の平均値3%を合成したものです。

各資産につき、基本ポートフォリオにおける各資産毎の比率から±5%以内の範囲に配分比率の変動を抑えます。ただし、市況動向等に応じて、基本ポートフォリオは適宜見直しを行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、エクスポージャーのコントロールを行う場合があります。

株式以外の資産への実質投資割合（信託財産に属する株式以外の資産の時価総額と信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の総額に占める株式以外の資産の時価総額の割合を乗じて得た額との合計額が信託財産の総額に占める割合）は、原則として信託財産の総額の50%以下とします。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

（2）【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1

項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ. 有価証券

ロ. デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款に定める次のものに限りま。）

a. 有価証券先物取引等

b. スワップ取引

c. 金利先渡し取引および為替先渡し取引

ハ. 約束手形

ニ. 金銭債権

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. 為替手形

①有価証券の指図範囲

この信託において投資の対象とする有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社を委託会社とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託会社とする三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド、三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド、三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド、三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンドおよびマネー・マーケット・マザーファンド（「マザーファンド」または「親投資信託」といいます。）の受益証券のほか、次に掲げるものとしま。

1. 株券または新株引受権証書
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。新株予約権付社債については、転換社債型新株予約権付社債（新株予約権付社債のうち、会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているものならびに会社法施行前の旧商法第341条の3第1項第7号および第8号の定めがあるものをいいます。）に限りま。）
6. 資産の流動化に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
8. 協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
9. 資産の流動化に係る優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
10. 資産の流動化に係る特定目的信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第13号で定めるものをいいます。）
11. コマーシャル・ペーパー
12. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
13. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、1. から12. の証券または証書の性質を有するもの
14. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
15. 投資証券もしくは新投資口予約権証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。16. において同じ。）で16. で定めるものの以外のもの
16. 投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。以下16. において同じ。）または外国投資証券で投資法人債券に類する証券
17. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
18. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるもの

をいい、有価証券に係るものに限りま。

19. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）

20. 外国法人が発行する譲渡性預金証書

21. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りま。）

22. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）

23. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

24. 外国の者に対する権利で23.の有価証券の性質を有するもの

なお、1.の証券または証書ならびに13.および19.の証券または証書のうち1.の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2.から6.までの証券ならびに16.の証券ならびに13.および19.の証券または証書のうち2.から6.までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、14.および15.の証券を以下「投資信託証券」といいます。

②金融商品の指図範囲

この信託において投資の対象とする金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）は、次に掲げるものとします。

1. 預金

2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託を除きます。）

3. コール・ローン

4. 手形割引市場において売買される手形

5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

6. 外国の者に対する権利で5.の権利の性質を有するもの

③その他の投資対象

信託約款に定める次に掲げるもの。

・外国為替予約取引

<マザーファンドの概要>

三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。

（運用方法）

①投資対象

わが国の公社債を主要投資対象とします。

②投資態度

わが国の公社債を主要投資対象とします。ただし、事業債、円建外債についてはBBB格（S&P、ムーディーズ、格付投資情報センターおよび日本格付研究所のいずれかから取得したもの）相当以上の格付を有する債券を対象とします。

NOMURA-BPI<総合>（国内債券投資収益指数）をベンチマークとし、これを中長期的に上回ることを目標に運用を行います。

経済や金利の分析をベースに、デュレーション[※]・残存構成・債券種別等をコントロールするアクティブ運用を行います。具体的には、次のプロセスによります。

1) 経済分析や市場分析等を踏まえて金利の方向性等を予測し、デュレーションに関する戦略を策定します。

2) また、同様の分析を行い金利の期間構造等を予測し、上記のデュレーション戦略を加味して、残存構成に関する戦略を策定します。

3) さらに、各債券種別間の利回り較差動向等を予測し、債券種別構成に関する戦略を策定します。

4) 以上の戦略を総合して、ポートフォリオを構築します。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

①外貨建資産への投資は行いません。

②有価証券先物取引等は信託約款の範囲で行います。

③スワップ取引は信託約款の範囲で行います。

④金利先渡し取引は信託約款の範囲で行います。

※デュレーションとは、債券の投資元本の回収に要する平均残存期間や金利感応度を意味する指標です。
この値が大きいほど、金利変動に対する債券価格の変動率が大きくなります。

三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。

（運用方法）

①投資対象

わが国の株式を主要投資対象とします。

②投資態度

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果を目指します。

銘柄選択にあたっては、以下の2つの観点から行います。

1）中長期的な成長力の高い銘柄や業績改善度の大きい銘柄を選択

2）企業価値に対して株価が割安と判断され、かつ株価上昇が期待できる銘柄を選択

具体的には、1）経営者のリーダーシップ、2）企業戦略の適切さ、3）マーケット支配力・競争力、4）産業の循環、産業構造の変化等の定性的な要素を踏まえ、中長期的にみて高い利益成長が期待できる銘柄や業績の大幅な改善が見込める銘柄を選択し、株価の妥当性をチェックしたうえで、組み入れを図ります。なお、株価評価は、企業の利益成長率に見合った適正価値が存在するというGARP（Growth at Reasonable Price）の考え方をベースに行います。また、各種評価尺度（株価収益率、株価キャッシュフロー倍率、株価売上高倍率、株価純資産倍率、配当利回り等）を用いて行う定量的な分析に、定性的な分析を加えた結果、「現在の株価が妥当株価に比して割安に放置されており、かつ今後株価上昇が期待できる」と判断される銘柄についても、適宜組み入れを図ります。

株式の組入比率は高位（通常の状態では90%以上）を基本とします。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

①株式への投資に制限を設けません。

②投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

③外貨建資産への投資は行いません。

④有価証券先物取引等は信託約款の範囲で行います。

⑤スワップ取引は信託約款の範囲で行います。

⑥金利先渡し取引は信託約款の範囲で行います。

三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。

（運用方法）

①投資対象

わが国を除く世界主要国の公社債を主要投資対象とします。

②投資態度

FTSE世界国債インデックス（除く日本・円ベース）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果を目指します。

運用にあたっては、各国のマクロ分析や金利予測に基づいて、カンントリーアロケーション、デュレーションおよび残存構成のコントロール、利回り較差に着目した銘柄選択でアクティブに超過収益の獲得を目指します。さらに、ポートフォリオとベンチマークを比較分析することにより、リスクのチェックとコントロールを行います。

組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。ただし、エクスポージャーのコントロール等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。

公社債の組入比率は高位（通常の状態では90%以上）を基本とします。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

- ①外貨建資産への投資に制限を設けません。
- ②有価証券先物取引等は信託約款の範囲で行います。
- ③スワップ取引は信託約款の範囲で行います。
- ④金利先渡し取引および為替先渡し取引は信託約款の範囲で行います。
- ⑤外国為替予約取引は信託約款の範囲で行います。
- ⑥デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスク、金利変動リスクおよび為替変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。

三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。

（運用方法）

①投資対象

わが国を除く世界主要国の株式を主要投資対象とします。

②投資態度

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果を目指します。

運用にあたっては、カンントリーアロケーションと銘柄選択の双方におけるアクティブ戦略により、超過収益の獲得を目指します。カンントリーアロケーションについてはマクロシナリオからのトップダウンアプローチにより決定します。また組入銘柄選択については、企業の成長力と株価を評価することにより決定します。さらに、ポートフォリオとベンチマークを比較分析することにより、リスクのチェックとコントロールを行います。

組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。ただし、エクスポージャーのコントロール等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。

株式の組入比率は高位（通常の状態では90%以上）を基本とします。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

- ①株式への投資に制限を設けません。
- ②投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ③外貨建資産への投資に制限を設けません。
- ④有価証券先物取引等は信託約款の範囲で行います。
- ⑤スワップ取引は信託約款の範囲で行います。
- ⑥金利先渡し取引および為替先渡し取引は信託約款の範囲で行います。
- ⑦外国為替予約取引は信託約款の範囲で行います。

マネー・マーケット・マザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、安定した収益の確保をめざして安定運用を行います。

（運用方法）

①投資対象

わが国の公社債等を主要投資対象とします。

②投資態度

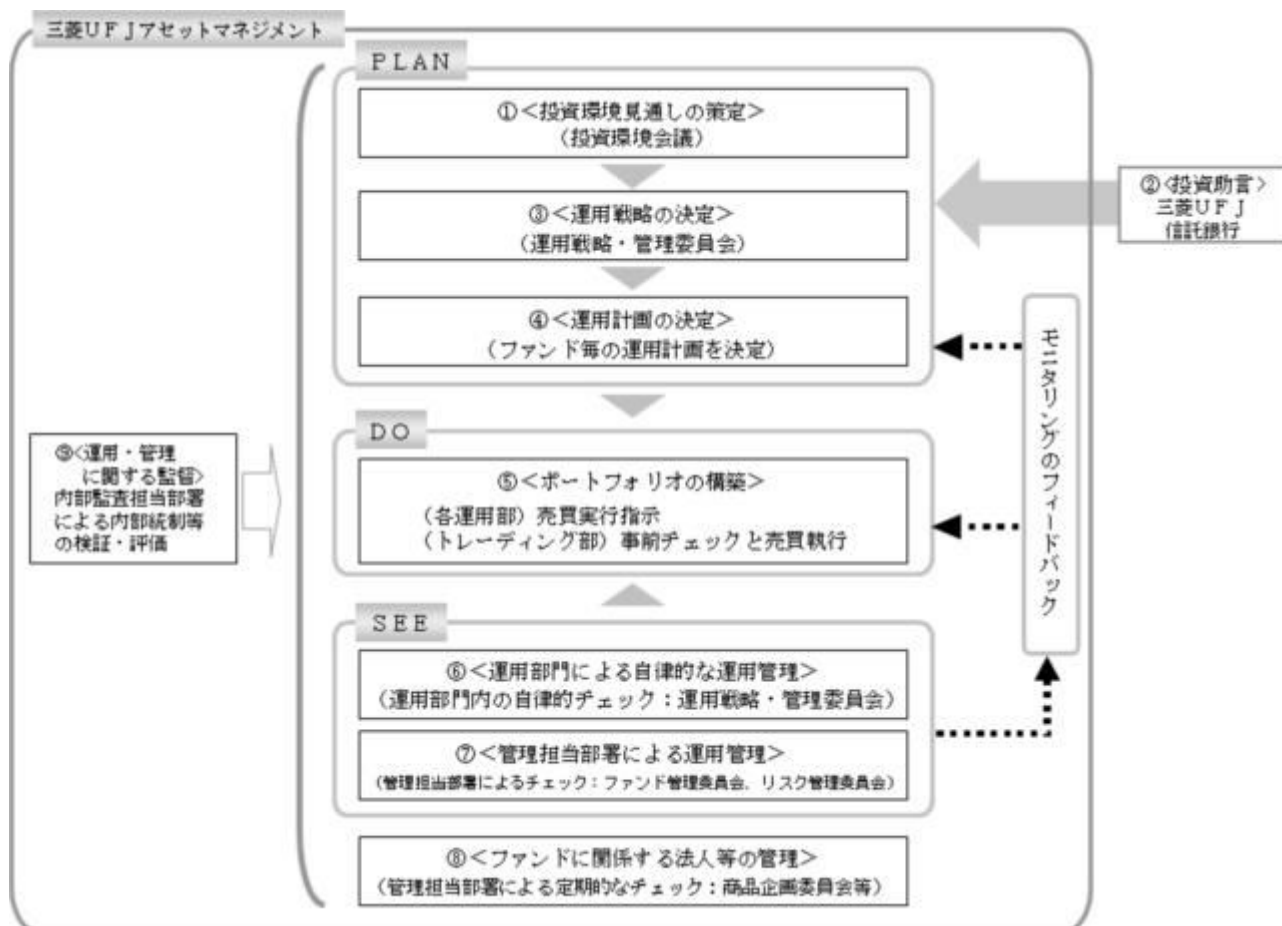
わが国の短期公社債等を中心に投資し、利子等収益の確保を図ります。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

- ①株式への投資は行いません。
- ②外貨建資産への投資は行いません。
- ③有価証券先物取引等を行うことができます。
- ④スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。
- ⑤金利先渡し取引は効率的な運用に資するため行うことができます。
- ⑥デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスクおよび金利変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。

（３）【運用体制】



①投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

②投資助言

当ファンドは、三菱UFJ信託銀行（「助言元」といいます。）から運用戦略または運用計画の立案に資する投資助言を受けています。

③運用戦略の決定

運用戦略・管理委員会において、①で策定された投資環境見通し、および②の投資助言に沿って運用戦略を決定します。

④運用計画の決定

③で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

⑤ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

⑥運用部門による自律的な運用管理

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、運用部門内の管理担当部署は逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。また、運用戦略・管理委員会を通じて運用状況のモニタリングを行い、運用部門内での自律的牽制により運用改善を図ります。

⑦管理担当部署による運用管理

運用部から独立した管理担当部署（40～60名程度）は、（a）運用に関するパフォーマンス測定・分析のほか、（b）リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、（a）についてはファンド管理委員会を経て運用担当部・商品開発担当部にフィードバックされ、（b）についてはリスク管理委員会を通じて運用担当部にフィードバックされ、必要に応じて部署間連携の上で是正・改善の検討が行われます。

⑧ファンドに係る法人等の管理

助言元、受託会社等、ファンドの運営に係る法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、商品企画委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

⑨運用・管理に関する監督

内部監査担当部署（10名程度）は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

なお、委託会社に関する「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページでご覧いただけます。

「運用担当者に係る事項」 https://www.am.mufg.jp/investment_policy/fm.html

（４）【分配方針】

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- ①分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。
- ③収益の分配にあてなかった利益については、信託約款に定める運用の基本方針に基づいて運用を行います。

（５）【投資制限】

<信託約款に定められた投資制限>

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（安定型）」

①株式

- a. 委託会社は、信託財産に属する株式（株式を組入可能な投資信託証券、新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。以下①において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の45以上となる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

②外貨建資産

- a. 委託会社は、信託財産に属する外貨建資産（外貨建資産を組入可能な投資信託証券を含みます。以下②において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の35以上となる投資の指図をしません。ただし、有価証券の値上り等により100分の35以上となった場合には、速やかにこれを調整します。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（安定成長型）」

①株式

- a. 委託会社は、信託財産に属する株式（株式を組入可能な投資信託証券、新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。以下①において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の60以上となる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める株式の時価総額の割合を

乗じて得た額とします。

②外貨建資産

- a. 委託会社は、信託財産に属する外貨建資産（外貨建資産を組入可能な投資信託証券を含みます。以下②において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の40以上となる投資の指図をしません。ただし、有価証券の値上り等により100分の40以上となった場合には、速やかにこれを調整します。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（成長型）」

①株式

- a. 委託会社は、信託財産に属する株式（株式を組入可能な投資信託証券、新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。以下①において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の70以上となる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

②外貨建資産

- a. 委託会社は、信託財産に属する外貨建資産（外貨建資産を組入可能な投資信託証券を含みます。以下②において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の45以上となる投資の指図をしません。ただし、有価証券の値上り等により100分の45以上となった場合には、速やかにこれを調整します。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（積極型）」

①株式

- a. 委託会社は、信託財産に属する株式（株式を組入可能な投資信託証券、新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。以下①において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の80以上となる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

②外貨建資産

- a. 委託会社は、信託財産に属する外貨建資産（外貨建資産を組入可能な投資信託証券を含みます。以下②において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の45以上となる投資の指図をしません。ただし、有価証券の値上り等により100分の45以上となった場合には、速やかにこれを調整します。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

<ファンド共通>

①投資信託証券

- a. 委託会社は、信託財産に属する投資信託証券（マザーファンドの受益証券を除きます。以下同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えること

となる投資の指図をしません。

- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める投資信託証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

②スワップ取引

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
- b. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- d. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

③信用取引

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができます。
- b. a. の信用取引の指図は、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内である場合においてできます。
- c. 信託財産の一部解約等の事由によりb. の売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

④外国為替予約取引

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。
- b. a. の予約取引の指図は、信託財産に係る為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産（マザーファンドの信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額を含みます。）の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
- c. b. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額とします。
- d. b. の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

⑤公社債の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めたときは、担保の提供の指図を行うものとします。
- b. a. の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、b. の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

⑥資金の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開

始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

- c. 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

⑦投資する株式等の範囲

- a. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券についてはこの限りではありません。
- b. a. の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託会社が投資することを指図することができます。

⑧金利先渡取引および為替先渡取引

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- b. 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- d. 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

⑨有価証券の貸付

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸し付けることの指図をすることができます。
1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- b. a. に規定する限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- c. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

⑩公社債の空売り

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産において有しない公社債または⑤の規定により借り入れた公社債を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、売り付けた公社債の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
- b. a. の売付けの指図は、当該売付けに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、b. の売付けに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

⑪特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制限されることがあります。

⑫デリバティブ取引等

デリバティブ取引等（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号に定めるデリバティブ取引をいう。）については、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額として、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないことと

します。

⑬信用リスクの分散規制

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に係る株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

<その他法令等に定められた投資制限>

・同一の法人の発行する株式への投資制限

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

（１）投資リスク

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

（主なリスクであり、以下に限定されるものではありません。）

①価格変動リスク

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け株式や公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

②為替変動リスク

実質的な主要投資対象である海外の株式や公社債は外貨建資産であり、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。そのため、為替相場が円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

③信用リスク

信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

④流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている株式や公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

※留意事項

- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ・当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実

勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。当ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。

（２）投資リスクに対する管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行い、ファンド管理委員会およびリスク管理委員会においてそれらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を検討しています。

また、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策を策定し流動性リスクの評価と管理プロセスの検証などを行います。リスク管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

具体的な、投資リスクに対するリスク管理体制は以下の通りです。

①コンプライアンス担当部署

法令上の禁止行為、約款の投資制限等のモニタリングを通じ、法令等遵守のための管理態勢の状況を把握・管理し、必要に応じて改善の指導を行います。

②リスク管理担当部署

運用リスク全般の状況をモニタリング・管理するとともに、運用実績の分析および評価を行い、必要に応じて改善策等を提言します。また、事務・情報資産・その他のリスクの統括的管理を行っています。

③内部監査担当部署

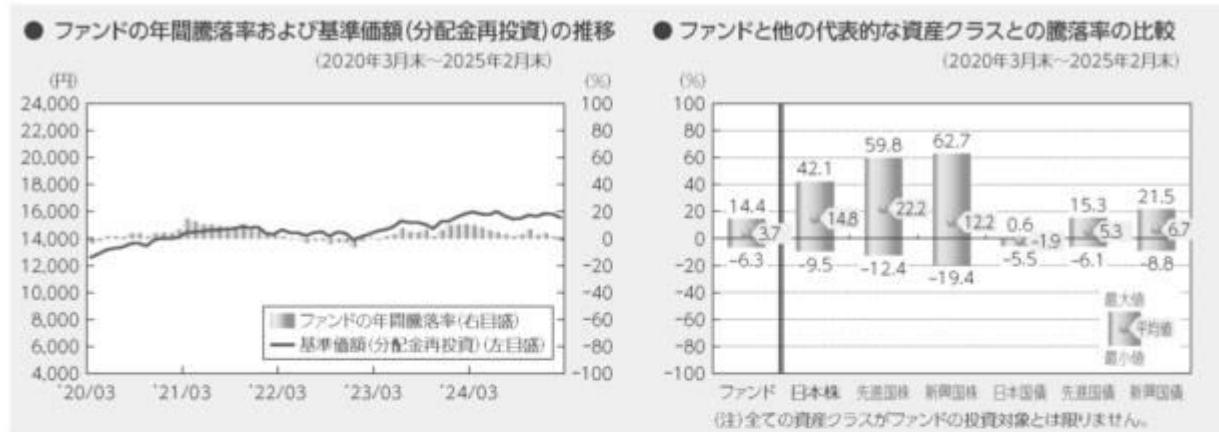
委託会社のすべての業務から独立した立場より、リスク管理体制の適切性および有効性について評価を行い、改善策の提案等を通して、リスク管理機能の維持・向上をはかります。

＊組織変更等により、前記の名称および内容は変更となる場合があります。

■代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

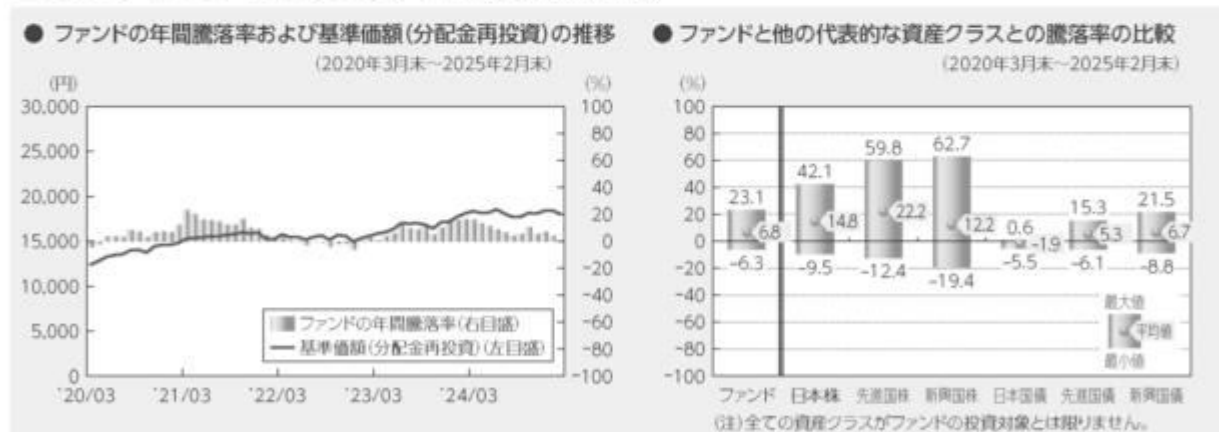
下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定型)



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

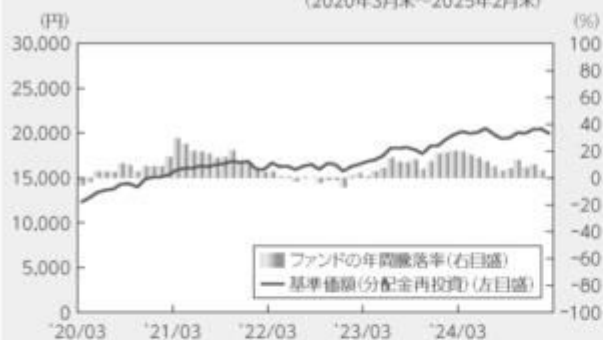
三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定成長型)



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

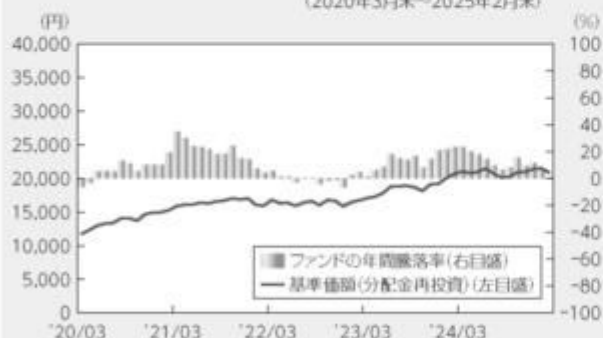
上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)

● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移
(2020年3月末～2025年2月末)● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較
(2020年3月末～2025年2月末)

- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(積極型)

● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移
(2020年3月末～2025年2月末)● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較
(2020年3月末～2025年2月末)

- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPI(国債)とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(総合)のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)	FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込価額（発行価格）×2.2%（税抜 2%）を上限として販売会社が定める手数料率

申込手数料は販売会社にご確認ください。

申込みには分配金受取コース（一般コース）と分配金再投資コース（累積投資コース）があり、分配金再投資コース（累積投資コース）の場合、再投資される収益分配金については、申込手数料はかかりません。

「ライフ・バランスファンド」を構成するファンドを解約した受取金額をもって解約請求受付日当日に他の構成ファンドの取得申込みを行う場合（「スイッチング」といいます。）、申込手数料はかかりません。

※申込手数料の対価として提供する役務の内容は、ファンドおよび投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等です。

(2)【換金（解約）手数料】

かかりません。

※換金（解約）手数料の対価として提供する役務の内容は、商品の換金に関する事務手続等です。

(3)【信託報酬等】

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（安定型）」

- ・信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に、年1.43%（税抜1.3%）の率を乗じて得た額とし、日々ファンドの基準価額に反映されます。

1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額×信託報酬率×（保有日数／365）

※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

- ・信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

- ・信託報酬の各支払先への配分（税抜）は、以下の通りです。

支払先	配分（税抜）	対価として提供する役務の内容
委託会社	0.66%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	0.56%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	0.08%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

※上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（安定成長型）」

- ・信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に、年1.54%（税抜1.4%）の率を乗じて得た額とし、日々ファンドの基準価額に反映されます。

1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額×信託報酬率×（保有日数／365）

※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

- ・信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

- ・信託報酬の各支払先への配分（税抜）は、以下の通りです。

支払先	配分（税抜）	対価として提供する役務の内容
委託会社	0.71%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	0.61%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	0.08%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

※上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（成長型）」

- ・信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に、年1.65%（税抜1.5%）の率を乗じて得た額とし、日々ファンドの基準価額に反映されます。

1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額×信託報酬率×（保有日数／365）

※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

- ・信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

- ・信託報酬の各支払先への配分（税抜）は、以下の通りです。

支払先	配分（税抜）	対価として提供する役務の内容
委託会社	0.76%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	0.66%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	0.08%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

※上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

「三菱UFJ ライフ・バランスファンド（積極型）」

- ・信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に、年1.76%（税抜1.6%）の率を乗じて得た額とし、日々ファンドの基準価額に反映されます。

1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額×信託報酬率×（保有日数／365）

※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

・信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

・信託報酬の各支払先への配分（税抜）は、以下の通りです。

支払先	配分（税抜）	対価として提供する役務の内容
委託会社	0.81%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	0.71%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	0.08%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

※上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

（４）【その他の手数料等】

- ・信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入を行う場合の借入金の利息および借入れに関する品借料は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。
- ・信託財産に係る監査費用（消費税等相当額を含みます。）は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に一定率を乗じて得た額とし、信託財産中から支弁します。支弁時期は信託報酬と同様です。
- ・信託財産（投資している投資信託を含みます。）の組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等（消費税等相当額を含みます。）、先物取引・オプション取引等に要する費用および外貨建資産の保管等に要する費用についても信託財産が負担するものとします。

※売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

（注）手数料等については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用（手数料等）の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

（５）【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

①個人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の譲渡益については、次の通り課税されます。

１．収益分配金の課税

普通分配金が配当所得として課税されます。元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。なお、確定申告を行い、総合課税（配当控除の適用があります。）・申告分離課税を選択することもできます。

２．解約時および償還時の課税

解約価額および償還価額から取得費（申込手数料（税込）を含みます。）を控除した利益（譲渡益）が譲渡所得とみなされて課税されます。

20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。

特定口座（源泉徴収選択口座）を利用する場合、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

解約時および償還時の損失（譲渡損）については、確定申告により収益分配金を含む上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限ります。）との損益通算が可能となる仕組みがあります。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に「NISA（少額投資非課税制

度）」の適用対象となります。ファンドは、NISAの対象ではありません。

②法人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、配当所得として15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。なお、益金不算入制度の適用はありません。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

※分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

◇個別元本について

- ①受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- ②受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。
- ③受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

◇収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、①当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、②当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

※上記は2025年2月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

（参考情報）ファンドの総経費率

直近の運用報告書作成対象期間（以下「当期間」といいます。）（2024年8月8日～2025年2月7日）における当ファンドの総経費率は以下の通りです。

	総経費率(①+②)	①運用管理費用の比率	②その他費用の比率
三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定型)	1.44%	1.43%	0.01%
三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定成長型)	1.55%	1.54%	0.01%
三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)	1.66%	1.65%	0.01%
三菱UFJ ライフ・バランスファンド(積極型)	1.77%	1.76%	0.01%

（比率は年率、表示桁数未満四捨五入）

※当期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として購入時手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。消費税等のかかるものは消費税等を含む。）を当期間の平均受益権口数に平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除しています。

詳細につきましては、当期間の運用報告書（全体版）をご覧ください。

【三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）】

（１）【投資状況】

2025年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	233,367,561	96.90
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	7,455,154	3.10
純資産総額		240,822,715	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位 30 銘柄

2025年 2月28日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマ ザーファンド	103,169,625	1.3461	138,879,469	1.3422	138,474,270	57.50
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマ ザーファンド	16,434,918	2.9625	48,688,445	2.8991	47,646,470	19.78
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマ ザーファンド	6,287,760	3.8819	24,409,009	3.8562	24,246,860	10.07
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマ ザーファンド	3,555,632	6.8464	24,343,279	6.4686	22,999,961	9.55

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2025年 2月28日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	96.90
合計	96.90

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

①【純資産の推移】

下記計算期間末日および2025年2月末日、同日前 1 年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)

第31計算期間末日	(2015年 8月 7日)	1,033,764,818	1,057,493,267	10,892	11,142
第32計算期間末日	(2016年 2月 8日)	990,731,059	990,731,059	10,399	10,399
第33計算期間末日	(2016年 8月 8日)	973,535,400	973,535,400	10,347	10,347
第34計算期間末日	(2017年 2月 7日)	976,712,892	990,669,420	10,497	10,647
第35計算期間末日	(2017年 8月 7日)	964,147,250	982,172,605	10,698	10,898
第36計算期間末日	(2018年 2月 7日)	957,404,072	975,122,716	10,807	11,007
第37計算期間末日	(2018年 8月 7日)	947,889,357	947,889,357	10,850	10,850
第38計算期間末日	(2019年 2月 7日)	707,472,109	707,472,109	10,598	10,598
第39計算期間末日	(2019年 8月 7日)	303,217,818	306,059,376	10,671	10,771
第40計算期間末日	(2020年 2月 7日)	295,622,385	301,010,638	10,973	11,173
第41計算期間末日	(2020年 8月 7日)	289,315,570	289,315,570	10,884	10,884
第42計算期間末日	(2021年 2月 8日)	275,533,973	281,669,689	11,227	11,477
第43計算期間末日	(2021年 8月10日)	264,761,443	268,248,228	11,390	11,540
第44計算期間末日	(2022年 2月 7日)	253,685,947	253,685,947	11,223	11,223
第45計算期間末日	(2022年 8月 8日)	255,548,934	256,684,963	11,247	11,297
第46計算期間末日	(2023年 2月 7日)	243,275,389	243,275,389	11,048	11,048
第47計算期間末日	(2023年 8月 7日)	248,749,316	250,899,975	11,566	11,666
第48計算期間末日	(2024年 2月 7日)	249,555,384	250,600,481	11,939	11,989
第49計算期間末日	(2024年 8月 7日)	237,850,271	237,850,271	11,532	11,532
第50計算期間末日	(2025年 2月 7日)	242,179,146	244,205,844	11,949	12,049
2024年 2月末日		251,930,049	—	12,107	—
3月末日		253,012,840	—	12,220	—
4月末日		250,869,022	—	12,096	—
5月末日		250,033,789	—	12,067	—
6月末日		251,836,151	—	12,240	—
7月末日		247,180,963	—	11,982	—
8月末日		244,244,670	—	11,820	—
9月末日		244,775,753	—	11,855	—
10月末日		248,259,942	—	12,036	—
11月末日		251,156,830	—	11,970	—
12月末日		250,013,647	—	12,125	—
2025年 1月末日		245,562,332	—	12,099	—
2月末日		240,822,715	—	11,801	—

②【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第31計算期間	250円
第32計算期間	0円
第33計算期間	0円
第34計算期間	150円
第35計算期間	200円
第36計算期間	200円

第37計算期間	0円
第38計算期間	0円
第39計算期間	100円
第40計算期間	200円
第41計算期間	0円
第42計算期間	250円
第43計算期間	150円
第44計算期間	0円
第45計算期間	50円
第46計算期間	0円
第47計算期間	100円
第48計算期間	50円
第49計算期間	0円
第50計算期間	100円

③【収益率の推移】

	収益率（％）
第31計算期間	4.82
第32計算期間	△4.52
第33計算期間	△0.50
第34計算期間	2.89
第35計算期間	3.82
第36計算期間	2.88
第37計算期間	0.39
第38計算期間	△2.32
第39計算期間	1.63
第40計算期間	4.70
第41計算期間	△0.81
第42計算期間	5.44
第43計算期間	2.78
第44計算期間	△1.46
第45計算期間	0.65
第46計算期間	△1.76
第47計算期間	5.59
第48計算期間	3.65
第49計算期間	△3.40
第50計算期間	4.48

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第31計算期間	26,913,348	27,516,401	949,137,991

第32計算期間	17,932,370	14,346,232	952,724,129
第33計算期間	9,032,487	20,825,494	940,931,122
第34計算期間	12,409,132	22,905,005	930,435,249
第35計算期間	11,440,130	40,607,586	901,267,793
第36計算期間	12,357,115	27,692,681	885,932,227
第37計算期間	12,904,303	25,223,478	873,613,052
第38計算期間	7,977,565	214,044,115	667,546,502
第39計算期間	6,209,764	389,600,449	284,155,817
第40計算期間	8,070,330	22,813,449	269,412,698
第41計算期間	9,814,732	13,421,543	265,805,887
第42計算期間	6,755,889	27,133,124	245,428,652
第43計算期間	9,261,037	22,237,309	232,452,380
第44計算期間	6,919,205	13,334,354	226,037,231
第45計算期間	10,147,442	8,978,844	227,205,829
第46計算期間	5,213,709	12,220,121	220,199,417
第47計算期間	4,092,330	9,225,751	215,065,996
第48計算期間	28,841,961	34,888,361	209,019,596
第49計算期間	4,263,900	7,037,626	206,245,870
第50計算期間	6,919,657	10,495,701	202,669,826

【三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）】

（１）【投資状況】

2025年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	177,360,628	97.52
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	4,512,651	2.48
純資産総額		181,873,279	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位 30 銘柄

2025年 2月28日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (％)
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマ ザーファンド	58,081,035	1.3461	78,183,249	1.3422	77,956,365	42.86
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマ ザーファンド	18,800,721	2.9625	55,697,136	2.8991	54,505,170	29.97
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマ ザーファンド	4,069,358	6.8464	27,860,453	6.4686	26,323,049	14.47
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマ ザーファンド	4,817,189	3.8800	18,690,961	3.8562	18,576,044	10.21

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2025年 2月28日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	97.52
合計	97.52

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

①【純資産の推移】

下記計算期間末日および2025年2月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

		純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
		(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第31計算期間末日	(2015年 8月 7日)	823,307,388	849,510,394	10,997	11,347
第32計算期間末日	(2016年 2月 8日)	749,920,510	749,920,510	10,169	10,169
第33計算期間末日	(2016年 8月 8日)	739,051,250	739,051,250	10,041	10,041
第34計算期間末日	(2017年 2月 7日)	750,303,141	768,433,949	10,346	10,596
第35計算期間末日	(2017年 8月 7日)	768,297,930	790,061,231	10,591	10,891
第36計算期間末日	(2018年 2月 7日)	776,637,519	794,607,295	10,805	11,055
第37計算期間末日	(2018年 8月 7日)	783,587,774	790,838,792	10,807	10,907
第38計算期間末日	(2019年 2月 7日)	661,620,948	661,620,948	10,374	10,374
第39計算期間末日	(2019年 8月 7日)	163,969,396	165,543,025	10,420	10,520
第40計算期間末日	(2020年 2月 7日)	163,262,604	168,506,790	10,896	11,246
第41計算期間末日	(2020年 8月 7日)	174,849,076	174,849,076	10,823	10,823
第42計算期間末日	(2021年 2月 8日)	172,204,819	177,486,747	11,411	11,761
第43計算期間末日	(2021年 8月10日)	171,408,011	175,099,485	11,608	11,858
第44計算期間末日	(2022年 2月 7日)	170,896,917	170,896,917	11,470	11,470
第45計算期間末日	(2022年 8月 8日)	179,896,114	180,672,041	11,592	11,642
第46計算期間末日	(2023年 2月 7日)	170,947,344	170,947,344	11,513	11,513
第47計算期間末日	(2023年 8月 7日)	183,998,942	185,487,444	12,361	12,461
第48計算期間末日	(2024年 2月 7日)	180,061,871	181,450,617	12,966	13,066
第49計算期間末日	(2024年 8月 7日)	183,801,537	183,801,537	12,459	12,459
第50計算期間末日	(2025年 2月 7日)	185,010,210	186,401,867	13,294	13,394
	2024年 2月末日	184,809,141	—	13,228	—
	3月末日	188,541,434	—	13,413	—
	4月末日	185,783,807	—	13,271	—

5月末日	188,107,344	—	13,304	—
6月末日	189,938,890	—	13,557	—
7月末日	194,600,848	—	13,192	—
8月末日	190,094,914	—	12,928	—
9月末日	190,449,282	—	12,969	—
10月末日	195,046,417	—	13,265	—
11月末日	194,357,829	—	13,210	—
12月末日	186,724,646	—	13,454	—
2025年 1月末日	187,388,179	—	13,456	—
2月末日	181,873,279	—	13,069	—

②【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第31計算期間	350円
第32計算期間	0円
第33計算期間	0円
第34計算期間	250円
第35計算期間	300円
第36計算期間	250円
第37計算期間	100円
第38計算期間	0円
第39計算期間	100円
第40計算期間	350円
第41計算期間	0円
第42計算期間	350円
第43計算期間	250円
第44計算期間	0円
第45計算期間	50円
第46計算期間	0円
第47計算期間	100円
第48計算期間	100円
第49計算期間	0円
第50計算期間	100円

③【収益率の推移】

	収益率（％）
第31計算期間	7.21
第32計算期間	△7.52
第33計算期間	△1.25
第34計算期間	5.52
第35計算期間	5.26
第36計算期間	4.38
第37計算期間	0.94

第38計算期間	△4.00
第39計算期間	1.40
第40計算期間	7.92
第41計算期間	△0.66
第42計算期間	8.66
第43計算期間	3.91
第44計算期間	△1.18
第45計算期間	1.49
第46計算期間	△0.68
第47計算期間	8.23
第48計算期間	5.70
第49計算期間	△3.91
第50計算期間	7.50

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第31計算期間	12,997,475	23,063,201	748,657,335
第32計算期間	10,038,681	21,252,681	737,443,335
第33計算期間	8,977,023	10,414,658	736,005,700
第34計算期間	4,941,178	15,714,555	725,232,323
第35計算期間	12,438,153	12,227,084	725,443,392
第36計算期間	16,896,680	23,548,995	718,791,077
第37計算期間	15,450,626	9,139,856	725,101,847
第38計算期間	105,046,948	192,393,515	637,755,280
第39計算期間	5,004,990	485,397,323	157,362,947
第40計算期間	5,582,328	13,111,378	149,833,897
第41計算期間	14,486,801	2,769,810	161,550,888
第42計算期間	6,045,033	16,683,684	150,912,237
第43計算期間	9,932,893	13,186,159	147,658,971
第44計算期間	10,887,016	9,548,979	148,997,008
第45計算期間	10,733,684	4,545,162	155,185,530
第46計算期間	5,485,319	12,193,307	148,477,542
第47計算期間	10,214,919	9,842,203	148,850,258
第48計算期間	5,953,542	15,929,183	138,874,617
第49計算期間	15,908,321	7,262,103	147,520,835
第50計算期間	2,238,718	10,593,786	139,165,767

【三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）】

（１）【投資状況】

2025年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	137,045,070	96.88
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	4,415,929	3.12
純資産総額		141,460,999	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位 30 銘柄

2025年 2月28日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマ ザーファンド	17,028,611	2.9625	50,447,261	2.8991	49,367,646	34.90
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマ ザーファンド	34,284,485	1.3460	46,149,765	1.3422	46,016,635	32.53
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマ ザーファンド	4,208,428	6.8464	28,812,582	6.4686	27,222,637	19.24
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマ ザーファンド	3,744,140	3.8799	14,527,176	3.8562	14,438,152	10.21

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2025年 2月28日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	96.88
合計	96.88

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

①【純資産の推移】

下記計算期間末日および2025年2月末日、同日前 1 年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

		純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
		(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第31計算期間末日	(2015年 8月 7日)	747,971,317	778,973,991	10,857	11,307
第32計算期間末日	(2016年 2月 8日)	662,251,629	662,251,629	9,814	9,814
第33計算期間末日	(2016年 8月 8日)	648,460,460	648,460,460	9,649	9,649
第34計算期間末日	(2017年 2月 7日)	677,252,262	687,209,219	10,203	10,353
第35計算期間末日	(2017年 8月 7日)	697,613,891	717,456,425	10,547	10,847

第36計算期間末日	(2018年 2月 7日)	706,071,638	725,659,775	10,814	11,114
第37計算期間末日	(2018年 8月 7日)	715,765,004	722,342,642	10,882	10,982
第38計算期間末日	(2019年 2月 7日)	490,726,582	490,726,582	10,344	10,344
第39計算期間末日	(2019年 8月 7日)	98,362,882	99,309,903	10,387	10,487
第40計算期間末日	(2020年 2月 7日)	99,267,035	103,334,788	10,982	11,432
第41計算期間末日	(2020年 8月 7日)	103,096,531	103,096,531	10,928	10,928
第42計算期間末日	(2021年 2月 8日)	102,903,691	106,874,519	11,662	12,112
第43計算期間末日	(2021年 8月10日)	106,131,549	108,800,910	11,928	12,228
第44計算期間末日	(2022年 2月 7日)	107,803,877	107,803,877	11,805	11,805
第45計算期間末日	(2022年 8月 8日)	107,744,546	108,646,026	11,952	12,052
第46計算期間末日	(2023年 2月 7日)	107,170,332	107,170,332	11,933	11,933
第47計算期間末日	(2023年 8月 7日)	106,476,357	107,707,693	12,971	13,121
第48計算期間末日	(2024年 2月 7日)	112,149,008	112,962,906	13,779	13,879
第49計算期間末日	(2024年 8月 7日)	123,707,346	123,707,346	13,204	13,204
第50計算期間末日	(2025年 2月 7日)	143,207,598	144,705,311	14,343	14,493
2024年 2月末日		115,294,987	—	14,118	—
3月末日		114,409,871	—	14,361	—
4月末日		112,587,975	—	14,209	—
5月末日		109,777,508	—	14,299	—
6月末日		135,293,853	—	14,614	—
7月末日		132,527,373	—	14,149	—
8月末日		129,452,354	—	13,800	—
9月末日		130,106,786	—	13,855	—
10月末日		136,737,742	—	14,266	—
11月末日		140,946,644	—	14,230	—
12月末日		141,724,421	—	14,544	—
2025年 1月末日		141,403,044	—	14,569	—
2月末日		141,460,999	—	14,048	—

②【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第31計算期間	450円
第32計算期間	0円
第33計算期間	0円
第34計算期間	150円
第35計算期間	300円
第36計算期間	300円
第37計算期間	100円
第38計算期間	0円
第39計算期間	100円
第40計算期間	450円
第41計算期間	0円

第42計算期間	450円
第43計算期間	300円
第44計算期間	0円
第45計算期間	100円
第46計算期間	0円
第47計算期間	150円
第48計算期間	100円
第49計算期間	0円
第50計算期間	150円

③【収益率の推移】

	収益率（％）
第31計算期間	8.66
第32計算期間	△9.60
第33計算期間	△1.68
第34計算期間	7.29
第35計算期間	6.31
第36計算期間	5.37
第37計算期間	1.55
第38計算期間	△4.94
第39計算期間	1.38
第40計算期間	10.06
第41計算期間	△0.49
第42計算期間	10.83
第43計算期間	4.85
第44計算期間	△1.03
第45計算期間	2.09
第46計算期間	△0.15
第47計算期間	9.95
第48計算期間	7.00
第49計算期間	△4.17
第50計算期間	9.76

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第31計算期間	10,210,370	14,503,013	688,948,318
第32計算期間	7,290,387	21,406,936	674,831,769
第33計算期間	2,327,772	5,113,578	672,045,963
第34計算期間	2,412,569	10,661,344	663,797,188
第35計算期間	3,663,458	6,042,819	661,417,827
第36計算期間	5,744,253	14,224,179	652,937,901

第37計算期間	8,309,664	3,483,712	657,763,853
第38計算期間	5,245,900	188,599,558	474,410,195
第39計算期間	2,024,006	381,732,035	94,702,166
第40計算期間	2,803,289	7,110,922	90,394,533
第41計算期間	5,087,043	1,140,186	94,341,390
第42計算期間	6,604,890	12,705,651	88,240,629
第43計算期間	5,175,480	4,437,381	88,978,728
第44計算期間	4,118,335	1,776,857	91,320,206
第45計算期間	1,945,384	3,117,563	90,148,027
第46計算期間	4,094,823	4,433,764	89,809,086
第47計算期間	2,349,685	10,069,652	82,089,119
第48計算期間	7,454,788	8,154,082	81,389,825
第49計算期間	21,146,031	8,843,308	93,692,548
第50計算期間	9,103,560	2,948,565	99,847,543

【三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）】

（１）【投資状況】

2025年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	267,601,678	96.88
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	8,611,696	3.12
純資産総額		276,213,374	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位30銘柄

2025年 2月28日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマ ザーファンド	38,165,713	2.9625	113,065,925	2.8991	110,646,218	40.06
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマ ザーファンド	56,646,079	1.3460	76,248,970	1.3422	76,030,367	27.53
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマ ザーファンド	10,313,708	6.8464	70,611,771	6.4686	66,715,251	24.15
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマ ザーファンド	3,684,934	3.8756	14,281,332	3.8562	14,209,842	5.14

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2025年 2月28日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	96.88

合計	96.88
----	-------

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

①【純資産の推移】

下記計算期間末日および2025年2月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第31計算期間末日 (2015年 8月 7日)	890,915,236	932,305,356	10,762	11,262
第32計算期間末日 (2016年 2月 8日)	778,784,459	778,784,459	9,540	9,540
第33計算期間末日 (2016年 8月 8日)	756,743,891	756,743,891	9,401	9,401
第34計算期間末日 (2017年 2月 7日)	794,879,874	802,725,466	10,132	10,232
第35計算期間末日 (2017年 8月 7日)	792,043,721	818,435,115	10,504	10,854
第36計算期間末日 (2018年 2月 7日)	814,370,072	840,709,357	10,821	11,171
第37計算期間末日 (2018年 8月 7日)	816,694,988	827,923,340	10,910	11,060
第38計算期間末日 (2019年 2月 7日)	578,404,188	578,404,188	10,263	10,263
第39計算期間末日 (2019年 8月 7日)	196,025,852	197,930,673	10,291	10,391
第40計算期間末日 (2020年 2月 7日)	204,691,848	213,979,375	11,020	11,520
第41計算期間末日 (2020年 8月 7日)	203,796,658	203,796,658	10,944	10,944
第42計算期間末日 (2021年 2月 8日)	218,511,650	227,729,372	11,853	12,353
第43計算期間末日 (2021年 8月10日)	209,161,239	215,173,856	12,175	12,525
第44計算期間末日 (2022年 2月 7日)	199,591,596	199,591,596	12,053	12,053
第45計算期間末日 (2022年 8月 8日)	206,621,323	208,309,029	12,243	12,343
第46計算期間末日 (2023年 2月 7日)	204,423,382	204,423,382	12,310	12,310
第47計算期間末日 (2023年 8月 7日)	216,405,134	218,798,079	13,565	13,715
第48計算期間末日 (2024年 2月 7日)	233,228,874	235,639,494	14,513	14,663
第49計算期間末日 (2024年 8月 7日)	243,590,864	243,590,864	13,816	13,816
第50計算期間末日 (2025年 2月 7日)	280,083,057	283,754,063	15,259	15,459
2024年 2月末日	247,071,941	—	14,920	—
3月末日	250,801,342	—	15,211	—
4月末日	248,594,335	—	15,028	—
5月末日	251,344,494	—	15,162	—
6月末日	277,294,449	—	15,530	—
7月末日	262,644,652	—	14,966	—
8月末日	271,619,301	—	14,553	—
9月末日	278,172,909	—	14,622	—

10月末日	287,856,511	—	15,121	—
11月末日	286,159,187	—	15,118	—
12月末日	285,590,183	—	15,482	—
2025年 1月末日	285,237,297	—	15,544	—
2月末日	276,213,374	—	14,893	—

②【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第31計算期間	500円
第32計算期間	0円
第33計算期間	0円
第34計算期間	100円
第35計算期間	350円
第36計算期間	350円
第37計算期間	150円
第38計算期間	0円
第39計算期間	100円
第40計算期間	500円
第41計算期間	0円
第42計算期間	500円
第43計算期間	350円
第44計算期間	0円
第45計算期間	100円
第46計算期間	0円
第47計算期間	150円
第48計算期間	150円
第49計算期間	0円
第50計算期間	200円

③【収益率の推移】

	収益率（％）
第31計算期間	10.03
第32計算期間	△11.35
第33計算期間	△1.45
第34計算期間	8.83
第35計算期間	7.12
第36計算期間	6.34
第37計算期間	2.20
第38計算期間	△5.93
第39計算期間	1.24
第40計算期間	11.94
第41計算期間	△0.68
第42計算期間	12.87

第43計算期間	5.66
第44計算期間	△1.00
第45計算期間	2.40
第46計算期間	0.54
第47計算期間	11.41
第48計算期間	8.09
第49計算期間	△4.80
第50計算期間	11.89

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第31計算期間	10,665,986	42,011,181	827,802,406
第32計算期間	19,002,710	30,472,501	816,332,615
第33計算期間	4,315,808	15,719,805	804,928,618
第34計算期間	3,377,676	23,747,033	784,559,261
第35計算期間	5,063,324	35,582,728	754,039,857
第36計算期間	19,639,364	21,128,208	752,551,013
第37計算期間	9,438,809	13,433,008	748,556,814
第38計算期間	7,944,650	192,898,678	563,602,786
第39計算期間	3,738,219	376,858,858	190,482,147
第40計算期間	5,415,473	10,147,064	185,750,556
第41計算期間	12,800,756	12,327,558	186,223,754
第42計算期間	10,640,439	12,509,739	184,354,454
第43計算期間	9,839,305	22,404,680	171,789,079
第44計算期間	10,884,458	17,080,239	165,593,298
第45計算期間	5,503,504	2,326,155	168,770,647
第46計算期間	4,950,497	7,662,950	166,058,194
第47計算期間	8,680,527	15,209,018	159,529,703
第48計算期間	9,936,368	8,758,006	160,708,065
第49計算期間	21,098,093	5,499,964	176,306,194
第50計算期間	15,116,315	7,872,160	183,550,349

（参考）

三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド

投資状況

2025年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
国債証券	日本	18,162,186,300	61.62
特殊債券	日本	588,393,000	2.00

社債券	日本	10,054,774,000	34.11
	イギリス	98,680,000	0.33
	小計	10,153,454,000	34.45
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	570,720,645	1.93
純資産総額		29,474,753,945	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

その他の資産の投資状況

2025年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	建別	国／地域	時価合計	投資比率（％）
債券先物取引	売建	日本	139,770,000	△0.47

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

2025年 2月28日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	利率 (%)	償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
日本	国債証券	第467回利付国債（2年）	1,520,000,000	99.67	1,515,044,800	99.69	1,515,409,600	0.600000	2026/12/1	5.14
日本	国債証券	第1275回国庫短期証券	1,300,000,000	99.97	1,299,621,200	99.97	1,299,737,400	—	2025/3/24	4.41
日本	国債証券	第17回利付国債（40年）	1,130,000,000	91.71	1,036,345,600	90.41	1,021,633,000	2.200000	2064/3/20	3.47
日本	国債証券	第1286回国庫短期証券	900,000,000	99.93	899,386,200	99.94	899,464,500	—	2025/5/12	3.05
日本	国債証券	第174回利付国債（5年）	650,000,000	98.51	640,321,500	98.73	641,790,500	0.700000	2029/9/20	2.18
日本	国債証券	第468回利付国債（2年）	630,000,000	99.64	627,732,000	99.67	627,946,200	0.600000	2027/1/1	2.13
日本	社債券	第11回ロイズ・バンキング・グループ期限前償還条項付	600,000,000	98.89	593,370,000	98.76	592,614,000	1.352000	2029/5/25	2.01
日本	国債証券	第170回利付国債（20年）	710,000,000	81.58	579,260,600	81.62	579,509,100	0.300000	2039/9/20	1.97
日本	国債証券	第183回利付国債（20年）	580,000,000	92.11	534,249,600	92.00	533,617,400	1.400000	2042/12/20	1.81
日本	国債証券	第1273回国庫短期証券	500,000,000	99.97	499,881,500	99.98	499,932,500	—	2025/3/17	1.70
日本	国債証券	第1278回国庫短期証券	500,000,000	99.96	499,827,000	99.96	499,849,000	—	2025/4/7	1.70
日本	国債証券	第77回利付国債（30年）	580,000,000	86.21	500,064,400	85.66	496,828,000	1.600000	2052/12/20	1.69
日本	社債券	第34回SBIホールディングス	500,000,000	99.27	496,385,000	99.31	496,565,000	0.950000	2026/6/5	1.68
日本	国債証券	第366回利付国債（10年）	500,000,000	93.71	468,585,000	93.99	469,955,000	0.200000	2032/3/20	1.59
日本	国債証券	第367回利付国債（10年）	500,000,000	93.32	466,605,000	93.60	468,015,000	0.200000	2032/6/20	1.59
日本	国債証券	第83回利付国債（30年）	440,000,000	97.90	430,782,000	97.14	427,433,600	2.200000	2054/6/20	1.45

日本	国債証券	第１７５回利付国債（５年）	400,000,000	99.30	397,222,500	99.54	398,164,000	0.900000	2029/12/20	1.35
日本	国債証券	第１６６回利付国債（２０年）	450,000,000	88.28	397,260,000	88.35	397,588,500	0.700000	2038/9/20	1.35
日本	社債券	第１４２回三菱地所（サステナビリティ）	400,000,000	97.68	390,748,000	97.74	390,976,000	0.430000	2028/5/2	1.33
日本	国債証券	第３７６回利付国債（１０年）	400,000,000	96.22	384,905,000	96.11	384,444,000	0.900000	2034/9/20	1.30
日本	国債証券	第８０回利付国債（３０年）	420,000,000	89.82	377,273,400	89.15	374,451,000	1.800000	2053/9/20	1.27
日本	国債証券	第８４回利付国債（３０年）	360,000,000	95.72	344,592,000	94.89	341,622,000	2.100000	2054/9/20	1.16
日本	国債証券	第６１回利付国債（３０年）	420,000,000	73.06	306,856,200	72.92	306,276,600	0.700000	2048/12/20	1.04
日本	国債証券	第１８６回利付国債（２０年）	330,000,000	92.91	306,603,000	92.73	306,015,600	1.500000	2043/9/20	1.04
日本	国債証券	第３７７回利付国債（１０年）	300,000,000	98.38	295,155,000	98.53	295,593,000	1.200000	2034/12/20	1.00
日本	特殊債券	第８６３号商工債券	300,000,000	98.18	294,564,000	98.23	294,714,000	0.220000	2027/4/27	1.00
日本	国債証券	第１６回利付国債（４０年）	390,000,000	70.66	275,577,900	69.48	270,999,300	1.300000	2063/3/20	0.92
日本	国債証券	第１０回利付国債（４０年）	400,000,000	67.77	271,096,000	66.61	266,452,000	0.900000	2057/3/20	0.90
日本	国債証券	第１６０回利付国債（２０年）	260,000,000	90.61	235,591,200	90.68	235,770,600	0.700000	2037/3/20	0.80
日本	国債証券	第５８回利付国債（３０年）	310,000,000	75.83	235,100,900	75.75	234,828,100	0.800000	2048/3/20	0.80

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2025年 2月28日現在

種類	投資比率（％）
国債証券	61.62
特殊債券	2.00
社債券	34.45
合計	98.06

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

2025年 2月28日現在

資産の種類	取引所名	資産の名称	建別	数量	通貨	簿価金額（円）	評価金額（円）	投資比率（％）
債券先物取引	大阪取引所	長期国債先物２５年０３月限	売建	1	円	139,380,000	139,770,000	△0.47

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該投資資産の評価金額の比率です。

三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド

投資状況

2025年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
-------	------	------	---------

株式	日本	8,046,131,180	98.09
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	156,631,003	1.91
純資産総額		8,202,762,183	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

2025年 2月28日現在

国／ 地域	種類	銘柄名	業種	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	株式	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	231,000	1,982.50	457,957,500	1,903.00	439,593,000	5.36
日本	株式	ソニーグループ	電気機器	100,100	3,857.00	386,085,700	3,739.00	374,273,900	4.56
日本	株式	楽天グループ	サービス業	363,900	998.40	363,317,760	920.70	335,042,730	4.08
日本	株式	りそなホールディングス	銀行業	275,400	1,191.50	328,139,100	1,164.00	320,565,600	3.91
日本	株式	川崎重工業	輸送用機器	41,300	7,553.00	311,938,900	7,490.00	309,337,000	3.77
日本	株式	日立製作所	電気機器	68,700	4,420.00	303,654,000	3,750.00	257,625,000	3.14
日本	株式	ソフトバンクグループ	情報・通信業	30,100	9,806.00	295,160,600	8,273.00	249,017,300	3.04
日本	株式	サイバーエージェント	サービス業	213,400	1,179.00	251,598,600	1,114.00	237,727,600	2.90
日本	株式	ノーリツ鋼機	精密機器	51,000	4,695.66	239,479,136	4,480.00	228,480,000	2.79
日本	株式	FOOD & LIFE COMPANY	小売業	51,200	4,200.00	215,040,000	4,100.00	209,920,000	2.56
日本	株式	富士通	電気機器	70,100	3,102.00	217,450,200	2,879.00	201,817,900	2.46
日本	株式	カブコン	情報・通信業	53,700	3,822.00	205,241,400	3,701.00	198,743,700	2.42
日本	株式	ディー・エヌ・エー	サービス業	44,000	3,594.00	158,136,000	3,985.00	175,340,000	2.14
日本	株式	自重堂	繊維製品	17,800	9,460.00	168,388,000	9,560.00	170,168,000	2.07
日本	株式	東京海上ホールディングス	保険業	31,100	5,168.00	160,724,800	5,297.00	164,736,700	2.01
日本	株式	大阪ソーダ	化学	117,100	1,426.00	166,984,600	1,397.00	163,588,700	1.99
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	59,000	2,773.50	163,636,500	2,689.00	158,651,000	1.93
日本	株式	日本電設工業	建設業	74,500	2,122.00	158,089,000	2,103.00	156,673,500	1.91
日本	株式	古河電気工業	非鉄金属	24,800	7,039.00	174,567,200	6,218.00	154,206,400	1.88
日本	株式	第一三共	医薬品	44,300	3,637.00	161,119,100	3,447.00	152,702,100	1.86
日本	株式	セレンディップ・ホールディングス	輸送用機器	84,800	1,757.00	148,993,600	1,750.00	148,400,000	1.81
日本	株式	ルネサスエレクトロニクス	電気機器	57,900	2,509.50	145,300,050	2,464.50	142,694,550	1.74
日本	株式	ジーエス・ユアサコーポレーション	電気機器	58,100	2,444.00	141,996,400	2,378.50	138,190,850	1.68
日本	株式	岡部	金属製品	166,600	809.00	134,779,400	815.00	135,779,000	1.66
日本	株式	東京エレクトロン	電気機器	5,800	24,790.00	143,782,000	22,125.00	128,325,000	1.56
日本	株式	前田工繊	その他製品	70,800	1,850.00	130,980,000	1,806.00	127,864,800	1.56
日本	株式	西松建設	建設業	25,200	4,906.00	123,631,200	4,896.00	123,379,200	1.50
日本	株式	三菱商事	卸売業	48,900	2,417.50	118,215,750	2,496.50	122,078,850	1.49
日本	株式	日本シイエムケイ	電気機器	265,400	507.00	134,557,800	459.00	121,818,600	1.49

日本	株式	東洋水産	食料品	13,600	8,564.00	116,470,400	8,890.00	120,904,000	1.47
----	----	------	-----	--------	----------	-------------	----------	-------------	------

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2025年 2月28日現在

種類	業種	投資比率（％）
株式	建設業	3.41
	食料品	1.47
	繊維製品	2.07
	化学	1.99
	医薬品	1.86
	鉄鋼	0.63
	非鉄金属	1.88
	金属製品	1.66
	機械	3.72
	電気機器	23.78
	輸送用機器	7.51
	精密機器	3.99
	その他製品	2.88
	陸運業	1.30
	情報・通信業	7.38
	卸売業	3.83
	小売業	3.88
	銀行業	9.27
	保険業	3.90
	不動産業	1.86
	サービス業	9.80
小計		98.09
合計		98.09

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド

投資状況

2025年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
国債証券	アメリカ	17,370,564,262	37.03
	中国	4,364,175,515	9.30

	イタリア		3,529,900,981	7.53
	イギリス		2,598,096,650	5.54
	フランス		2,393,774,620	5.10
	スペイン		2,266,815,914	4.83
	ポーランド		1,861,411,173	3.97
	ドイツ		971,946,484	2.07
	カナダ		836,959,667	1.78
	ノルウェー		609,034,941	1.30
	スウェーデン		562,887,559	1.20
	メキシコ		353,266,398	0.75
	マレーシア		265,433,991	0.57
	ニュージーランド		174,506,117	0.37
	シンガポール		173,105,808	0.37
	ベルギー		154,615,441	0.33
	オランダ		154,281,290	0.33
	イスラエル		104,344,938	0.22
	オーストラリア		96,082,838	0.20
	アイルランド		39,657,332	0.08
	ポルトガル		14,569,427	0.03
	小計		38,895,431,346	82.93
特殊債券		アメリカ	6,756,778,958	14.41
社債券		アメリカ	152,141,156	0.32
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）		—	1,099,478,552	2.34
純資産総額			46,903,830,012	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

2025年 2月28日現在

国／ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	利率 (%)	償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
アメリカ	国債証券	4.375 T-NOTE 280831	25,000,000	14,955.02	3,738,756,600	15,115.20	3,778,802,081	4.375000	2028/8/31	8.06
アメリカ	国債証券	4 T-NOTE 310131	20,500,000	14,723.78	3,018,376,181	14,853.87	3,045,043,469	4.000000	2031/1/31	6.49
イタリア	国債証券	4.4 ITALY GOVT 330501	12,300,000	17,016.46	2,093,024,769	16,857.14	2,073,428,692	4.400000	2033/5/1	4.42
アメリカ	国債証券	1.875 T-NOTE 290228	15,000,000	13,606.49	2,040,974,955	13,760.87	2,064,130,535	1.875000	2029/2/28	4.40
中国	国債証券	2.62 CHINA GOVT 290925	93,000,000	2,159.52	2,008,355,645	2,142.28	1,992,324,092	2.620000	2029/9/25	4.25
中国	国債証券	2.67 CHINA GOVT 330525	65,000,000	2,199.08	1,429,408,151	2,192.70	1,425,260,405	2.670000	2033/5/25	3.04
アメリカ	国債証券	3.5 T-NOTE 330215	10,000,000	14,007.00	1,400,700,727	14,245.25	1,424,525,145	3.500000	2033/2/15	3.04
アメリカ	国債証券	4.125 T-NOTE 291031	9,000,000	14,749.97	1,327,498,065	14,989.80	1,349,082,119	4.125000	2029/10/31	2.88

アメリカ	国債証券	4.25 T-NOTE 341115	8,500,000	14,655.68	1,245,733,344	14,937.76	1,269,710,251	4.250000	2034/11/15	2.71
アメリカ	特殊債券	0.875 IBRD 300514	10,000,000	12,500.43	1,250,043,511	12,671.74	1,267,174,844	0.875000	2030/5/14	2.70
ポーランド	国債証券	2.75 POLAND 291025	36,500,000	3,323.98	1,213,252,817	3,338.36	1,218,502,728	2.750000	2029/10/25	2.60
アメリカ	国債証券	4.125 T-NOTE 310731	8,000,000	14,802.36	1,184,189,040	14,932.21	1,194,577,072	4.125000	2031/7/31	2.55
アメリカ	国債証券	4.5 T-BOND 541115	7,000,000	14,402.55	1,008,178,757	14,814.99	1,037,049,398	4.500000	2054/11/15	2.21
フランス	国債証券	3.25 O.A.T 450525	6,700,000	14,648.15	981,426,150	14,939.10	1,000,919,804	3.250000	2045/5/25	2.13
スペイン	国債証券	3.45 SPAIN GOVT 430730	6,000,000	15,697.65	941,859,279	15,284.10	917,046,105	3.450000	2043/7/30	1.96
スペイン	国債証券	0.8 SPAIN GOVT 290730	6,300,000	14,437.85	909,584,696	14,472.67	911,778,278	0.800000	2029/7/30	1.94
アメリカ	特殊債券	6 G2 MA9966 5410 MA9966	5,931,208.26	15,133.13	897,577,675	15,188.35	900,852,853	6.000000	2054/10/20	1.92
アメリカ	特殊債券	6 G2 MA9852 5408 MA9852	5,901,353.46	15,115.17	891,999,802	15,179.25	895,781,753	6.000000	2054/8/20	1.91
アメリカ	特殊債券	5.5 G2 MA996 5410 MA9965	5,936,682.54	14,944.54	887,210,460	15,008.61	891,013,905	5.500000	2054/10/20	1.90
アメリカ	特殊債券	6 G2 MA9780 5407 MA9780	5,851,813.86	15,118.16	884,686,973	15,179.25	888,261,886	6.000000	2054/7/20	1.89
アメリカ	国債証券	3.625 T-NOTE 300331	6,000,000	14,512.00	870,720,192	14,635.79	878,147,796	3.625000	2030/3/31	1.87
イタリア	国債証券	4.5 ITALY GOVT 531001	5,300,000	16,828.89	891,931,410	16,473.71	873,106,859	4.500000	2053/10/1	1.86
フランス	国債証券	3.25 O.A.T 550525	5,400,000	14,653.54	791,291,259	14,223.65	768,077,248	3.250000	2055/5/25	1.64
イギリス	国債証券	4.625 GILT 340131	4,000,000	19,192.17	767,686,971	19,055.41	762,216,510	4.625000	2034/1/31	1.63
アメリカ	国債証券	3.125 T-BOND 440815	6,000,000	11,889.85	713,391,296	12,082.63	724,958,219	3.125000	2044/8/15	1.55
中国	国債証券	3.19 CHINA GOVT 530415	25,000,000	2,546.51	636,628,992	2,551.28	637,820,633	3.190000	2053/4/15	1.36
ドイツ	国債証券	2.5 BUND 540815	4,200,000	15,279.04	641,719,918	14,931.54	627,124,981	2.500000	2054/8/15	1.34
フランス	国債証券	3.2 O.A.T 350525	4,000,000	15,619.43	624,777,568	15,619.43	624,777,568	3.200000	2035/5/25	1.33
イギリス	国債証券	0.625 GILT 350731	4,800,000	12,837.72	616,210,951	12,802.40	614,515,583	0.625000	2035/7/31	1.31
イタリア	国債証券	0.25 ITALY GOVT 280315	4,000,000	14,509.31	580,372,440	14,584.13	583,365,430	0.250000	2028/3/15	1.24

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2025年 2月28日現在

種類	投資比率（％）
国債証券	82.93
特殊債券	14.41
社債券	0.32
合計	97.66

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド

投資状況

2025年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
株式	アメリカ	9,231,656,642	73.55
	イギリス	557,448,221	4.44
	フランス	555,391,768	4.43
	カナダ	392,002,819	3.12
	スイス	343,556,047	2.74
	香港	211,709,190	1.69
	スペイン	157,696,243	1.26
	オーストラリア	104,977,233	0.84
	デンマーク	60,326,093	0.48
小計		11,614,764,256	92.54
投資証券	アメリカ	150,953,569	1.20
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	785,417,041	6.26
純資産総額		12,551,134,866	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

2025年 2月28日現在

国／ 地域	種類	銘柄名	業種	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
アメリカ	株式	APPLE INC	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	18,888	36,396.82	687,463,323	35,516.69	670,839,259	5.34
アメリカ	株式	META PLATFORMS INC-CLASS A	メディア・娯楽	5,210	92,847.78	483,736,957	98,518.78	513,282,848	4.09
アメリカ	株式	NVIDIA CORP	半導体・半導体製造装置	25,039	20,093.19	503,113,573	17,982.85	450,272,594	3.59
アメリカ	株式	MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	7,265	66,942.90	486,340,175	58,749.96	426,818,496	3.40
アメリカ	株式	TESLA INC	自動車・自動車部品	9,588	64,767.62	620,992,025	42,199.45	404,608,389	3.22
アメリカ	株式	CHEVRON CORP	エネルギー	16,307	22,957.88	374,374,171	23,448.79	382,379,564	3.05
アメリカ	株式	UBER TECHNOLOGIES INC	運輸	34,013	8,969.72	305,087,192	11,107.01	377,782,755	3.01
アメリカ	株式	SOFI TECHNOLOGIES INC	金融サービス	163,952	2,432.13	398,753,807	2,105.85	345,259,450	2.75
アメリカ	株式	CHUBB LTD	保険	7,341	41,036.40	301,248,240	42,160.54	309,500,541	2.47
アメリカ	株式	HEICO CORP-CLASS A	資本財	9,867	30,040.26	296,407,302	31,065.50	306,523,340	2.44
イギリス	株式	IMPERIAL BRANDS PLC	食品・飲料・タバコ	51,882	4,957.29	257,194,535	5,256.06	272,695,299	2.17
アメリカ	株式	PFIZER INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	68,323	3,863.93	263,995,404	3,906.38	266,896,079	2.13

アメリカ	株式	GOLDMAN SACHS GROUP INC	金融サービス	2,675	87,628.79	234,407,018	90,999.36	243,423,288	1.94
アメリカ	株式	AMAZON.COM INC	一般消費財・サービス流通・小売り	7,743	34,043.93	263,602,214	31,242.11	241,907,703	1.93
アメリカ	株式	AMERICAN EXPRESS CO	金融サービス	5,337	45,221.29	241,346,045	44,032.91	235,003,662	1.87
アメリカ	株式	VERTEX PHARMACEUTICALS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	3,111	69,406.46	215,923,525	71,018.41	220,938,289	1.76
香港	株式	TENCENT HOLDINGS LTD	メディア・娯楽	22,200	7,888.65	175,128,030	9,536.45	211,709,190	1.69
フランス	株式	HERMES INTERNATIONAL	耐久消費財・アパレル	481	353,834.39	170,194,346	422,298.39	203,125,530	1.62
アメリカ	株式	HIMS & HERS HEALTH INC	ヘルスケア機器・サービス	30,963	4,855.84	150,351,471	6,187.35	191,579,159	1.53
アメリカ	株式	ROOT INC/OH -CLASS A	保険	9,948	12,324.18	122,600,943	18,551.59	184,551,282	1.47
スイス	株式	PARTNERS GROUP HOLDING AG	金融サービス	834	210,425.44	175,494,821	219,328.38	182,919,869	1.46
フランス	株式	DANONE	食品・飲料・タバコ	16,927	10,151.34	171,831,800	10,646.15	180,207,415	1.44
アメリカ	株式	TWILIO INC - A	ソフトウェア・サービス	10,222	17,771.68	181,662,148	17,547.31	179,368,611	1.43
フランス	株式	THALES SA	資本財	5,722	21,472.79	122,867,361	30,069.69	172,058,823	1.37
アメリカ	株式	INMODE LTD	ヘルスケア機器・サービス	60,912	2,732.97	166,470,924	2,779.37	169,297,101	1.35
アメリカ	株式	PAYPAL HOLDINGS INC	金融サービス	15,605	12,823.11	200,104,716	10,586.15	165,197,013	1.32
スイス	株式	ACCELERON INDUSTRIES AG	資本財	22,314	7,675.51	171,271,521	7,198.89	160,636,178	1.28
アメリカ	株式	CREDO TECHNOLOGY GROUP HOLDI	半導体・半導体製造装置	20,360	11,715.02	238,517,981	7,872.64	160,286,991	1.28
アメリカ	株式	COTY INC-CL A	家庭用品・パーソナル用品	185,176	1,122.52	207,864,690	856.11	158,531,470	1.26
スペイン	株式	IBERDROLA SA	公益事業	73,440	2,044.58	150,154,249	2,147.27	157,696,243	1.26

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2025年 2月28日現在

種類	業種	投資比率（％）
株式	エネルギー	3.86
	素材	1.70
	資本財	6.93
	運輸	3.99
	自動車・自動車部品	3.38
	耐久消費財・アパレル	1.62
	消費者サービス	2.08
	メディア・娯楽	5.78
	一般消費財・サービス流通・小売り	3.51
	生活必需品流通・小売り	2.36
	食品・飲料・タバコ	4.54

	家庭用品・パーソナル用品	1.26
	ヘルスケア機器・サービス	3.09
	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	6.97
	銀行	1.17
	金融サービス	10.56
	保険	6.26
	ソフトウェア・サービス	6.03
	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5.34
	電気通信サービス	1.24
	公益事業	2.40
	半導体・半導体製造装置	8.05
	不動産管理・開発	0.40
	小計	92.54
投資証券	—	1.20
合計		93.74

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

《参考情報》

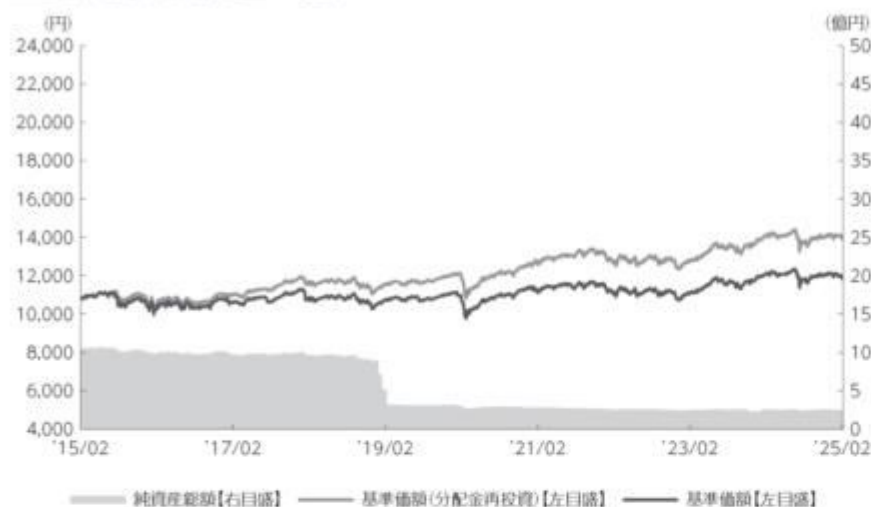


運用実績

2025年2月28日現在

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定型)

■基準価額・純資産の推移 2015年2月27日～2025年2月28日



- ・基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	11,801円
純資産総額	2.4億円

・純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2025年2月	100円
2024年8月	0円
2024年2月	50円
2023年8月	100円
2023年2月	0円
2022年8月	50円
設定来累計	3,000円

・分配金は1万口当たり、税引前

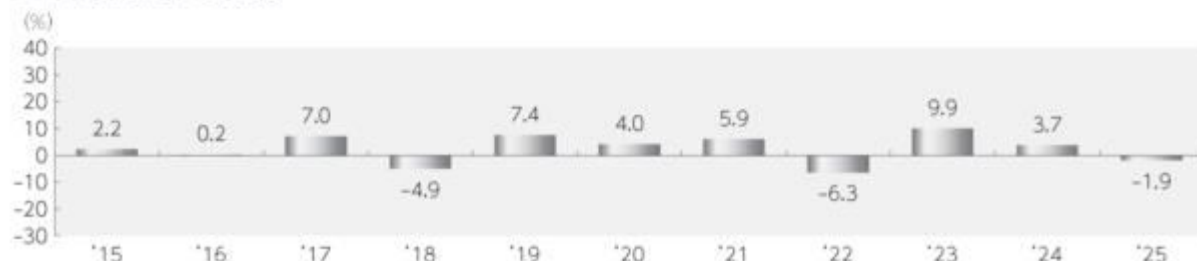
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種／種別	国・地域	比率
国内株式	19.4%	1 円	80.8%	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	銀行業	日本	1.1%
国内債券	56.4%	2 アメリカドル	12.7%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	0.9%
外国株式	9.0%	3 ユーロ	2.6%	楽天グループ	株式	サービス業	日本	0.8%
外国債券	9.8%	4 イギリスポンド	1.0%	リソナホールディングス	株式	銀行業	日本	0.8%
		5 中国元	0.9%	川崎重工業	株式	輸送用機器	日本	0.7%
		6 カナダドル	0.5%	第467回利付国債(2年)	債券	国債	日本	3.0%
		7 ポーランドズロチ	0.4%	第1275回国庫短期証券	債券	国債	日本	2.5%
		8 スイスフラン	0.3%	第17回利付国債(40年)	債券	国債	日本	2.0%
コールローン他 (負債控除後)	5.4%	9 香港ドル	0.2%	第1286回国庫短期証券	債券	国債	日本	1.8%
合計	100.0%	10 ノルウェークローネ	0.1%	第174回利付国債(5年)	債券	国債	日本	1.3%

其他資産の状況	比率
債券先物取引（売建）	-0.3%

- ・各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- ・投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- ・コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- ・国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- ・「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移

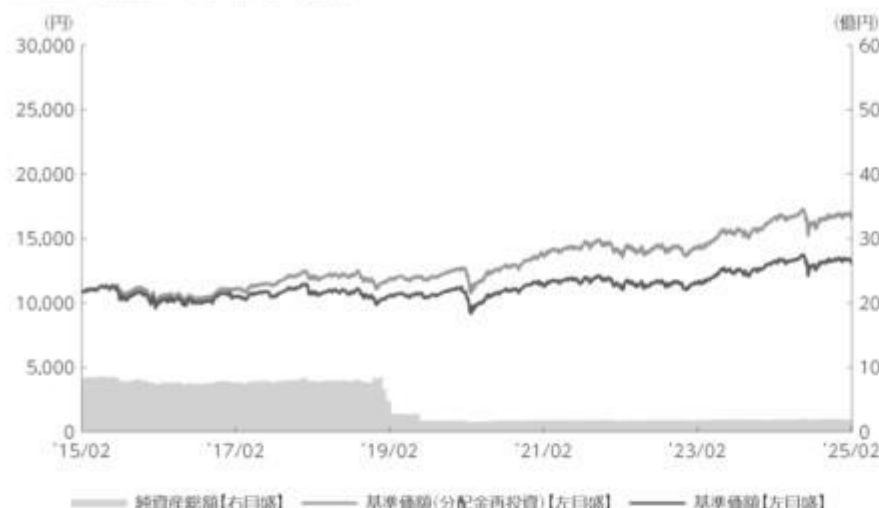


- ・収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- ・2025年は年初から2月28日までの収益率を表示

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定成長型)

■基準価額・純資産の推移 2015年2月27日～2025年2月28日



- ・基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	13,069円
純資産総額	1.8億円

・純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2025年2月	100円
2024年8月	0円
2024年2月	100円
2023年8月	100円
2023年2月	0円
2022年8月	50円
設定来累計	3,550円

・分配金は1万口当たり、税引前

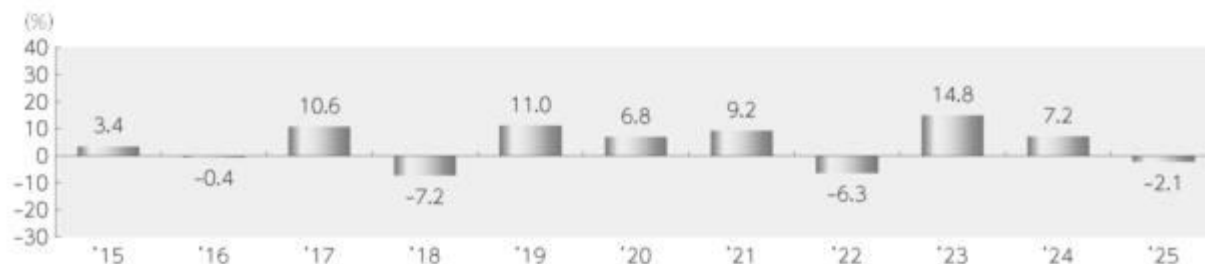
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種／種別	国・地域	比率
国内株式	29.4%	1 円	75.9%	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	銀行業	日本	1.6%
国内債券	42.0%	2 アメリカドル	16.6%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	1.4%
外国株式	13.6%	3 ユーロ	2.9%	楽天グループ	株式	サービス業	日本	1.2%
外国債券	10.0%	4 イギリスポンド	1.2%	リソナホールディングス	株式	銀行業	日本	1.2%
		5 中国元	1.0%	川崎重工業	株式	輸送用機器	日本	1.1%
		6 カナダドル	0.6%	第467回利付国債(2年)	債券	国債	日本	2.2%
		7 ポーランドズロチ	0.4%	第1275回国庫短期証券	債券	国債	日本	1.9%
		8 スイスフラン	0.4%	第17回利付国債(40年)	債券	国債	日本	1.5%
コールローン他 (負債控除後)	5.0%	9 香港ドル	0.2%	第1286回国庫短期証券	債券	国債	日本	1.3%
合計	100.0%	10 オーストラリアドル	0.1%	第174回利付国債(5年)	債券	国債	日本	0.9%

その他資産の状況	比率
債券先物取引(売建)	-0.2%

- ・各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- ・投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- ・コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- ・国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- ・「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移

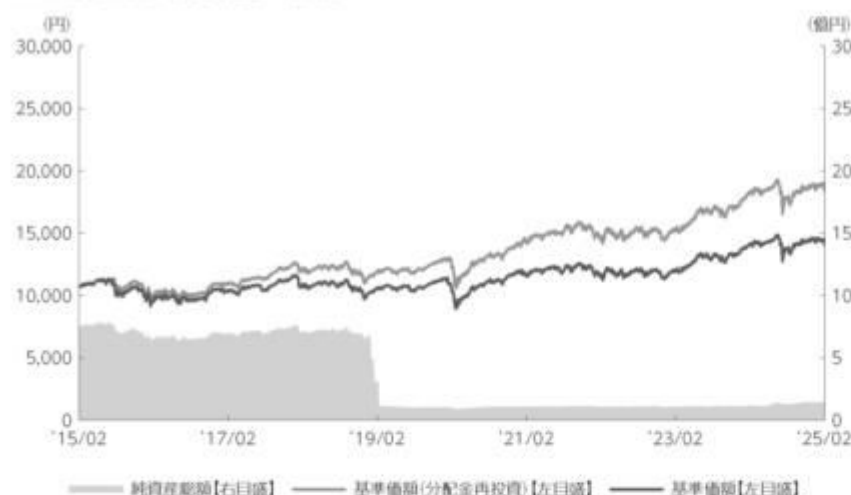


- ・収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- ・2025年は年初から2月28日までの収益率を表示

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)

■基準価額・純資産の推移 2015年2月27日～2025年2月28日



- ・基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	14,048円
純資産総額	1.4億円

・純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2025年2月	150円
2024年8月	0円
2024年2月	100円
2023年8月	150円
2023年2月	0円
2022年8月	100円
設定来累計	3,950円

・分配金は1万口当たり、税引前

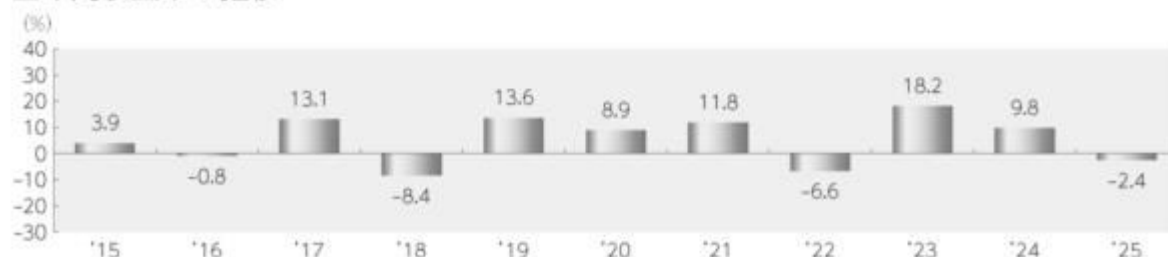
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種／種別	国・地域	比率
国内株式	34.2%	1 円	71.3%	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	銀行業	日本	1.9%
国内債券	31.9%	2 アメリカドル	20.3%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	1.6%
外国株式	18.0%	3 ユーロ	3.2%	楽天グループ	株式	サービス業	日本	1.4%
外国債券	10.0%	4 イギリスポンド	1.4%	りそなホールディングス	株式	銀行業	日本	1.4%
		5 中国元	1.0%	川崎重工業	株式	輸送用機器	日本	1.3%
		6 カナダドル	0.8%	第467回利付国債(2年)	債券	国債	日本	1.7%
		7 スイスフラン	0.5%	第1275回国庫短期証券	債券	国債	日本	1.4%
		8 ポーランドズロチ	0.4%	第17回利付国債(40年)	債券	国債	日本	1.1%
コールローン他 (負債控除後)	5.9%	9 香港ドル	0.3%	第1286回国庫短期証券	債券	国債	日本	1.0%
合計	100.0%	10 オーストラリアドル	0.2%	4.375 T-NOTE 280831	債券	国債	アメリカ	0.8%

その他資産の状況	比率
債券先物取引（売建）	-0.2%

- ・各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- ・投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- ・コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- ・国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- ・「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移

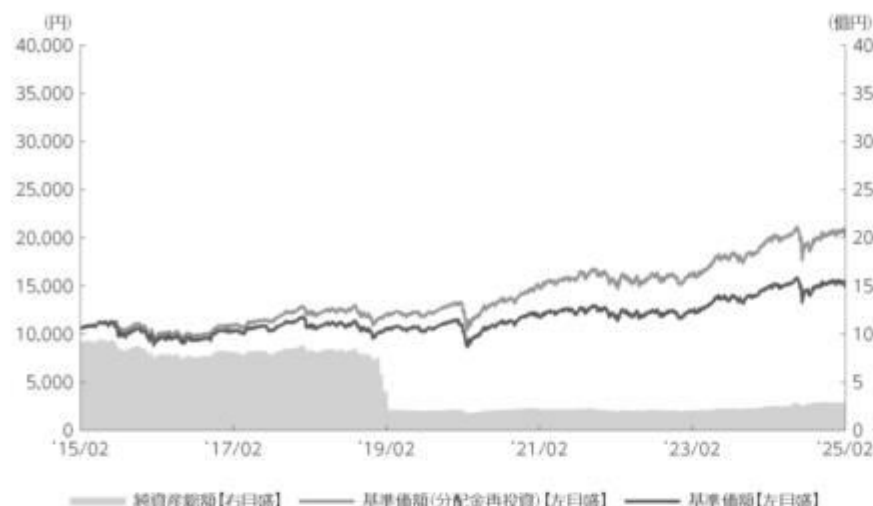


- ・収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- ・2025年は年初から2月28日までの収益率を表示

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(積極型)

■基準価額・純資産の推移 2015年2月27日～2025年2月28日



●基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
●基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	14,893円
純資産総額	2.7億円

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2025年2月	200円
2024年8月	0円
2024年2月	150円
2023年8月	150円
2023年2月	0円
2022年8月	100円
設定来累計	3,900円

●分配金は1万口当たり、税引前

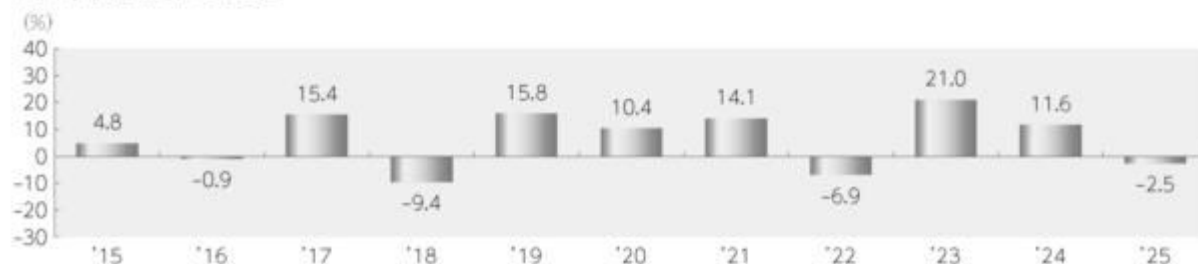
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種/種別	国・地域	比率
国内株式	39.3%	1 円	71.6%	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	銀行業	日本	2.1%
国内債券	27.0%	2 アメリカドル	21.4%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	1.8%
外国株式	22.6%	3 ユーロ	2.4%	楽天グループ	株式	サービス業	日本	1.6%
外国債券	5.0%	4 イギリスポンド	1.4%	りそなホールディングス	株式	銀行業	日本	1.6%
		5 カナダドル	0.8%	川崎重工業	株式	輸送用機器	日本	1.5%
		6 スイスフラン	0.7%	第467回利付国債(2年)	債券	国債	日本	1.4%
		7 中国元	0.5%	第1275回国庫短期証券	債券	国債	日本	1.2%
		8 香港ドル	0.4%	第17回利付国債(40年)	債券	国債	日本	1.0%
コールローン他 (負債控除後)	6.1%	9 オーストラリアドル	0.2%	第1286回国庫短期証券	債券	国債	日本	0.8%
合計	100.0%	10 ポーランドズロチ	0.2%	第174回利付国債(5年)	債券	国債	日本	0.6%

その他資産の状況	比率
債券先物取引(売建)	-0.1%

●各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
●投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
●コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
●国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
●「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移



●収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
●2025年は年初から2月28日までの収益率を表示

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

第2【管理及び運営】

1【申込(販売) 手続等】

①申込みの受付

原則として、いつでも申込みができます。

取得申込者の受益権は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されます。

②申込単位

販売会社が定める単位

③申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額

④申込価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

⑤申込単位・申込価額の照会方法

申込単位および申込価額は、販売会社にてご確認ください。

また、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00）

なお、申込価額は委託会社のホームページでもご覧いただけます。

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

⑥申込手数料

申込価額（発行価格）×2.2%（税抜 2%）を上限として販売会社が定める手数料率

申込みには分配金受取コース（一般コース）と分配金再投資コース（累積投資コース）があり、分配金再投資コース（累積投資コース）の場合、再投資される収益分配金については、申込手数料はかかりません。

スイッチングの際には申込手数料はかかりません。

⑦申込方法

取得申込者は、販売会社取引口座を開設のうえ、申込みを行うものとします。

取得申込者は、申込金額および申込手数料（税込）を販売会社が定める日までに支払うものとします。

なお、申込みには分配金受取コース（一般コース）と分配金再投資コース（累積投資コース）があります。申込みコースの取扱いには販売会社により異なる場合があります。

⑧申込受付時間

取得の申込みは、申込期間において、原則として販売会社の営業日の午後3時30分までに、販売会社所定の方法で行われます。取得申込みが行われ、かつ当該取得申込みに係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。当該時刻を過ぎての申込みに関しては販売会社にご確認ください。なお、販売会社によっては、上記より早い時刻に取得申込みを締め切ることとしている場合があります。詳しくは販売会社にご確認ください。

⑨取得申込みの受付の中止および取消し

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受付を中止することおよびすでに受け付けた取得申込みの受付を取り消すことがあります。

※申込（販売）手続等の詳細に関しては販売会社にご確認ください。

2【換金（解約）手続等】**①解約の受付**

原則として、いつでも解約の請求ができます。

受益者の解約請求に係る受益権の口数の減少は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されます。

②解約単位

販売会社が定める単位（ただし、1万口を上回らないものとします。）

なお、分配金再投資コース（累積投資コース）の場合等は1口単位

③解約価額

解約請求受付日の翌営業日の基準価額

④信託財産留保額

ありません。

⑤解約価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

⑥解約価額の照会方法

解約価額は、販売会社にてご確認ください。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00）

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

⑦支払開始日

解約代金は、原則として解約請求受付日から起算して5営業日目から販売会社において支払います。

⑧解約請求受付時間

解約の請求は、原則として販売会社の営業日の午後3時30分までに、販売会社所定の方法で行われます。解約請求が行われ、かつ当該換金請求に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。当該時刻を過ぎての請求に関しては販売会社にご確認ください。なお、販売会社によっては、上記より早い時刻に解約請求を締め切ることとしている場合があります。詳しくは販売会社にご確認ください。

⑨解約請求受付の中止および取消し

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することおよびすでに受け付けた解約請求を取り消すことがあります。その場合には、受益者は、当該受付中止以前に行った当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に解約請求を受け付けたものとします。

また、市況動向等により、大口の解約請求に制限を設ける場合があります。

※換金（解約）手続等の詳細に関しては販売会社にご確認ください。

3【資産管理等の概要】

（1）【資産の評価】

①基準価額の算出方法

基準価額＝信託財産の純資産総額÷受益権総口数

なお、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示することがあります。

「信託財産の純資産総額」とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。

（資産の評価方法）

・株式／上場投資信託証券／不動産投資信託証券

原則として、金融商品取引所における計算日の最終相場（外国で取引されているものについては、原則として、金融商品取引所における計算時に知りうる直近の日の最終相場）で評価します。

- ・ 転換社債／転換社債型新株予約権付社債

原則として、金融商品取引所における計算日の最終相場、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額（外国で取引されているものについては、原則として、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額）で評価します。

- ・ 公社債等

原則として、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額で評価します。

残存期間1年以内の公社債等については、一部償却原価法による評価を適用することができます。

- ・ マザーファンド

計算日における基準価額で評価します。

- ・ 投資信託証券（上場投資信託証券／不動産投資信託証券を除く。）

原則として、計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。

- ・ 外貨建資産

原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値により円換算します。

- ・ 外国為替予約取引

原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値により評価します。

- ・ 市場デリバティブ取引

原則として、金融商品取引所が発表する計算日の清算値段等で評価します。

②基準価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

③基準価額の照会方法

基準価額は、販売会社にてご確認いただけます。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00）

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

（2）【保管】

該当事項はありません。

（3）【信託期間】

無期限（2000年2月8日設定）

ただし、後記「ファンドの償還条件等」の規定によりファンドを償還させることがあります。

（4）【計算期間】

毎年2月8日から8月7日および8月8日から翌年2月7日まで

ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日の場合、各計

算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。
なお、最終計算期間の終了日は、ファンドの信託期間の終了日とします。

（５）【その他】

①ファンドの償還条件等

委託会社は、以下の場合には、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、ファンドを償還させることができます。（任意償還）

- ・各ファンドについて、受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合
- ・信託期間中において、ファンドを償還させることが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したとき

このほか、監督官庁よりファンドの償還の命令を受けたとき、委託会社の登録取消・解散・業務廃止のときは、原則として、ファンドを償還させます。

委託会社は、ファンドを償還しようとするときは、あらかじめその旨を監督官庁に届け出ます。

②信託約款の変更

委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することができます。委託会社は、信託約款を変更しようとするときは、あらかじめその旨を監督官庁に届け出ます。

委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、上記の手続きにしたがいます。

③ファンドの償還等に関する開示方法

委託会社は、ファンドの任意償還または信託約款の変更のうち重大な内容の変更を行おうとする場合、あらかじめその旨およびその内容を公告し、かつ、原則としてこれらの事項を記載した書面を受益者に交付します（ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。）。この公告および書面には、原則として、受益者で異議のあるものは一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。

④異議申立ておよび反対者の買取請求権

受益者は、委託会社がファンドの任意償還または信託約款について重大な内容の変更を行おうとする場合、原則として、一定の期間（１ヵ月以上）内に委託会社に対して異議を述べるすることができます。異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。なお、一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の２分の１を超えるとときは、ファンドの償還または信託約款の変更を行いません。その場合、償還しない旨または信託約款を変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、原則として、これらの事項を記載した書面を受益者に交付します（ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。）。

⑤関係法人との契約の更改

委託会社と販売会社との間で締結された「投資信託受益権の取扱に関する契約」の契約期間は、契約締結日から１年とします。ただし双方から契約満了日の３ヵ月前までに別段の意思表示のないときは、さらに１年間延長するものとし、その後も同様とします。

⑥運用報告書

委託会社は、毎計算期間の末日および償還時に、交付運用報告書を作成し、原則として受益者に交付します。なお、信託約款の内容に委託会社が重要と判断した変更、ファンドの任意償還等があった場合は、その内容を交付運用報告書に記載します。

⑦委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。また、委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

⑧受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、信託約款の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はファンドを償還させます。

⑨信託事務の再信託

受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について再信託受託会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託に係る契約書類に基づいて所定の事務を行います。

⑩公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.am.mufg.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は以下の通りです。

(1) 収益分配金に対する受領権

受益者は、収益分配金を持ち分に応じて受領する権利を有します。

①分配金受取コース（一般コース）

収益分配金は、税金を差引いた後、毎計算期間の終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日以内）から、販売会社において、受益者に支払います。

ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払いの請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

②分配金再投資コース（累積投資コース）

収益分配金は、税金を差引いた後、「累積投資契約」に基づいて、決算日の基準価額により自動的に無手数料で全額再投資されます。

(2) 償還金に対する受領権

受益者は、償還金を持ち分に応じて受領する権利を有します。

償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日以内）から、販売会社において、受益者に支払います。

ただし、受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いの請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

(3) 換金（解約）請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、換金（解約）請求する権利を有します。

くわしくは「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」を参照してください。

第3【ファンドの経理状況】

- 1 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- 2 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当期（2024年 8月8日から2025年 2月 7日まで）の財務諸表について、PwC Japan有限責任監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

	第49期 〔 2024年 8月 7日現在 〕	第50期 〔 2025年 2月 7日現在 〕
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	6,053,184	5,229,072
親投資信託受益証券	229,814,434	232,752,215
未収入金	3,770,000	8,010,000
未収利息	35	66
流動資産合計	239,637,653	245,991,353
資産合計	239,637,653	245,991,353
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	-	2,026,698
未払受託者報酬	109,693	109,582
未払委託者報酬	1,672,800	1,671,062
その他未払費用	4,889	4,865
流動負債合計	1,787,382	3,812,207
負債合計	1,787,382	3,812,207
純資産の部		
元本等		
元本	206,245,870	202,669,826
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	31,604,401	39,509,320
（分配準備積立金）	33,725,983	32,136,489
元本等合計	237,850,271	242,179,146
純資産合計	237,850,271	242,179,146
負債純資産合計	239,637,653	245,991,353

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日	第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
営業収益		
受取利息	2,092	10,152
有価証券売買等損益	△6,528,801	12,477,781
その他収益	-	487
営業収益合計	△6,526,709	12,488,420
営業費用		
支払利息	25	-
受託者報酬	109,693	109,582
委託者報酬	1,672,800	1,671,062
その他費用	4,889	4,865
営業費用合計	1,787,407	1,785,509
営業利益又は営業損失（△）	△8,314,116	10,702,911
経常利益又は経常損失（△）	△8,314,116	10,702,911
当期純利益又は当期純損失（△）	△8,314,116	10,702,911
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）	140,255	557,465
期首剰余金又は期首欠損金（△）	40,535,788	31,604,401
剰余金増加額又は欠損金減少額	888,529	1,407,363
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	888,529	1,407,363
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,365,545	1,621,192
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,365,545	1,621,192
分配金	-	2,026,698
期末剰余金又は期末欠損金（△）	31,604,401	39,509,320

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
--------------------	---

(重要な会計上の見積りに関する注記)

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1. 期首元本額	209,019,596円	206,245,870円
期中追加設定元本額	4,263,900円	6,919,657円
期中一部解約元本額	7,037,626円	10,495,701円
2. 受益権の総数	206,245,870口	202,669,826口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日			第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日		
1. 分配金の計算過程			1. 分配金の計算過程		
項目			項目		
費用控除後の配当等収益額	A	－円	費用控除後の配当等収益額	A	1,377,983円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	732,562円
収益調整金額	C	24,631,117円	収益調整金額	C	25,299,238円
分配準備積立金額	D	33,725,983円	分配準備積立金額	D	32,052,642円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	58,357,100円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	59,462,425円
当ファンドの期末残存口数	F	206,245,870口	当ファンドの期末残存口数	F	202,669,826口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,829円	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,933円
1万口当たり分配金額	H	－円	1万口当たり分配金額	H	100円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	－円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	2,026,698円

(金融商品に関する注記)

1 金融商品の状況に関する事項

区分	第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日	第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、親投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。	同左

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。	(1) 有価証券 同左

区分	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	(2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	(2) デリバティブ取引 同左 (3) 上記以外の金融商品 同左 同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	△6,867,610	9,408,306
合計	△6,867,610	9,408,306

(デリバティブ取引に関する注記)

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1口当たり純資産額	1.1532円	1.1949円
(1万口当たり純資産額)	(11,532円)	(11,949円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券	三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド	16,704,177	49,486,124	
	三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド	101,611,551	136,789,469	
	三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド	4,101,077	28,077,613	
	三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド	4,735,666	18,399,009	
合計		127,152,471	232,752,215	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

	第49期 〔 2024年 8月 7日現在 〕	第50期 〔 2025年 2月 7日現在 〕
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	4,463,146	3,948,393
親投資信託受益証券	177,633,728	178,808,904
未収入金	3,150,000	5,130,000
未収利息	25	50
流動資産合計	185,246,899	187,887,347
資産合計	185,246,899	187,887,347
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	-	1,391,657
未払受託者報酬	82,394	84,667
未払委託者報酬	1,359,322	1,397,052
その他未払費用	3,646	3,761
流動負債合計	1,445,362	2,877,137
負債合計	1,445,362	2,877,137
純資産の部		
元本等		
元本	147,520,835	139,165,767
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	36,280,702	45,844,443
（分配準備積立金）	33,656,672	35,088,560
元本等合計	183,801,537	185,010,210
純資産合計	183,801,537	185,010,210
負債純資産合計	185,246,899	187,887,347

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日	第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
営業収益		
受取利息	1,797	8,076
有価証券売買等損益	△6,564,778	15,255,176
その他収益	-	584
営業収益合計	△6,562,981	15,263,836
営業費用		
支払利息	23	-
受託者報酬	82,394	84,667
委託者報酬	1,359,322	1,397,052
その他費用	3,646	3,761
営業費用合計	1,445,385	1,485,480
営業利益又は営業損失（△）	△8,008,366	13,778,356
経常利益又は経常損失（△）	△8,008,366	13,778,356
当期純利益又は当期純損失（△）	△8,008,366	13,778,356
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）	223,634	910,212
期首剰余金又は期首欠損金（△）	41,187,254	36,280,702
剰余金増加額又は欠損金減少額	5,486,642	699,011
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	5,486,642	699,011
剰余金減少額又は欠損金増加額	2,161,194	2,611,757
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	2,161,194	2,611,757
分配金	-	1,391,657
期末剰余金又は期末欠損金（△）	36,280,702	45,844,443

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
--------------------	---

(重要な会計上の見積りに関する注記)

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1. 期首元本額	138,874,617円	147,520,835円
期中追加設定元本額	15,908,321円	2,238,718円
期中一部解約元本額	7,262,103円	10,593,786円
2. 受益権の総数	147,520,835口	139,165,767口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日			第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日		
1. 分配金の計算過程			1. 分配金の計算過程		
項目			項目		
費用控除後の配当等収益額	A	5,897円	費用控除後の配当等収益額	A	1,189,429円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	4,026,346円
収益調整金額	C	24,211,502円	収益調整金額	C	23,328,322円
分配準備積立金額	D	33,650,775円	分配準備積立金額	D	31,264,442円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	57,868,174円	当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	59,808,539円
当ファンドの期末残存口数	F	147,520,835口	当ファンドの期末残存口数	F	139,165,767口
1万口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	3,922円	1万口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	4,297円
1万口当たり分配金額	H	－円	1万口当たり分配金額	H	100円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	－円	収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	1,391,657円

(金融商品に関する注記)

1 金融商品の状況に関する事項

区分	第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日	第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、親投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。	同左

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。	(1) 有価証券 同左

区分	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	(2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	(2) デリバティブ取引 同左 (3) 上記以外の金融商品 同左 同左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	△6,713,782	11,785,987
合計	△6,713,782	11,785,987

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1口当たり純資産額	1.2459円	1.3294円
(1万口当たり純資産額)	(12,459円)	(13,294円)

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

(単位：円)

種類	銘柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券	三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド	19,089,682	56,553,182	
	三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド	56,947,890	76,663,249	
	三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド	4,462,420	30,551,512	
	三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド	3,871,348	15,040,961	
合計		84,371,340	178,808,904	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【三菱UFJ ライフ・バランスファンド（成長型）】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	2,371,292	4,945,661
親投資信託受益証券	119,571,414	138,402,289
未収入金	2,750,000	2,490,000
未収利息	13	62
流動資産合計	124,692,719	145,838,012
資産合計	124,692,719	145,838,012
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	-	1,497,713
未払受託者報酬	52,437	60,271
未払委託者報酬	930,633	1,069,777
その他未払費用	2,303	2,653
流動負債合計	985,373	2,630,414
負債合計	985,373	2,630,414
純資産の部		
元本等		
元本	93,692,548	99,847,543
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	30,014,798	43,360,055
（分配準備積立金）	24,409,677	27,584,734
元本等合計	123,707,346	143,207,598
純資産合計	123,707,346	143,207,598
負債純資産合計	124,692,719	145,838,012

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日	第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
営業収益		
受取利息	1,051	5,858
有価証券売買等損益	△5,203,140	13,300,875
その他収益	-	274
営業収益合計	△5,202,089	13,307,007
営業費用		
支払利息	10	-
受託者報酬	52,437	60,271
委託者報酬	930,633	1,069,777
その他費用	2,303	2,653
営業費用合計	985,383	1,132,701
営業利益又は営業損失（△）	△6,187,472	12,174,306
経常利益又は経常損失（△）	△6,187,472	12,174,306
当期純利益又は当期純損失（△）	△6,187,472	12,174,306
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）	450,687	335,611
期首剰余金又は期首欠損金（△）	30,759,183	30,014,798
剰余金増加額又は欠損金減少額	9,270,444	3,967,124
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	9,270,444	3,967,124
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,376,670	962,849
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	3,376,670	962,849
分配金	-	1,497,713
期末剰余金又は期末欠損金（△）	30,014,798	43,360,055

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
--------------------	---

(重要な会計上の見積りに関する注記)

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1. 期首元本額	81,389,825円	93,692,548円
期中追加設定元本額	21,146,031円	9,103,560円
期中一部解約元本額	8,843,308円	2,948,565円
2. 受益権の総数	93,692,548口	99,847,543口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日			第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日		
1. 分配金の計算過程			1. 分配金の計算過程		
項目			項目		
費用控除後の配当等収益額	A	—円	費用控除後の配当等収益額	A	922,634円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	4,475,038円
収益調整金額	C	16,556,335円	収益調整金額	C	19,980,166円
分配準備積立金額	D	24,409,677円	分配準備積立金額	D	23,684,775円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	40,966,012円	当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	49,062,613円
当ファンドの期末残存口数	F	93,692,548口	当ファンドの期末残存口数	F	99,847,543口
1万口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	4,372円	1万口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	4,913円
1万口当たり分配金額	H	—円	1万口当たり分配金額	H	150円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	—円	収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	1,497,713円

(金融商品に関する注記)

1 金融商品の状況に関する事項

区分	第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日	第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、親投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。	同左

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。	(1) 有価証券 同左

区分	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	(2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	(2) デリバティブ取引 同左 (3) 上記以外の金融商品 同左 同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	△5,646,500	11,352,355
合計	△5,646,500	11,352,355

(デリバティブ取引に関する注記)

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1口当たり純資産額	1.3204円	1.4343円
(1万口当たり純資産額)	(13,204円)	(14,343円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券	三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド	17,219,063	51,011,474	
	三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド	33,449,536	45,029,765	
	三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド	4,486,135	30,713,874	
	三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド	2,997,832	11,647,176	
合計		58,152,566	138,402,289	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【三菱UFJ ライフ・バランスファンド（積極型）】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	5,388,641	9,317,179
親投資信託受益証券	235,427,455	270,724,769
未収入金	5,000,000	6,220,000
未収利息	31	118
流動資産合計	245,816,127	286,262,066
資産合計	245,816,127	286,262,066
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	-	3,671,006
未払解約金	-	26,435
未払受託者報酬	111,020	123,807
未払委託者報酬	2,109,302	2,352,252
その他未払費用	4,941	5,509
流動負債合計	2,225,263	6,179,009
負債合計	2,225,263	6,179,009
純資産の部		
元本等		
元本	176,306,194	183,550,349
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	67,284,670	96,532,708
（分配準備積立金）	64,678,098	74,837,575
元本等合計	243,590,864	280,083,057
純資産合計	243,590,864	280,083,057
負債純資産合計	245,816,127	286,262,066

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日	第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
営業収益		
受取利息	2,304	11,923
有価証券売買等損益	△10,714,956	32,907,314
その他収益	-	317
営業収益合計	△10,712,652	32,919,554
営業費用		
支払利息	30	-
受託者報酬	111,020	123,807
委託者報酬	2,109,302	2,352,252
その他費用	4,941	5,509
営業費用合計	2,225,293	2,481,568
営業利益又は営業損失（△）	△12,937,945	30,437,986
経常利益又は経常損失（△）	△12,937,945	30,437,986
当期純利益又は当期純損失（△）	△12,937,945	30,437,986
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）	423,330	1,130,515
期首剰余金又は期首欠損金（△）	72,520,809	67,284,670
剰余金増加額又は欠損金減少額	10,630,783	6,649,069
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	10,630,783	6,649,069
剰余金減少額又は欠損金増加額	2,505,647	3,037,496
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	2,505,647	3,037,496
分配金	-	3,671,006
期末剰余金又は期末欠損金（△）	67,284,670	96,532,708

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
--------------------	---

(重要な会計上の見積りに関する注記)

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1. 期首元本額	160,708,065円	176,306,194円
期中追加設定元本額	21,098,093円	15,116,315円
期中一部解約元本額	5,499,964円	7,872,160円
2. 受益権の総数	176,306,194口	183,550,349口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日			第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日		
1. 分配金の計算過程			1. 分配金の計算過程		
項目			項目		
費用控除後の配当等収益額	A	－円	費用控除後の配当等収益額	A	1,844,582円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	14,652,479円
収益調整金額	C	32,553,754円	収益調整金額	C	39,241,616円
分配準備積立金額	D	64,678,098円	分配準備積立金額	D	62,011,520円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	97,231,852円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	117,750,197円
当ファンドの期末残存口数	F	176,306,194口	当ファンドの期末残存口数	F	183,550,349口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	5,514円	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	6,415円
1万口当たり分配金額	H	－円	1万口当たり分配金額	H	200円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	－円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	3,671,006円

(金融商品に関する注記)

1 金融商品の状況に関する事項

区分	第49期 自 2024年 2月 8日 至 2024年 8月 7日	第50期 自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、親投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。	同左

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。	(1) 有価証券 同左

区分	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	(2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	(2) デリバティブ取引 同左 (3) 上記以外の金融商品 同左 同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	△11,253,090	27,842,944
合計	△11,253,090	27,842,944

(デリバティブ取引に関する注記)

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	第49期 [2024年 8月 7日現在]	第50期 [2025年 2月 7日現在]
1口当たり純資産額	1.3816円	1.5259円
(1万口当たり純資産額)	(13,816円)	(15,259円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド	38,431,688	113,853,875	
	三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド	54,983,636	74,018,970	
	三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド	10,776,553	73,780,592	
	三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド	2,334,843	9,071,332	
合計		106,526,720	270,724,769	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドの主要投資対象の状況は以下の通りです。

なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド

貸借対照表

（単位：円）	
[2025年 2月 7日現在]	
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	447,995,905
国債証券	18,047,957,600
特殊債券	588,401,000
社債券	10,060,343,000
派生商品評価勘定	1,726,260
未収入金	247,152,500
未収利息	58,172,884
前払金	110,000
前払費用	15,079,803
差入委託証拠金	4,660,576
流動資産合計	29,471,599,528
資産合計	29,471,599,528
負債の部	
流動負債	
未払金	227,440,800
未払解約金	8,172,338
流動負債合計	235,613,138
負債合計	235,613,138
純資産の部	
元本等	
元本	21,717,246,486
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	7,518,739,904
元本等合計	29,235,986,390
純資産合計	29,235,986,390
負債純資産合計	29,471,599,528

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	先物取引は金融商品取引所等における清算値段で評価しております。

（重要な会計上の見積りに関する注記）

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

（貸借対照表に関する注記）

[2025年 2月 7日現在]	
1. 期首	2024年 8月 8日
期首元本額	20,284,915,979円
期中追加設定元本額	3,796,153,349円
期中一部解約元本額	2,363,822,842円
元本の内訳※	

	[2025年 2月 7日現在]
国内債券セレクション（ラップ向け）	17,976,421,715円
三菱ＵＦＪ 日本バランスオープン 株式２０型	464,570,167円
三菱ＵＦＪ 日本バランスオープン 株式４０型	441,277,110円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ２５	511,326,634円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ５０	760,682,132円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ７５	265,794,042円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ５０ＶＡ（適格機関投資家限定）	140,869,981円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド ２５ＶＡ（適格機関投資家限定）	17,883,727円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド ５０ＶＡ（適格機関投資家限定）	78,401,290円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）	101,611,551円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）	56,947,890円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）	33,449,536円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）	54,983,636円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０３０	15,407,459円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０	12,887,975円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（安定型）	125,578,733円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（安定成長型）	186,806,391円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（成長型）	102,005,395円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（積極型）	103,237,265円
三菱ＵＦＪ <DC>ターゲット・イヤー ファンド ２０３０	128,727,896円
三菱ＵＦＪ <DC>ターゲット・イヤー ファンド ２０４０	138,375,961円
合計	21,717,246,486円
２． 受益権の総数	21,717,246,486口

※当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

１ 金融商品の状況に関する事項

区分	自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
１．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
２．金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、公社債等に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 当ファンドは、運用の効率化を図るために、債券先物取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、価格変動リスク等の市場リスクおよび信用リスク等を有しております。
３．金融商品に係るリスク管理体制	また、デリバティブ取引の時価等に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。 ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

２ 金融商品の時価等に関する事項

区分	[2025年 2月 7日現在]
１．貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
２．時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 （２）デリバティブ取引 デリバティブ取引は、（デリバティブ取引に関する注記）に記載しております。 （３）上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
３．金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[2025年 2月 7日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
国債証券	△565,423,442
特殊債券	△8,098,000
社債券	△98,151,000
合計	△671,672,442

(注)当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

債券関連

[2025年 2月 7日現在]

区分	種類	契約額等（円）		時価（円）	評価損益（円）
			うち1年超		
市場取引	債券先物取引				
	売建	561,930,000	—	560,200,000	1,730,000
合計		561,930,000	—	560,200,000	1,730,000

（注）時価の算定方法

- 先物取引の時価については、以下のように評価しております。
原則として、直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または終値で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、最も近い終値や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。
 - 先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
 - 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。
- ※上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものはありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	[2025年 2月 7日現在]
1口当たり純資産額	1.3462円
(1万口当たり純資産額)	(13,462円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

（単位：円）

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	第4 6 7回利付国債（2年）	1,520,000,000	1,515,257,600	
	第4 6 8回利付国債（2年）	630,000,000	627,826,500	
	第1 7 4回利付国債（5年）	1,250,000,000	1,234,837,500	
	第1 7 5回利付国債（5年）	1,000,000,000	996,050,000	
	第2回利付国債（40年）	40,000,000	40,575,200	
	第5回利付国債（40年）	70,000,000	66,660,300	
	第1 0回利付国債（40年）	400,000,000	271,736,000	
	第1 4回利付国債（40年）	10,000,000	5,901,100	
	第1 5回利付国債（40年）	190,000,000	123,059,200	

第１６回利付国債（４０年）	390,000,000	275,546,700	
第１７回利付国債（４０年）	1,130,000,000	1,036,323,000	
第３５２回利付国債（１０年）	160,000,000	155,553,600	
第３６５回利付国債（１０年）	120,000,000	112,562,400	
第３６６回利付国債（１０年）	500,000,000	470,810,000	
第３６７回利付国債（１０年）	500,000,000	469,215,000	
第３７７回利付国債（１０年）	280,000,000	277,552,800	
第８回利付国債（３０年）	50,000,000	52,565,000	
第２３回利付国債（３０年）	40,000,000	44,485,600	
第２６回利付国債（３０年）	50,000,000	55,061,000	
第２８回利付国債（３０年）	20,000,000	22,202,400	
第３０回利付国債（３０年）	60,000,000	64,944,600	
第３１回利付国債（３０年）	30,000,000	32,017,500	
第３２回利付国債（３０年）	50,000,000	53,896,500	
第３３回利付国債（３０年）	50,000,000	51,722,500	
第３４回利付国債（３０年）	70,000,000	74,097,100	
第３６回利付国債（３０年）	80,000,000	81,931,200	
第３７回利付国債（３０年）	60,000,000	60,318,000	
第３９回利付国債（３０年）	90,000,000	89,937,900	
第４１回利付国債（３０年）	120,000,000	115,783,200	
第４２回利付国債（３０年）	100,000,000	96,185,000	
第４４回利付国債（３０年）	50,000,000	47,853,500	
第４５回利付国債（３０年）	90,000,000	83,014,200	
第４６回利付国債（３０年）	130,000,000	119,564,900	
第４７回利付国債（３０年）	100,000,000	93,402,000	
第４９回利付国債（３０年）	130,000,000	116,378,600	
第５０回利付国債（３０年）	120,000,000	94,830,000	
第５４回利付国債（３０年）	260,000,000	201,812,000	
第５８回利付国債（３０年）	310,000,000	236,632,300	
第６０回利付国債（３０年）	170,000,000	131,770,400	
第６１回利付国債（３０年）	420,000,000	308,863,800	
第７４回利付国債（３０年）	120,000,000	89,972,400	
第７５回利付国債（３０年）	80,000,000	64,666,400	
第７６回利付国債（３０年）	150,000,000	123,958,500	
第７７回利付国債（３０年）	580,000,000	501,694,200	
第８０回利付国債（３０年）	420,000,000	378,537,600	
第８２回利付国債（３０年）	10,000,000	8,987,200	
第８３回利付国債（３０年）	440,000,000	432,286,800	
第８４回利付国債（３０年）	360,000,000	345,794,400	
第８５回利付国債（３０年）	130,000,000	130,345,800	
第１４０回利付国債（２０年）	160,000,000	167,032,000	
第１４１回利付国債（２０年）	90,000,000	93,939,300	

	第１４３回利付国債（２０年）	100,000,000	103,604,000	
	第１４５回利付国債（２０年）	190,000,000	198,268,800	
	第１４６回利付国債（２０年）	200,000,000	208,616,000	
	第１５４回利付国債（２０年）	170,000,000	167,244,300	
	第１５５回利付国債（２０年）	50,000,000	48,069,500	
	第１６０回利付国債（２０年）	340,000,000	310,542,400	
	第１６６回利付国債（２０年）	450,000,000	400,486,500	
	第１６７回利付国債（２０年）	100,000,000	86,106,000	
	第１７０回利付国債（２０年）	710,000,000	583,769,100	
	第１８０回利付国債（２０年）	140,000,000	118,815,200	
	第１８３回利付国債（２０年）	580,000,000	538,100,800	
	第１８６回利付国債（２０年）	330,000,000	308,668,800	
	第１８８回利付国債（２０年）	150,000,000	141,901,500	
	第１８９回利付国債（２０年）	190,000,000	188,400,200	
	第１２６８回国庫短期証券	900,000,000	899,937,000	
	第１２６９回国庫短期証券	700,000,000	699,895,000	
	第１２７５回国庫短期証券	300,000,000	299,882,400	
	第１２８４回国庫短期証券	200,000,000	199,854,000	
	第１２８６回国庫短期証券	200,000,000	199,845,400	
国債証券 合計		19,380,000,000	18,047,957,600	
特殊債券	い第８６３号商工債券	300,000,000	294,651,000	
	い第８７１号商工債券	200,000,000	195,776,000	
	い第８７２号商工債券	100,000,000	97,974,000	
特殊債券 合計		600,000,000	588,401,000	
社債券	第３５回フランス相互信用連合銀行	200,000,000	196,598,000	
	第４４回フランス相互信用連合銀行	100,000,000	98,805,000	
	第９回ビー・ピー・シー・イー・エス・エー期限前償還条項付	100,000,000	98,165,000	
	第１４回ビー・ピー・シー・イー・エス・エー	100,000,000	98,941,000	
	第１１回クレディ・アグリコル・エス・エー（２０２２）	200,000,000	200,212,000	
	第１８回クレディ・アグリコル・エス・エー（２０２５）	100,000,000	99,601,000	
	第７回エイチエスピーシー・ホールディングス期限前償還条項付	100,000,000	100,170,000	
	第１０回ロイズ・バンキング・グループ期限前償還条項付	200,000,000	198,584,000	
	第１１回ロイズ・バンキング・グループ期限前償還条項付	600,000,000	594,642,000	
	第６回フランス電力	200,000,000	196,996,000	
	第１０回フランス電力	100,000,000	99,157,000	
	第２回積水ハウス利払繰延・期限前償還条項・劣後特約付	100,000,000	99,790,000	
	BARCLAYS PLC	100,000,000	98,632,000	

第1回住友生命第4回劣後ローン永久債利払繰延・任意償還条項付	100,000,000	99,011,000	
第11回サントリーホールディングス	200,000,000	195,372,000	
第14回セブン&アイ・ホールディングス	100,000,000	99,356,000	
第3回日本酸素ホールディングス	100,000,000	99,017,000	
第12回ヤフー	100,000,000	98,569,000	
第16回Zホールディングス	100,000,000	99,903,000	
第19回Zホールディングス	100,000,000	98,548,000	
第1回住友生命2023基金	100,000,000	97,376,000	
第2回パナソニック利払繰延・期限前償還条項・劣後特約付	200,000,000	193,118,000	
第47回IHI	100,000,000	99,729,000	
第25回J A三井リース	100,000,000	98,970,000	
第27回J A三井リース	100,000,000	98,696,000	
第28回J A三井リース	200,000,000	194,632,000	
第9回三井住友トラスト・パナソニックファイナンス	100,000,000	99,589,000	
第25回トヨタ自動車	100,000,000	99,142,000	
第1回日本生命2021基金劣後特約付	100,000,000	98,732,000	
第116回丸紅	100,000,000	97,510,000	
第24回イオン（サステナビリティ）	100,000,000	97,722,000	
第37回三菱UFJフィナンシャル・グループ期限前償還条項付	200,000,000	197,038,000	
第19回みずほフィナンシャルグループ永久債任意償還条項付	100,000,000	99,437,000	
第40回芙蓉総合リース（サステナビリティ）	100,000,000	97,668,000	
第41回芙蓉総合リース（サステナビリティ）	100,000,000	98,056,000	
第16回エヌ・ティ・ティ・ファイナンス	100,000,000	99,424,000	
第36回エヌ・ティ・ティ・ファイナンス	100,000,000	98,163,000	
第4回東京センチュリー利払繰延・期限前償還条項・劣後特約付	100,000,000	99,085,000	
第80回ホンダファイナンス	100,000,000	99,075,000	
第34回SBIホールディングス	500,000,000	496,510,000	
第41回SBIホールディングス	100,000,000	99,717,000	
第100回トヨタファイナンス	100,000,000	99,030,000	
第42回リコーリース	200,000,000	196,638,000	
第43回リコーリース（サステナビリティ）	100,000,000	97,973,000	
第44回リコーリース	100,000,000	98,341,000	
第16回イオンフィナンシャルサービス	200,000,000	199,588,000	
第79回アコム	100,000,000	99,973,000	
第81回アコム	100,000,000	98,520,000	
第85回アコム	200,000,000	195,078,000	
第6回オリックス利払繰延・期限前償還条項・劣後特約付	100,000,000	98,134,000	
第3回大和証券グループ本社永久債任意償還条項付	100,000,000	99,007,000	

第36回大和証券グループ本社	100,000,000	98,940,000	
第40回大和証券グループ本社	100,000,000	99,043,000	
第44回大和証券グループ本社（グリーン）	100,000,000	98,658,000	
第3回野村ホールディングス	100,000,000	98,589,000	
第7回野村ホールディングス	100,000,000	99,122,000	
第8回野村ホールディングス	100,000,000	98,081,000	
第83回三井不動産（グリーン）	200,000,000	188,554,000	
第142回三菱地所（サステナビリティ）	400,000,000	391,248,000	
第37回イオンモール（グリーン）	100,000,000	98,279,000	
第2回ソフトバンク	100,000,000	99,958,000	
第8回ソフトバンク	100,000,000	99,466,000	
第11回ソフトバンク	100,000,000	98,925,000	
第1回関西電力利払繰延・期限前償還条項・劣後特約付	200,000,000	197,180,000	
第500回関西電力	100,000,000	99,538,000	
第540回関西電力	200,000,000	197,180,000	
第447回中国電力	200,000,000	195,462,000	
第84回電源開発	100,000,000	98,911,000	
第34回東京電力パワーグリッド	100,000,000	100,007,000	
第38回東京電力パワーグリッド	100,000,000	99,932,000	
第68回東京電力パワーグリッド	100,000,000	98,593,000	
第71回東京電力パワーグリッド	100,000,000	98,214,000	
第51回大阪ガス	100,000,000	94,815,000	
第4回ファーストリテイリング	200,000,000	199,908,000	
社債券 合計	10,200,000,000	10,060,343,000	
合計	30,180,000,000	28,696,701,600	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

（デリバティブ取引に関する注記）に記載しております。

三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド

貸借対照表

（単位：円）

[2025年 2月 7日現在]

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	92,769,671
株式	8,458,883,050
未収入金	63,520,546
未収配当金	11,387,900
未収利息	1,177
流動資産合計	8,626,562,344
資産合計	8,626,562,344
負債の部	
流動負債	

[2025年 2月 7日現在]

未払金	35,026,529
未払解約金	21,759,377
流動負債合計	56,785,906
負債合計	56,785,906
純資産の部	
元本等	
元本	2,892,773,206
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	5,677,003,232
元本等合計	8,569,776,438
純資産合計	8,569,776,438
負債純資産合計	8,626,562,344

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
--------------------	---

（重要な会計上の見積りに関する注記）

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

（貸借対照表に関する注記）

	[2025年 2月 7日現在]
1. 期首	2024年 8月 8日
期首元本額	2,957,144,368円
期中追加設定元本額	323,163,165円
期中一部解約元本額	387,534,327円
元本の内訳※	
三菱ＵＦＪ 日本株式オープン	822,634,874円
三菱ＵＦＪ 日本バランスオープン 株式２０型	152,576,478円
三菱ＵＦＪ 日本バランスオープン 株式４０型	372,818,553円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ２５	70,534,608円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ５０	350,119,329円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ７５	484,443,530円
三菱ＵＦＪ 日本株式オープンＶＡ（適格機関投資家限定）	114,729,111円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ５０ＶＡ（適格機関投資家限定）	64,846,104円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド ２５ＶＡ（適格機関投資家限定）	6,909,676円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド ５０ＶＡ（適格機関投資家限定）	91,244,387円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）	16,704,177円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）	19,089,682円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）	17,219,063円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）	38,431,688円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０３０	2,578,742円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０	3,275,452円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（安定型）	20,638,529円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（安定成長型）	62,608,675円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（成長型）	52,512,071円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（積極型）	72,182,619円
三菱ＵＦＪ <DC>ターゲット・イヤー ファンド ２０３０	21,540,403円
三菱ＵＦＪ <DC>ターゲット・イヤー ファンド ２０４０	35,135,455円
合計	2,892,773,206円
2. 受益権の総数	2,892,773,206口

※当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

1 金融商品の状況に関する事項

区分	自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、株式に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。
3.金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	[2025年 2月 7日現在]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2.時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 （２）デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 （３）上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[2025年 2月 7日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
株式	328,664,805
合計	328,664,805

（注）当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

	[2025年 2月 7日現在]
1口当たり純資産額	2.9625円
(1万口当たり純資産額)	(29,625円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1)株式

（単位：円）

	銘 柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
1820	西松建設	26,000	5,050.00	131,300,000	
1950	日本電設工業	74,500	2,025.00	150,862,500	
2875	東洋水産	14,000	9,298.00	130,172,000	

3597	自重堂	17,800	9,460.00	168,388,000	
4046	大阪ソーダ	117,100	1,701.00	199,187,100	
4568	第一三共	44,300	3,833.00	169,801,900	
5401	日本製鉄	23,200	3,358.00	77,905,600	
5801	古河電気工業	26,000	7,386.00	192,036,000	
5959	岡部	166,600	740.00	123,284,000	
6113	アマダ	60,400	1,568.50	94,737,400	
6165	パンチ工業	183,300	397.00	72,770,100	
6465	ホシザキ	12,100	5,479.00	66,295,900	
6490	P I L L A R	19,800	3,845.00	76,131,000	
6501	日立製作所	80,600	4,080.00	328,848,000	
6632	J V C ケンウッド	73,500	1,565.50	115,064,250	
6674	ジーエス・ユアサ コーポレーション	58,100	2,476.50	143,884,650	
6676	メルコホールディングス	49,700	2,172.00	107,948,400	
6702	富士通	70,100	2,991.00	209,669,100	
6723	ルネサスエレクトロニクス	57,900	2,466.50	142,810,350	
6758	ソニーグループ	100,100	3,483.00	348,648,300	
6794	フォスター電機	38,100	1,577.00	60,083,700	
6857	アドバンテスト	14,500	8,606.00	124,787,000	
6957	芝浦電子	25,900	4,535.00	117,456,500	
6958	日本シイエムケイ	265,400	467.00	123,941,800	
6981	村田製作所	47,400	2,526.50	119,756,100	
8035	東京エレクトロン	7,100	25,500.00	181,050,000	
7012	川崎重工業	42,300	7,139.00	301,979,700	
7203	トヨタ自動車	60,500	2,824.50	170,882,250	
7318	セレンディップ・ホールディングス	88,400	1,577.00	139,406,800	
7744	ノーリツ鋼機	40,300	4,710.00	189,813,000	
7780	メニコン	79,000	1,366.00	107,914,000	
7821	前田工織	70,800	1,849.00	130,909,200	
7911	T O P P A N ホールディングス	27,600	4,055.00	111,918,000	
9009	京成電鉄	103,500	1,447.00	149,764,500	
3663	セルシス	47,900	1,315.00	62,988,500	
9401	T B S ホールディングス	24,300	4,252.00	103,323,600	
9697	カプコン	71,500	3,784.00	270,556,000	
9984	ソフトバンクグループ	30,100	9,683.00	291,458,300	
8031	三井物産	32,400	2,866.50	92,874,600	
8058	三菱商事	48,900	2,521.50	123,301,350	
8130	サンゲツ	38,100	2,985.00	113,728,500	
3563	FOOD & LIFE COMPANIE	57,100	4,140.00	236,394,000	
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	231,000	1,911.00	441,441,000	
8308	りそなホールディングス	275,400	1,137.50	313,267,500	
7388	F P パートナー	19,600	2,248.00	44,060,800	

8750	第一生命ホールディングス	24,300	4,221.00	102,570,300	
8766	東京海上ホールディングス	31,100	5,038.00	156,681,800	
2975	スター・マイカ・ホールディングス	24,700	855.00	21,118,500	
8802	三菱地所	36,000	2,216.00	79,776,000	
2432	ディー・エヌ・エー	44,000	3,032.00	133,408,000	
4661	オリエンタルランド	30,600	3,370.00	103,122,000	
4751	サイバーエージェント	213,400	1,169.00	249,464,600	
4755	楽天グループ	363,900	990.00	360,261,000	
9621	建設技術研究所	30,800	2,587.00	79,679,600	
合 計		3,861,000		8,458,883,050	

(2)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド

貸借対照表

(単位：円)

[2025年 2月 7日現在]

資産の部	
流動資産	
預金	662,403,364
コール・ローン	196,259,292
国債証券	39,432,651,460
特殊債券	6,354,370,299
社債券	154,084,446
未収利息	250,511,925
前払費用	234,059,495
流動資産合計	47,284,340,281
資産合計	47,284,340,281
負債の部	
流動負債	
未払解約金	33,076,527
流動負債合計	33,076,527
負債合計	33,076,527
純資産の部	
元本等	
元本	12,161,942,505
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	35,089,321,249
元本等合計	47,251,263,754
純資産合計	47,251,263,754
負債純資産合計	47,284,340,281

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。

3.その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。
------------------------	--

（重要な会計上の見積りに関する注記）
財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

（貸借対照表に関する注記）

	[2025年 2月 7日現在]
1. 期首	2024年 8月 8日
期首元本額	12,046,187,961円
期中追加設定元本額	720,714,140円
期中一部解約元本額	604,959,596円
元本の内訳※	
三菱ＵＦＪ バランスインカムオープン（毎月決算型）	2,399,419,728円
三菱ＵＦＪ ＤＣ金利連動アロケーション型バランスファンド	602,308,098円
外国債券アクティブファンドセレクション（ラップ専用）	96,961,480円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 25	39,337,670円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 50	104,337,031円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 75	59,597,282円
三菱ＵＦＪ 海外債券オープン	4,793,916,966円
三菱ＵＦＪ 海外債券オープン（3ヵ月決算型）	3,441,231,372円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 50VA（適格機関投資家限定）	19,324,417円
三菱ＵＦＪ 海外債券オープンVA（適格機関投資家限定）	30,611,449円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド 25VA（適格機関投資家限定）	24,481,363円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド 50VA（適格機関投資家限定）	107,373,521円
三菱ＵＦＪ国際 海外債券オープン（適格機関投資家限定）	300,203,480円
三菱ＵＦＪ グローバルバランス（積極型）	25,967,761円
三菱ＵＦＪ グローバルバランス（安定型）	16,249,254円
三菱ＵＦＪ グローバルバランスVA	589,919円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）	4,735,666円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）	3,871,348円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）	2,997,832円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）	2,334,843円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2030	783,232円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2040	765,942円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（安定型）	6,275,704円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（安定成長型）	12,704,068円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（成長型）	9,138,887円
三菱ＵＦＪ <DC>ライフ・バランスファンド（積極型）	4,388,892円
三菱ＵＦＪ <DC>ターゲット・イヤー ファンド 2030	6,545,102円
三菱ＵＦＪ <DC>ターゲット・イヤー ファンド 2040	8,220,985円
三菱ＵＦＪ <DC>グローバルバランス 20型	6,131,726円
三菱ＵＦＪ <DC>グローバルバランス 40型	12,387,407円
三菱ＵＦＪ <DC>グローバルバランス 60型	18,750,080円
合計	12,161,942,505円
2. 受益権の総数	12,161,942,505口

※当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

1 金融商品の状況に関する事項

区分	自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、公社債等に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 当ファンドは、外貨の決済のために為替予約取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、為替相場の変動による市場リスクおよび信用リスク等を有しておりますが、ごく短期間で実際に外貨の受渡を伴うことから、為替相場の変動によるリスクは限定的であります。

区分	自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
3.金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	[2025年 2月 7日現在]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[2025年 2月 7日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
国債証券	117,073,333
特殊債券	6,164,861
社債券	△502,134
合計	122,736,060

(注)当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	[2025年 2月 7日現在]
1口当たり純資産額	3.8852円
(1万口当たり純資産額)	(38,852円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

（単位：円）

通貨	種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
アメリカドル	国債証券	1.875 T-NOTE 290228	15,000,000.00	13,672,851.60	
		3 T-BOND 441115	2,000,000.00	1,557,734.38	
		3.125 T-BOND 430215	3,000,000.00	2,427,656.25	
		3.125 T-BOND 440815	6,000,000.00	4,779,140.64	

		3.5 T-NOTE 330215	10,000,000.00	9,399,609.40	
		3.625 T-NOTE 300331	6,000,000.00	5,814,726.54	
		4 T-NOTE 270115	3,000,000.00	2,987,929.68	
		4 T-NOTE 310131	20,500,000.00	20,148,056.61	
		4.125 T-NOTE 291031	15,000,000.00	14,902,734.30	
		4.125 T-NOTE 310731	8,000,000.00	7,900,781.28	
		4.25 T-NOTE 341115	12,000,000.00	11,820,937.44	
		4.375 T-NOTE 280831	26,000,000.00	26,097,500.00	
		4.5 T-BOND 541115	4,000,000.00	3,904,687.52	
	国債証券 小計		130,500,000.00	125,414,345.64 (18,975,190,495)	
	特殊債券	0.875 IBRD 300514	10,000,000.00	8,372,454.10	
		2.172 EUROFIMA 350108	5,000,000.00	3,793,662.85	
		5.5 G2 MA972 5406 MA9725	2,946,991.35	2,940,382.39	
		5.5 G2 MA996 5410 MA9965	5,954,034.06	5,940,681.48	
		5.5 G2 MB014 5501 MB0147	3,000,000.00	2,993,272.17	
		6 G2 MA9780 5407 MA9780	5,888,996.58	5,953,003.67	
		6 G2 MA9852 5408 MA9852	5,922,451.02	5,986,821.72	
		6 G2 MA9966 5410 MA9966	5,950,850.76	6,018,203.44	
	特殊債券 小計		44,663,323.77	41,998,481.82 (6,354,370,299)	
	社債券	7 IBM CORP 251030	1,000,000.00	1,018,403.48	
	社債券 小計		1,000,000.00	1,018,403.48 (154,084,446)	
アメリカドル合計			176,163,323.77	168,431,230.94 (25,483,645,240)	
カナダドル	国債証券	2 CAN GOVT 511201	1,600,000.00	1,267,617.80	
		2.75 CAN GOVT 330601	3,200,000.00	3,169,243.16	
		3.5 CAN GOVT 280301	2,000,000.00	2,054,193.38	
		3.75 CAN GOVT 250501	1,600,000.00	1,603,374.57	
カナダドル合計			8,400,000.00	8,094,428.91 (855,500,191)	
オーストラリアドル	国債証券	3.25 AUST GOVT 290421	700,000.00	685,482.00	
		3.25 AUST GOVT 390621	400,000.00	346,760.00	
オーストラリアドル合計			1,100,000.00	1,032,242.00 (98,124,924)	
イギリスポンド	国債証券	0.625 GILT 350731	4,800,000.00	3,265,975.63	
		1.25 GILT 411022	5,100,000.00	3,036,572.89	
		1.625 GILT 281022	1,600,000.00	1,474,095.72	
		3.75 GILT 531022	2,000,000.00	1,613,212.89	
		4.625 GILT 340131	4,000,000.00	4,056,935.20	
			17,500,000.00	13,446,792.33	

イギリスポンド合計				(2,528,131,425)	
シンガポールドル	国債証券	1.625 SINGAPORG0V 310701	600,000.00	559,178.43	
		2.75 SINGAPORG0VT 460301	500,000.00	496,042.50	
		2.875SINGAPORG0VT 300901	500,000.00	503,213.35	
シンガポールドル合計			1,600,000.00	1,558,434.28	(174,591,392)
マレーシアリングット	国債証券	3.882 MALAYSIAGOV 250314	2,500,000.00	2,501,539.50	
		3.899 MALAYSIAGOV 271116	1,500,000.00	1,516,498.05	
		4.065 MALAYSIAGOV 500615	500,000.00	494,250.76	
		4.457 MALAYSIAGOV 530331	500,000.00	522,978.10	
		4.935 MALAYSIAGOV 430930	2,600,000.00	2,895,948.64	
マレーシアリングット合計			7,600,000.00	7,931,215.05	(270,657,472)
ニュージーランドドル	国債証券	2.75 NZ GOVT 250415	200,000.00	199,575.72	
		3.5 NZ GOVT 330414	2,000,000.00	1,882,875.56	
ニュージーランドドル合計			2,200,000.00	2,082,451.28	(178,840,915)
スウェーデンクローネ	国債証券	0.125 SWD GOVT 310512	5,000,000.00	4,430,825.00	
		1 SWD GOVT 261112	1,000,000.00	984,425.00	
スウェーデンクローネ合計			6,000,000.00	5,415,250.00	(75,217,822)
ノルウェークローネ	国債証券	1.75 NORWE GOVT 290906	4,000,000.00	3,680,416.00	
		2.125 NORWE GOVT 320518	1,500,000.00	1,348,734.00	
ノルウェークローネ合計			5,500,000.00	5,029,150.00	(67,943,816)
メキシコペソ	国債証券	7.75 MEXICAN BONO 341123	27,000,000.00	23,640,345.72	
		8.5 MEXICAN BONOS 290301	25,000,000.00	24,216,000.00	
メキシコペソ合計			52,000,000.00	47,856,345.72	(354,065,173)
イスラエルシェケル	国債証券	1 ISRAEL FIXED B0 300331	1,000,000.00	865,965.99	
		1.3 ISRAEL FIXED 320430	2,000,000.00	1,666,871.34	
イスラエルシェケル合計			3,000,000.00	2,532,837.33	(107,854,798)
ポーランドズロチ	国債証券	2.75 POLAND 291025	11,500,000.00	10,249,224.12	
		3.75 POLAND 270525	9,900,000.00	9,597,469.66	
		5 POLAND 341025	6,000,000.00	5,643,007.50	
ポーランドズロチ合計			27,400,000.00	25,489,701.28	(955,290,279)
中国元	国債証券	1.62 CHINA GOVT 270815	15,000,000.00	15,132,870.00	
		2.62 CHINA GOVT 290925	93,000,000.00	98,056,437.90	
		2.67 CHINA GOVT 330525	65,000,000.00	70,272,683.00	
		3.19 CHINA GOVT 530415	25,000,000.00	32,144,622.50	

中国元合計			198,000,000.00	215,606,613.40 (4,475,971,733)	
ユーロ	国債証券	0.25 ITALY GOVT 280315	3,500,000.00	3,273,756.50	
		0.35 IRISH GOVT 321018	300,000.00	255,627.75	
		0.8 SPAIN GOVT 290730	6,000,000.00	5,579,998.50	
		1.65 PORTUGUESE 320716	100,000.00	94,020.40	
		2.1 BUND 291115	2,700,000.00	2,695,955.40	
		2.5 BUND 540815	7,300,000.00	7,151,050.72	
		2.5 NETH GOVT 340715	1,000,000.00	995,544.00	
		2.5 O.A.T 270924	1,800,000.00	1,808,064.00	
		2.85 BEL GOVT 341022	1,000,000.00	997,507.50	
		3.25 O.A.T 450525	6,700,000.00	6,499,435.50	
		3.25 O.A.T 550525	7,000,000.00	6,500,138.74	
		3.45 SPAIN GOVT 430730	6,000,000.00	5,968,476.00	
		4 SPAIN GOVT 541031	1,800,000.00	1,910,575.80	
		4.4 ITALY GOVT 330501	12,300,000.00	13,374,146.70	
		4.5 ITALY GOVT 531001	5,300,000.00	5,733,214.05	
		4.9 SPAIN GOVT 400730	2,400,000.00	2,843,934.00	
ユーロ合計			65,200,000.00	65,681,445.56 (10,315,271,025)	
合計				45,941,106,205 (45,941,106,205)	

(注1)通貨の種類ごとの小計／合計欄の()内は、邦貨換算額であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入債券 時価比率	有価証券の 合計金額に 対する比率
アメリカドル	国債証券 13銘柄	74.46%	41.30%
	特殊債券 8銘柄	24.94%	13.83%
	社債券 1銘柄	0.60%	0.34%
カナダドル	国債証券 4銘柄	100.00%	1.86%
オーストラリアドル	国債証券 2銘柄	100.00%	0.21%
イギリスポンド	国債証券 5銘柄	100.00%	5.50%
シンガポールドル	国債証券 3銘柄	100.00%	0.38%
マレーシアリンギット	国債証券 5銘柄	100.00%	0.59%
ニュージーランドドル	国債証券 2銘柄	100.00%	0.39%
スウェーデンクローネ	国債証券 2銘柄	100.00%	0.16%
ノルウェークローネ	国債証券 2銘柄	100.00%	0.15%
メキシコペソ	国債証券 2銘柄	100.00%	0.77%
イスラエルシェケル	国債証券 2銘柄	100.00%	0.23%
ポーランドズロチ	国債証券 3銘柄	100.00%	2.08%
中国元	国債証券 4銘柄	100.00%	9.74%

ユーロ	国債証券	16銘柄	100.00%	22.45%
-----	------	------	---------	--------

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド

貸借対照表

(単位：円)

[2025年 2月 7日現在]

資産の部	
流動資産	
預金	491,055,642
コール・ローン	319,530,616
株式	12,367,666,940
投資証券	157,717,540
未収配当金	5,270,764
未収利息	4,055
流動資産合計	13,341,245,557
資産合計	13,341,245,557
負債の部	
流動負債	
未払解約金	79,516,875
流動負債合計	79,516,875
負債合計	79,516,875
純資産の部	
元本等	
元本	1,937,028,748
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	11,324,699,934
元本等合計	13,261,728,682
純資産合計	13,261,728,682
負債純資産合計	13,341,245,557

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。 投資証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

	[2025年 2月 7日現在]
1. 期首	2024年 8月 8日
期首元本額	2,053,955,369円
期中追加設定元本額	190,957,460円
期中一部解約元本額	307,884,081円
元本の内訳※	
海外株式セレクション（ラップ向け）	697,533,385円

	[2025年 2月 7日現在]
外国株式アクティブファンドセレクション（ラップ専用）	213,885,149円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ２５	19,028,794円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ５０	97,036,203円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ７５	135,523,419円
三菱ＵＦＪ 海外株式オープン	505,343,509円
三菱ＵＦＪ 海外株式オープンＶＡ（適格機関投資家限定）	117,018,402円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ５０ＶＡ（適格機関投資家限定）	17,970,033円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド ２５ＶＡ（適格機関投資家限定）	2,904,491円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド ５０ＶＡ（適格機関投資家限定）	38,294,311円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）	4,101,077円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）	4,462,420円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）	4,486,135円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）	10,776,553円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０３０	633,809円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０	778,341円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（安定型）	5,070,504円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（安定成長型）	14,639,129円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（成長型）	13,676,587円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（積極型）	20,233,154円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ターゲット・イヤー ファンド ２０３０	5,291,117円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ターゲット・イヤー ファンド ２０４０	8,342,226円
合計	1,937,028,748円
２． 受益権の総数	1,937,028,748口

※当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

１ 金融商品の状況に関する事項

区分	自 2024年 8月 8日 至 2025年 2月 7日
１．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
２．金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、株式に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 当ファンドは、投資証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。
３．金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドは、外貨の決済のために為替予約取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、為替相場の変動による市場リスクおよび信用リスク等を有しておりますが、ごく短期間で実際に外貨の受渡を伴うことから、為替相場の変動によるリスクは限定的であります。 ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

２ 金融商品の時価等に関する事項

区分	[2025年 2月 7日現在]
１．貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
２．時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 （２）デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 （３）上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
３．金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[2025年 2月 7日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
株式	230,454,899
投資証券	△16,427,549
合計	214,027,350

(注)当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

	[2025年 2月 7日現在]
1口当たり純資産額	6.8464円
(1万口当たり純資産額)	(68,464円)

附属明細表

第１ 有価証券明細表

(1)株式

（単位：円）

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
アメリカドル	CENTRUS ENERGY CORP-CLASS A	7,631	81.81	624,292.11	
	CHEVRON CORP	16,307	151.90	2,477,033.30	
	FREEPORT-MCMORAN INC	8,569	37.15	318,338.35	
	VULCAN MATERIALS CO	1,636	277.21	453,515.56	
	HEICO CORP-CLASS A	9,867	186.81	1,843,254.27	
	INTUITIVE MACHINES INC	29,090	19.39	564,055.10	
	NEXTRACKER INC-CL A	17,845	47.61	849,600.45	
	SOUTHWEST AIRLINES CO	26,740	31.09	831,346.60	
	UBER TECHNOLOGIES INC	34,013	69.99	2,380,569.87	
	MOBILEYE GLOBAL INC-A	8,210	16.46	135,136.60	
	TESLA INC	9,588	374.32	3,588,980.16	
	BRINKER INTERNATIONAL INC	6,920	182.28	1,261,377.60	
	DRAFTKINGS INC-CL A	23,326	42.44	989,955.44	
	META PLATFORMS INC-CLASS A	5,210	711.99	3,709,467.90	
	AMAZON.COM INC	7,743	238.83	1,849,260.69	
	GIGACLOUD TECHNOLOGY INC - A	42,383	19.89	842,997.87	
	SPROUTS FARMERS MARKET INC	5,509	169.96	936,309.64	
	WALMART INC	9,120	102.85	937,992.00	
	MONDELEZ INTERNATIONAL INC-A	12,173	57.83	703,964.59	
	COTY INC-CL A	185,176	6.85	1,268,455.60	
	HIMS & HERS HEALTH INC	22,656	40.47	916,888.32	
	INMODE LTD	60,912	18.25	1,111,644.00	

	INTUITIVE SURGICAL INC	315	588.50	185,377.50	
	ELI LILLY & CO	920	870.37	800,740.40	
	MODERNA INC	11,766	33.61	395,455.26	
	PFIZER INC	68,323	25.83	1,764,783.09	
	VERTEX PHARMACEUTICALS INC	3,111	481.16	1,496,888.76	
	VIKING THERAPEUTICS INC	10,000	31.46	314,600.00	
	ZOETIS INC	4,245	174.12	739,139.40	
	COMERICA INC	4,302	67.96	292,363.92	
	AMERICAN EXPRESS CO	6,203	320.15	1,985,890.45	
	BLUE OWL CAPITAL INC	48,480	24.77	1,200,849.60	
	GOLDMAN SACHS GROUP INC	3,086	658.22	2,031,266.92	
	PAYPAL HOLDINGS INC	9,812	78.57	770,928.84	
	SOFI TECHNOLOGIES INC	163,952	14.80	2,426,489.60	
	CHUBB LTD	7,341	272.88	2,003,212.08	
	ROOT INC/OH -CLASS A	9,948	109.71	1,091,395.08	
	MICROSOFT CORP	7,265	415.82	3,020,932.30	
	SERVICENOW INC	432	1,023.30	442,065.60	
	TWILIO INC - A	10,222	147.43	1,507,029.46	
	ZETA GLOBAL HOLDINGS CORP-A	48,693	20.96	1,020,605.28	
	APPLE INC	18,888	233.22	4,405,059.36	
	T-MOBILE US INC	3,942	247.17	974,344.14	
	CONSTELLATION ENERGY	1,954	311.80	609,257.20	
	SEMPRA	6,607	82.08	542,302.56	
	BROADCOM INC	3,810	231.36	881,481.60	
	CREDO TECHNOLOGY GROUP HOLDI	20,360	79.64	1,621,470.40	
	FIRST SOLAR INC	4,412	167.67	739,760.04	
	NVIDIA CORP	25,039	128.68	3,222,018.52	
	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	5,560	210.50	1,170,380.00	
	COSTAR GROUP INC	4,478	78.19	350,134.82	
	アメリカドル 小計	1,064,090		66,600,658.20 (10,076,679,585)	
カナダドル	DOLLARAMA INC	5,700	140.13	798,741.00	
	CAN IMPERIAL BK OF COMMERCE	16,400	88.52	1,451,728.00	
	MANULIFE FINANCIAL CORP	34,100	42.91	1,463,231.00	
	カナダドル 小計	56,200		3,713,700.00 (392,500,953)	
オーストラリアドル	BHP GROUP LTD	28,136	40.26	1,132,755.36	
	オーストラリアドル 小計	28,136		1,132,755.36 (107,679,724)	
イギリスポンド	CRODA INTERNATIONAL PLC	9,562	31.11	297,473.82	
	ASHTED GROUP PLC	5,306	50.86	269,863.16	
	IMPERIAL BRANDS PLC	51,882	28.25	1,465,666.50	

	AVIVA PLC	130,934	5.14	673,262.62	
イギリスポンド 小計		197,684		2,706,266.10 (508,805,089)	
スイスフラン	ACCELLERON INDUSTRIES AG	22,314	43.44	969,320.16	
	PARTNERS GROUP HOLDING AG	834	1,418.00	1,182,612.00	
スイスフラン 小計		23,148		2,151,932.16 (359,437,228)	
香港ドル	TENCENT HOLDINGS LTD	22,200	420.40	9,332,880.00	
香港ドル 小計		22,200		9,332,880.00 (181,337,858)	
デンマーククローネ	NOVO NORDISK A/S-B	4,506	635.00	2,861,310.00	
デンマーククローネ 小計		4,506		2,861,310.00 (60,230,575)	
ユーロ	THALES SA	5,722	155.50	889,771.00	
	HERMES INTERNATIONAL	481	2,759.00	1,327,079.00	
	DANONE	16,927	66.22	1,120,905.94	
	IBERDROLA SA	73,440	13.59	998,416.80	
ユーロ 小計		96,570		4,336,172.74 (680,995,928)	
合 計		1,492,534		12,367,666,940 (12,367,666,940)	

(注1)通貨の種類ごとの小計欄の()内は、邦貨換算額であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

(2)株式以外の有価証券

(単位：円)

通貨	種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
アメリカドル	投資証券	BXP INC	14,400	1,042,416.00	
アメリカドル合計			14,400	1,042,416.00 (157,717,540)	
合計				157,717,540 (157,717,540)	

(注1)通貨の種類ごとの小計／合計欄の()内は、邦貨換算額であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入株式 時価比率	組入投資証券 時価比率	有価証券の 合計金額に 対する比率
アメリカドル	株式 51銘柄	98.46%	—	80.45%
	投資証券 1銘柄	—	1.54%	1.26%
カナダドル	株式 3銘柄	100.00%	—	3.13%
オーストラリアドル	株式 1銘柄	100.00%	—	0.86%
イギリスポンド	株式 4銘柄	100.00%	—	4.06%

スイスフラン	株式	2銘柄	100.00%	—	2.87%
香港ドル	株式	1銘柄	100.00%	—	1.45%
デンマーククローネ	株式	1銘柄	100.00%	—	0.48%
ユーロ	株式	4銘柄	100.00%	—	5.44%

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

２【ファンドの現況】

【三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）】

【純資産額計算書】

2025年 2月28日現在

(単位：円)

I 資産総額	241,023,793
II 負債総額	201,078
III 純資産総額（I－II）	240,822,715
IV 発行済口数	204,073,381口
V 1口当たり純資産価額（III／IV）	1.1801
（10,000口当たり）	(11,801)

【三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）】

【純資産額計算書】

2025年 2月28日現在

(単位：円)

I 資産総額	182,059,162
II 負債総額	185,883
III 純資産総額（I－II）	181,873,279
IV 発行済口数	139,164,503口
V 1口当たり純資産価額（III／IV）	1.3069
（10,000口当たり）	(13,069)

【三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）】

【純資産額計算書】

2025年 2月28日現在

(単位：円)

I 資産総額	141,598,670
II 負債総額	137,671
III 純資産総額（I－II）	141,460,999
IV 発行済口数	100,695,767口
V 1口当たり純資産価額（III／IV）	1.4048
（10,000口当たり）	(14,048)

【三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）】

【純資産額計算書】

2025年 2月28日現在

(単位：円)

I 資産総額	276,501,281
II 負債総額	287,907

Ⅲ 純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）	276,213,374
Ⅳ 発行済口数	185,462,621口
Ⅴ 1口当たり純資産価額（Ⅲ／Ⅳ）	1.4893
（10,000口当たり）	（14,893）

（参考）

三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド

純資産額計算書

2025年 2月28日現在

（単位：円）

Ⅰ 資産総額	29,703,782,930
Ⅱ 負債総額	229,028,985
Ⅲ 純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）	29,474,753,945
Ⅳ 発行済口数	21,959,782,215口
Ⅴ 1口当たり純資産価額（Ⅲ／Ⅳ）	1.3422
（10,000口当たり）	（13,422）

三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド

純資産額計算書

2025年 2月28日現在

（単位：円）

Ⅰ 資産総額	8,225,321,932
Ⅱ 負債総額	22,559,749
Ⅲ 純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）	8,202,762,183
Ⅳ 発行済口数	2,829,455,532口
Ⅴ 1口当たり純資産価額（Ⅲ／Ⅳ）	2.8991
（10,000口当たり）	（28,991）

三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド

純資産額計算書

2025年 2月28日現在

（単位：円）

Ⅰ 資産総額	49,198,240,158
Ⅱ 負債総額	2,294,410,146
Ⅲ 純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）	46,903,830,012
Ⅳ 発行済口数	12,163,179,386口
Ⅴ 1口当たり純資産価額（Ⅲ／Ⅳ）	3.8562
（10,000口当たり）	（38,562）

三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド

純資産額計算書

2025年 2月28日現在

(単位：円)

I 資産総額	12,554,576,343
II 負債総額	3,441,477
III 純資産総額（I－II）	12,551,134,866
IV 発行済口数	1,940,316,511口
V 1口当たり純資産価額（III／IV）	6.4686
（10,000口当たり）	（64,686）

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

（1）名義書換等

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

（2）受益者等に対する特典

該当事項はありません。

（3）譲渡制限の内容

該当事項はありません。

（4）受益権の譲渡

- ①受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ②上記①の申請のある場合には、上記①の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記①の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- ③上記①の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

（5）受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

（６）質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、解約請求の受付け、解約代金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第１【委託会社等の概況】

１【委託会社等の概況】

（１）資本金の額等

2025年2月末現在、資本金は2,000百万円です。なお、発行可能株式総数は400,000株であり、211,581株を発行済です。最近５年間ににおける資本金の額の増減はありません。

（２）委託会社の機構

・会社の意思決定機構

業務執行の基本方針を決定し、取締役の職務の執行を監督する機関として、取締役会を設置します。取締役の選任は、総株主の議決権の３分の１以上を有する株主が出席する株主総会にてその議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。また、取締役会で決定した基本方針に基づき、経営管理全般に関する執行方針その他重要な事項を協議・決定する機関として、経営会議を設置します。

・投資運用の意思決定機構

①投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

②運用戦略の決定

運用戦略・管理委員会において、①で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

③運用計画の決定

②で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

④ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

⑤運用部門による自律的な運用管理

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、運用部門内の管理担当部署は逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。また、運用戦略・管理委員会を通じて運用状況のモニタリングを行い、運用部門内での自律的牽制により運用改善を図ります。

⑥管理担当部署による運用管理

運用部から独立した管理担当部署は、（a）運用に関するパフォーマンス測定・分析のほか、（b）リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、（a）についてはファンド管理委員会を経て運用担当部・商品開発担当部にフィードバックされ、（b）についてはリスク管理委員会を通じて運用担当部にフィードバックされ、必要に応じて部署間連携の上で是正・改善の検討が行われます。

⑦ファンドに係る法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に係る法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、商品企画委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

⑧運用・管理に関する監督

内部監査担当部署は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）等を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業および投資助言業務を行っています。

2025年 2月28日現在における委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除きます。）

商品分類	本 数 (本)	純資産総額 (百万円)
追加型株式投資信託	796	39,938,972
追加型公社債投資信託	16	1,520,867
単位型株式投資信託	85	360,101
単位型公社債投資信託	44	103,662
合 計	941	41,923,602

なお、純資産総額の金額については、百万円未満の端数を四捨五入して記載しておりますので、表中の個々の数字の合計と合計欄の数字とは一致しないことがあります。

3【委託会社等の経理状況】

（1）財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

委託会社である三菱UFJアセットマネジメント株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和38年大蔵省令第59号）」（以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令（平成19年内閣府令第52号）」に基づき作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、財務諸表等規則第282条及び第306条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令（平成19年内閣府令第52号）」に基づき作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表に掲載している金額については、従来、千円未満の端数を切り捨てて表示しておりましたが、当中間会計期間より百万円未満の端数を切り捨てて表示することに変更しました。

（2）監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第39期事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第40期事業年度に係る中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）の中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより中間監査を受けております。

（1）【貸借対照表】

(単位：千円)

第38期
(2023年3月31日現在)

第39期
(2024年3月31日現在)

(資産の部)

流動資産

現金及び預金	※2	51,733,041	※2	58,206,340
有価証券		1,579,691		15,283
前払費用		770,747		679,199
未収入金		81,854		138,388
未収委託者報酬		16,753,855		21,064,747
未収収益	※2	688,142	※2	1,485,701
金銭の信託		10,400,000		10,500,500
その他		745,576		371,400
流動資産合計		82,752,908		92,461,561

固定資産

有形固定資産

建物	※1	181,551	※1	2,936,036
器具備品	※1	730,357	※1	1,531,857
土地		628,433		628,433
建設仮勘定		1,111,177		45,140
有形固定資産合計		2,651,520		5,141,467

無形固定資産

電話加入権		15,822		15,822
ソフトウェア		4,183,644		5,008,987
ソフトウェア仮勘定		1,907,739		1,587,548
無形固定資産合計		6,107,206		6,612,357

投資その他の資産

投資有価証券		12,022,365		13,788,071
関係会社株式		159,536		159,536
投資不動産	※1	807,066	※1	1,788,120
長期差入保証金		689,492		689,867
前払年金費用		118,832		47,573
繰延税金資産		1,675,132		1,088,836
その他		45,230		45,230
貸倒引当金		△23,600		△23,600
投資その他の資産合計		15,494,056		17,583,636

固定資産合計

固定資産合計		24,252,782		29,337,461
--------	--	------------	--	------------

資産合計

資産合計		107,005,691		121,799,022
------	--	-------------	--	-------------

(単位：千円)

	第38期 (2023年3月31日現在)	第39期 (2024年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債		
預り金	507,559	807,451
未払金		
未払収益分配金	114,094	105,550
未払償還金	7,418	43,553
未払手数料	※2 6,139,595	※2 7,523,485
その他未払金	※2 955,697	※2 885,002
未払費用	※2 5,778,896	※2 8,611,140
未払消費税等	439,657	623,219
未払法人税等	2,375,281	2,235,007

賞与引当金	849,840	1,182,242
役員賞与引当金	154,872	175,992
その他	5,517	12,303
流動負債合計	17,328,431	22,204,949
固定負債		
退職給付引当金	1,333,882	1,608,101
役員退職慰労引当金	75,667	30,105
時効後支払損引当金	254,296	250,350
資産除去債務	-	1,428,586
その他	-	29,109
固定負債合計	1,663,846	3,346,253
負債合計	18,992,277	25,551,202
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	2,000,131	2,000,131
資本剰余金		
資本準備金	3,572,096	3,572,096
その他資本剰余金	41,160,616	41,160,616
資本剰余金合計	44,732,712	44,732,712
利益剰余金		
利益準備金	342,589	342,589
その他利益剰余金		
別途積立金	6,998,000	6,998,000
繰越利益剰余金	33,267,700	40,236,787
利益剰余金合計	40,608,289	47,577,377
株主資本合計	87,341,133	94,310,221

(単位：千円)

	第38期 (2023年3月31日現在)	第39期 (2024年3月31日現在)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	672,279	1,937,598
評価・換算差額等合計	672,279	1,937,598
純資産合計	88,013,413	96,247,820
負債純資産合計	107,005,691	121,799,022

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	84,121,445	98,635,342
投資顧問料	2,750,601	3,117,320
その他営業収益	10,412	148,442
営業収益合計	86,882,459	101,901,104

営業費用				
支払手数料	※4	31,461,274	※4	34,494,219
広告宣伝費		798,894		593,586
公告費		375		1,017
調査費				
調査費		2,849,042		3,537,103
委託調査費		19,236,505		27,296,058
事務委託費		1,751,807		1,861,577
営業雑経費				
通信費		113,480		137,737
印刷費		367,379		390,143
協会費		58,128		68,869
諸会費		18,447		20,108
事務機器関連費		2,238,382		2,531,009
その他営業雑経費		-		139,012
営業費用合計		58,893,717		71,070,444
一般管理費				
給料				
役員報酬		416,461		400,592
給料・手当		6,565,766		7,202,711
賞与引当金繰入		849,840		1,182,242
役員賞与引当金繰入		154,872		175,992
福利厚生費		1,279,885		1,424,215
交際費		8,942		10,054
旅費交通費		75,274		108,782
租税公課		403,955		397,138
不動産賃借料		719,707		728,550
退職給付費用		388,176		381,449
固定資産減価償却費		2,418,341		2,469,755
諸経費		444,313		490,104
一般管理費合計		13,725,534		14,971,590
営業利益		14,263,207		15,859,070

(単位：千円)

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業外収益		
受取配当金	47,353	54,618
受取利息	※4 10,279	※4 12,836
投資有価証券償還益	609,102	204,527
収益分配金等時効完成分	94,351	17,722
受取賃貸料	※4 65,808	※4 162,111
その他	36,894	44,734
営業外収益合計	863,788	496,550
営業外費用		
投資有価証券償還損	32,995	234,700
時効後支払損引当金繰入	31,951	-
事務過誤費	2,680	10,822

賃貸関連費用		14,262		108,773
その他		32,394		25,903
営業外費用合計		114,284		380,199
経常利益		15,012,711		15,975,421
特別利益				
投資有価証券売却益		387,113		464,927
固定資産売却益		-	※1	16,229
資産除去債務履行差額		-		87,050
特別利益合計		387,113		568,207
特別損失				
投資有価証券売却損		15,828		57,011
投資有価証券評価損		104,554		31,651
固定資産除却損	※3	32,791	※3	20,246
固定資産売却損		-	※2	65,427
減損損失	※5	315,350		-
企業結合関連費用		-	※6	1,187,136
特別損失合計		468,524		1,361,473
税引前当期純利益		14,931,300		15,182,154
法人税、住民税及び事業税	※4	4,860,444	※4	4,542,085
法人税等調整額		△271,471		102,468
法人税等合計		4,588,973		4,644,553
当期純利益		10,342,327		10,537,601

(3) 【株主資本等変動計算書】

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712

	利益剰余金				株主資本合計
	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
別途 積立金		繰越利益 剰余金			
当期首残高	342,589	6,998,000	29,000,498	36,341,088	83,073,932
当期変動額					
剰余金の配当			△6,075,125	△6,075,125	△6,075,125

当期純利益			10,342,327	10,342,327	10,342,327
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	4,267,201	4,267,201	4,267,201
当期末残高	342,589	6,998,000	33,267,700	40,608,289	87,341,133

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,626,775	1,626,775	84,700,707
当期変動額			
剰余金の配当			△6,075,125
当期純利益			10,342,327
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△954,495	△954,495	△954,495
当期変動額合計	△954,495	△954,495	3,312,705
当期末残高	672,279	672,279	88,013,413

第39期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712
当期変動額				
企業結合による増加				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712

	利益剰余金					株主資本合計
	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計		
		別途 積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	342,589	6,998,000	33,267,700	40,608,289	87,341,133	
当期変動額						
企業結合による増加			1,602,526	1,602,526	1,602,526	
剰余金の配当			△5,171,039	△5,171,039	△5,171,039	
当期純利益			10,537,601	10,537,601	10,537,601	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	—	6,969,087	6,969,087	6,969,087	

当期末残高	342,589	6,998,000	40,236,787	47,577,377	94,310,221
-------	---------	-----------	------------	------------	------------

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	672,279	672,279	88,013,413
当期変動額			
企業結合による増加			1,602,526
剰余金の配当			△5,171,039
当期純利益			10,537,601
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	1,265,319	1,265,319	1,265,319
当期変動額合計	1,265,319	1,265,319	8,234,406
当期末残高	1,937,598	1,937,598	96,247,820

[注記事項]

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産及び投資不動産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～50年
器具備品	2年～20年
投資不動産	3年～50年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3)役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。

(5)役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(6)時効後支払損引当金

時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

6.収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主要な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(1)委託者報酬

投資信託の信託約款に基づき信託財産の運用指図等を行っております。委託者報酬は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて日々計算され、確定した報酬を投資信託によって主に年2回受領しております。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

(2)投資顧問料

顧客との投資一任及び投資助言契約に基づき運用及び助言を行っております。投資顧問料は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて計算され、確定した報酬を主に年4回受領しております。当該報酬は契約期間にわたり収益として認識しております。

7.その他財務諸表作成のための基礎となる事項

グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

(貸借対照表関係)

※1.有形固定資産及び投資不動産の減価償却累計額

	第38期 (2023年3月31日現在)	第39期 (2024年3月31日現在)
建物	1,006,606千円	498,805千円
器具備品	1,985,072千円	1,643,689千円
投資不動産	163,978千円	211,090千円

※2.関係会社に対する主な資産・負債

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第38期 (2023年3月31日現在)	第39期 (2024年3月31日現在)
預金	40,165,058千円	39,776,992千円
未収収益	15,046千円	12,312千円
未払手数料	790,279千円	886,173千円
その他未払金	77,007千円	105,407千円
未払費用	277,358千円	599,493千円

(損益計算書関係)

※1.固定資産売却益の内訳

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
器具備品	-	16,229千円
計	-	16,229千円

※2.固定資産売却損の内訳

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
器具備品	-	65,427千円
計	-	65,427千円

※3.固定資産除却損の内訳

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
建物	1,047千円	15,825千円
器具備品	29,762千円	3,986千円
ソフトウェア	1,981千円	434千円
計	32,791千円	20,246千円

※4.関係会社に対する主な取引

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
支払手数料	4,893,312千円	5,006,309千円
受取利息	10,236千円	12,747千円
受取賃貸料	68,168千円	152,876千円
法人税、住民税及び事業税	3,947,200千円	132,303千円

※5.減損損失

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

当社は、以下のとおり減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額
東京都千代田区（本社）	ホームページ	ソフトウェア	315,350千円

当社は資産運用業の単一セグメントであるため、事業用資産に区別はなく、全社を1つのグルーピングとしております。

ホームページのリニューアルに伴い、現行のホームページについて将来の利用終了が見込まれるため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、回収可能価額として使用価値を用いておりますが、割引率については使用見込期間が短いため考慮していません。

第39期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

当事業年度については、該当事項はありません。

※6.企業結合関連費用

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

前事業年度については、該当事項はありません。

第39期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

企業結合に伴うものであり、主にシステム統合費用などであります。

（株主資本等変動計算書関係）

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度増加 株式数（株）	当事業年度減少 株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	—	—	211,581
合計	211,581	—	—	211,581

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2022年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- | | | |
|---|----------|-------------|
| ① | 配当金の総額 | 6,075,125千円 |
| ② | 1株当たり配当額 | 28,713円 |
| ③ | 基準日 | 2022年3月31日 |
| ④ | 効力発生日 | 2022年6月29日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2023年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- | | | |
|---|----------|-------------|
| ① | 配当金の総額 | 5,171,039千円 |
| ② | 配当の原資 | 利益剰余金 |
| ③ | 1株当たり配当額 | 24,440円 |
| ④ | 基準日 | 2023年3月31日 |
| ⑤ | 効力発生日 | 2023年6月29日 |

第39期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度増加 株式数（株）	当事業年度減少 株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	—	—	211,581
合計	211,581	—	—	211,581

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2023年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- | | | |
|---|----------|-------------|
| ① | 配当金の総額 | 5,171,039千円 |
| ② | 1株当たり配当額 | 24,440円 |
| ③ | 基準日 | 2023年3月31日 |
| ④ | 効力発生日 | 2023年6月29日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2024年6月26日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

- | | | |
|---|----------|--------------|
| ① | 配当金の総額 | 45,747,620千円 |
| ② | 配当の原資 | 利益剰余金 |
| ③ | 1株当たり配当額 | 216,218円 |
| ④ | 基準日 | 2024年3月31日 |
| ⑤ | 効力発生日 | 2024年6月27日 |

（リース取引関係）

〈借主側〉

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	第38期 (2023年3月31日現在)	第39期 (2024年3月31日現在)
1年内	962,809千円	681,212千円
1年超	1,532,728千円	851,515千円
合計	2,495,537千円	1,532,728千円

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資金運用については銀行預金、金銭の信託（合同運用指定金銭信託）で運用し、金融機関からの資金調達は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は主として投資信託であり、価格変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

内部管理規程に従って月次でリスク資本を認識し、経営会議に報告しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

第38期(2023年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 有価証券	1,579,691	1,579,691	—
(2) 金銭の信託	10,400,000	10,400,000	—
(3) 投資有価証券	12,022,365	12,022,365	—
資産計	24,002,056	24,002,056	—

(注1) 「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 市場価格のない株式等

関連会社株式（前事業年度の貸借対照表計上額 159,536千円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

(注3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(注4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第38期(2023年3月31日現在)

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	51,733,041	—	—	—
金銭の信託	10,400,000	—	—	—
未収委託者報酬	16,753,855	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	1,579,691	4,859,714	1,433,213	—
合計	80,466,587	4,859,714	1,433,213	—

第39期(2024年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 有価証券	15,283	15,283	—
(2) 金銭の信託	10,500,500	10,500,500	—
(3) 投資有価証券	13,788,071	13,788,071	—
資産計	24,303,855	24,303,855	—

- (注1) 「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。
- (注2) 市場価格のない株式等
関連会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額159,536千円）は、市場価格がないため、記載していません。
- (注3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明
金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。
- (注4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第39期(2024年3月31日現在)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	58,206,340	—	—	—
金銭の信託	10,500,500	—	—	—
未収委託者報酬	21,064,747	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	15,283	5,351,373	347,505	11,696
合計	89,786,871	5,351,373	347,505	11,696

3.金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

- レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価
- レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価
- レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価
時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

第38期(2023年3月31日現在)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券	—	1,579,691	—	1,579,691
金銭の信託	—	10,400,000	—	10,400,000
投資有価証券	1,794,704	10,227,661	—	12,022,365
資産計	1,794,704	22,207,352	—	24,002,056

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

ETF（上場投資信託）は相場価格を用いて評価しております。ETFは活発な市場で取引されているため、レベル1の時価に分類しております。

ETF（上場投資信託）以外の投資信託は基準価額を用いて評価しております。基準価額は観察可能なインプットを用いて算出しているため、レベル2の時価に分類しております。

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

第39期(2024年3月31日現在)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券	—	15,283	—	15,283
金銭の信託	—	10,500,500	—	10,500,500
投資有価証券	2,014,968	11,773,103	—	13,788,071
資産計	2,014,968	22,288,887	—	24,303,855

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

ETF（上場投資信託）は相場価格を用いて評価しております。ETFは活発な市場で取引されているため、レベル1の時価に分類しております。

ETF（上場投資信託）以外の投資信託は基準価額を用いて評価しております。基準価額は観察可能なインプットを用いて算出しているため、レベル2の時価に分類しております。

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

（有価証券関係）

1. 子会社株式及び関連会社株式

第38期（2023年3月31日現在）及び第39期（2024年3月31日現在）

関連会社株式（貸借対照表計上額は159,536千円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

2. その他有価証券

第38期(2023年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額（千円）
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	8,983,713	7,558,314	1,425,399
	小計	8,983,713	7,558,314	1,425,399
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	15,018,343	15,474,760	△456,417
	小計	15,018,343	15,474,760	△456,417
合計		24,002,056	23,033,074	968,982

（注）「その他」には、貸借対照表の「金銭の信託」（貸借対照表計上額は10,400,000千円、取得原価は10,400,000千円）を含めております。

第39期(2024年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額（千円）
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	17,364,277	14,269,984	3,094,293
	小計	17,364,277	14,269,984	3,094,293
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	6,939,577	7,241,136	△301,559
	小計	6,939,577	7,241,136	△301,559
合計		24,303,855	21,511,121	2,792,733

（注）「その他」には、貸借対照表の「金銭の信託」（貸借対照表計上額は10,500,500千円、取得原価は

10,500,000千円）を含めております。

3.売却したその他有価証券

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
株式	17,240	—	14,120
債券	—	—	—
その他	1,551,405	387,113	1,708
合計	1,568,645	387,113	15,828

第39期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
株式	—	—	—
債券	—	—	—
その他	3,750,272	464,927	57,011
合計	3,750,272	464,927	57,011

4.減損処理を行った有価証券

前事業年度において、有価証券について104,554千円（その他有価証券のその他104,554千円）減損処理を行っております。

当事業年度において、有価証券について31,651千円（その他有価証券のその他31,651千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

（退職給付関係）

1.採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度（積立型制度）及び退職一時金制度（非積立型制度）を設けております。また確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2.確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,723,521 千円	3,582,778 千円
勤務費用	196,190	182,947
利息費用	25,925	39,626
数理計算上の差異の発生額	△186,130	△79,379
退職給付の支払額	△176,727	△300,286
過去勤務費用の発生額	—	—
企業結合による影響額	—	226,499
退職給付債務の期末残高	3,582,778	3,652,185

(2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
年金資産の期首残高	2,583,927 千円	2,425,752 千円
期待運用収益	46,453	43,626
数理計算上の差異の発生額	△103,934	227,699

事業主からの拠出額	—	—
退職給付の支払額	△100,694	△204,536
年金資産の期末残高	2,425,752	2,492,542

(3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	第38期 (2023年3月31日現在)	第39期 (2024年3月31日現在)
積立型制度の 退職給付債務	2,468,195 千円	2,250,427 千円
年金資産	△2,425,752	△2,492,542
	42,442	△242,114
非積立型制度の退職給付債務	1,114,583	1,401,758
未積立退職給付債務	1,157,025	1,159,643
未認識数理計算上の差異	281,343	558,841
未認識過去勤務費用	△223,319	△157,957
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,215,049	1,560,527
退職給付引当金	1,333,882	1,608,101
前払年金費用	△118,832	△47,573
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,215,049	1,560,527

(4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
勤務費用	196,190 千円	182,947 千円
利息費用	25,925	39,626
期待運用収益	△46,453	△43,626
数理計算上の差異の 費用処理額	△6,532	△29,581
過去勤務費用の費用処理額	65,361	65,361
退職給付制度の統合に係る 調整額	-	34,505
その他	1,600	2,196
確定給付制度に係る 退職給付費用	236,091	251,429

(注)「その他」は受入出向者に係る出向元への退職給付費用負担額及び退職金です。「退職給付制度の統合に係る調整額」は企業結合関連費用の一部として特別損失に計上しております。

(5)年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	第38期 (2023年3月31日現在)	第39期 (2024年3月31日現在)
債券	63.6 %	62.0 %
株式	34.2	35.9
その他	2.2	2.1
合計	100	100

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産

を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	第38期 (2023年3月31日現在)	第39期 (2024年3月31日現在)
割引率	0.066～1.13%	1.39～1.41%
長期期待運用収益率	1.5～1.8%	1.5～1.8%

3.確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度152,084千円、当事業年度164,524千円であります。

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生主な原因別の内訳

	第38期 (2023年3月31日現在)	第39期 (2024年3月31日現在)
繰延税金資産		
減損損失	499,742千円	389,750千円
投資有価証券評価損	47,876	30,021
未払事業税	169,997	126,161
賞与引当金	260,221	362,002
役員賞与引当金	29,828	33,564
役員退職慰労引当金	23,169	9,218
退職給付引当金	408,434	492,400
減価償却超過額	227,100	199,986
差入保証金	52,869	—
資産除去債務	—	16,900
時効後支払損引当金	77,865	76,657
その他	212,315	227,182
繰延税金資産 小計	2,009,420	1,963,847
評価性引当額	—	—
繰延税金資産 合計	2,009,420	1,963,847
繰延税金負債		
前払年金費用	△36,386	△14,567
その他有価証券評価差額金	△296,702	△855,135
その他	△1,199	△5,308
繰延税金負債 合計	△334,288	△875,010
繰延税金資産の純額	1,675,132	1,088,836

2.法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

第38期（2023年3月31日現在）及び第39期（2024年3月31日現在）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3.法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

(企業結合等関係)

当社は、2023年7月31日開催の取締役会において、三菱UFJ不動産投資顧問株式会社(旧商号：MU投資顧問株式会社)と吸収分割契約を締結することを決議し、同日、吸収分割の効力発生日を2023年10月1日とする吸収分割契約を締結いたしました。本吸収分割契約に基づき、当社と三菱UFJ不動産投資顧問株式会社は、2023年10月1日付で吸収分割を実施いたしました。

なお、2023年10月1日付で当社は「三菱UFJアセットマネジメント株式会社」へ商号変更しました。

1.取引の概要

(1)被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 三菱UFJ不動産投資顧問株式会社

事業の内容 投資顧問業、私募投資信託の設定・運用等

(2)企業結合日

2023年10月1日

(3)企業結合の法的形式

当社と兄弟会社である三菱UFJ不動産投資顧問株式会社を吸収分割会社、当社を吸収分割承継会社とする無対価吸収分割

(4)結合後企業の名称

分割会社：三菱UFJ不動産投資顧問株式会社

承継会社：三菱UFJアセットマネジメント株式会社

(5)企業結合を行った主な理由

法人投資家の運用ニーズが拡大しており、両社で取り組みを強化している法人投資家ビジネスにかかる運用・営業等の関連機能を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に統合することで、リソースやノウハウの集約を通じた運用機能等の強化を図ってまいります。

2.会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準（企業会計基準第21号2019年1月16日）」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針（企業会計基準適用指針第10号2019年1月16日）」に基づき、共通支配下の取引として処理いたしました。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

1.当該資産除去債務の概要

建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2.当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年と見積り、割引率は1.1%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3.当該資産除去債務の総額の増減

	第38期 (2023年3月31日現在)	第39期 (2024年3月31日現在)
期首残高	—	—
有形固定資産の取得に伴う増加	—	1,420,750千円
時の経過による調整額	—	7,835千円
期末残高	—	1,428,586千円

（収益認識関係）

1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報

収益及び契約から生じるキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に影響を及ぼす主要な要因に基づく区分に当該収益を分解した情報については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

2.顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「（重要な会計方針）の6.収益および費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3.顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）及び第39期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第38期（自2022年4月1日 至 2023年3月31日）及び第39期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注5)	科目	期末残高 (注5)
親会社	㈱三菱UFJ フィナンシャル・ グループ	東京都 千代田 区	2,141,513 百万円	銀行持株 会社業	被所有 間接 100.0%	連結納税等	連結納税等に 伴う支払 (注1)	3,947,200 千円	その他未払金	77,007 千円
親会社	三菱UFJ 信託銀行㈱	東京都 千代田 区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 100.0%	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に係る 事務代行手数料の 支払 (注2)	4,893,312 千円	未払手数料	790,279 千円
						投資の助言 役員の兼任	投資助言料 (注3)	463,416 千円	未払費用	253,093 千円

第39期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注5)	科目	期末残高 (注5)
----	--------	-----	-----	-------	------------------------	---------------	-------	--------------	----	--------------

親会社	(株)三菱UFJ フィナンシャル・ グループ	東京都 千代田 区	2,141,513 百万円	銀行持株 会社業	被所有 間接 100.0%	グループ通算制 度	グループ通算 制度に伴う通 算税効果額 (注4)	132,303 千円	その他未払金	105,407 千円
親会社	三菱UFJ 信託銀行(株)	東京都 千代田 区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 100.0%	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に係る事務代 行手数料の支払 (注2)	5,006,309 千円	未払手数料	886,173 千円
						投資の助言 役員の兼任	投資助言料 (注3)	463,831 千円	未払費用	260,800 千円

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 連結納税制度及びグループ通算制度に基づく法人税の支払予定額であります。
2. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。
3. 投資助言料については、市場実勢を勘案して決定しております。
4. グループ通算制度に基づく通算税効果額であります。
5. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

(2)財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等
第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

種類	会社等の 名称	所在地	資本金	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注2)	科目	期末残高 (注2)
同一の親会社を持つ会社	(株)三菱UFJ 銀行	東京都 千代田 区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に係る事務代 行手数料の支払 (注1)	4,052,979 千円	未払手数料	868,785 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJ モルガン・ スタンレー 証券(株)	東京都 千代田 区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に係る事務代 行手数料の支払 (注1)	6,661,991 千円	未払手数料	1,218,051 千円

第39期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

種類	会社等の 名称	所在地	資本金	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注2)	科目	期末残高 (注2)
----	------------	-----	-----	-----------	----------------------------	---------------	-------	--------------	----	--------------

同一の親会社を持つ会社	(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 (注1)	4,354,007 千円	未払手数料	1,028,586 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	東京都千代田区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 (注1)	7,493,449 千円	未払手数料	1,449,414 千円

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。

2. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（東京証券取引所、名古屋証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場）

三菱UFJ信託銀行株式会社（非上場）

(1株当たり情報)

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	415,979.76円	454,898.22円
1株当たり当期純利益金額	48,881.17円	49,804.10円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純利益金額 (千円)	10,342,327	10,537,601
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額 (千円)	10,342,327	10,537,601
普通株式の期中平均株式数 (株)	211,581	211,581

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：百万円)

第40期中間会計期間
(2024年9月30日現在)

(資産の部)
流動資産

現金及び預金		28,443
有価証券		7
前払費用		812
未収入金		145
未収委託者報酬		23,384
未収収益		1,003
金銭の信託		1,999
その他		324
流動資産合計		56,120
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1	2,853
器具備品	※1	1,306
土地		628
建設仮勘定		193
有形固定資産合計		4,981
無形固定資産		
ソフトウェア		3,983
ソフトウェア仮勘定		1,356
無形固定資産合計		5,340
投資その他の資産		
投資有価証券		12,099
関係会社株式		159
投資不動産	※1	1,750
長期差入保証金		690
前払年金費用		14
繰延税金資産		1,692
その他		45
貸倒引当金		△23
投資その他の資産合計		16,428
固定資産合計		26,750
資産合計		82,871

(単位：百万円)

第40期中間会計期間
(2024年9月30日現在)

(負債の部)		
流動負債		
預り金		943
未払金		
未払収益分配金		114
未払償還金		151
未払手数料		8,340
その他未払金		679
未払費用		8,675
未払消費税等	※2	845
未払法人税等		2,907
賞与引当金		1,176
役員賞与引当金		115
その他		9
流動負債合計		23,958
固定負債		
退職給付引当金		1,644

役員退職慰労引当金	25
時効後支払損引当金	249
資産除去債務	1,436
その他	29
固定負債合計	3,384
負債合計	27,343

(純資産の部)

株主資本	
資本金	2,000
資本剰余金	
資本準備金	3,572
その他資本剰余金	41,160
資本剰余金合計	44,732
利益剰余金	
利益準備金	342
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	6,910
利益剰余金合計	7,253
株主資本合計	53,986

(単位：百万円)

第40期中間会計期間
(2024年9月30日現在)

評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	1,542
評価・換算差額等合計	1,542
純資産合計	55,528
負債純資産合計	82,871

(2)中間損益計算書

(単位：百万円)

第40期中間会計期間
(自 2024年4月1日
至 2024年9月30日)

営業収益	
委託者報酬	56,145
投資顧問料	1,713
その他営業収益	2
営業収益合計	57,862
営業費用	
支払手数料	19,522
広告宣伝費	203
公告費	0
調査費	
調査費	2,206
委託調査費	15,946
事務委託費	1,042
営業雑経費	
通信費	80
印刷費	215
協会費	41
諸会費	11
事務機器関連費	1,405
営業費用合計	40,676

一般管理費		
給料		
役員報酬		232
給料・手当		3,459
賞与引当金繰入		1,089
役員賞与引当金繰入		115
福利厚生費		725
交際費		4
旅費交通費		60
租税公課		281
不動産賃借料		325
退職給付費用		189
固定資産減価償却費	※1	1,218
諸経費		524
一般管理費合計		8,224
営業利益		8,960

(単位：百万円)

第40期中間会計期間

(自 2024年4月1日

至 2024年9月30日)

営業外収益		
受取配当金		49
受取利息		4
投資有価証券償還益		22
収益分配金等時効完成分		3
受取賃貸料		112
その他		3
営業外収益合計		195
営業外費用		
投資有価証券償却損		6
時効後支払損引当金繰入		19
事務過誤費		7
賃貸関連費用	※1	94
その他		10
営業外費用合計		137
経常利益		9,017
特別利益		
投資有価証券売却益		497
特別利益合計		497
特別損失		
投資有価証券売却損		58
固定資産除却損		18
固定資産売却損		3
減損損失	※2	1,306
事業譲渡関連損失		285
特別損失合計		1,672
税引前中間純利益		7,842
法人税、住民税及び事業税		2,847
法人税等調整額		△428
法人税等合計		2,418
中間純利益		5,423

(3)中間株主資本等変動計算書

第40期中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

（単位：百万円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計
当期首残高	2,000	3,572	41,160	44,732
当中間期変動額				
剰余金の配当				
中間純利益				
別途積立金の取崩				
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計	—	—	—	—
当中間期末残高	2,000	3,572	41,160	44,732

	利益剰余金				株主資本合計
	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
		別途 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	342	6,998	40,236	47,577	94,310
当中間期変動額					
剰余金の配当			△45,747	△45,747	△45,747
中間純利益			5,423	5,423	5,423
別途積立金の取崩		△6,998	6,998	—	—
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	—	△6,998	△33,326	△40,324	△40,324
当中間期末残高	342	—	6,910	7,253	53,986

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,937	1,937	96,247
当中間期変動額			
剰余金の配当			△45,747
中間純利益			5,423
別途積立金の取崩			—
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	△395	△395	△395
当中間期変動額合計	△395	△395	△40,719
当中間期末残高	1,542	1,542	55,528

[重要な会計方針]

- 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産及び投資不動産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～50年
器具備品	3年～20年
投資不動産	3年～50年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。

(6) 時効後支払損引当金

時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

5. 収益および費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主要な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(1) 委託者報酬

投資信託の信託約款に基づき信託財産の運用指図等を行っております。委託者報酬は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて日々計算され、確定した報酬を投資信託によって主に年2回受領しております。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

(2) 投資顧問料

顧客との投資一任及び投資助言契約に基づき運用及び助言を行っております。投資顧問料は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて計算され、確定した報酬を主に年4回受領しております。当該報酬は契約期間にわたり収益として認識しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7. その他中間財務諸表作成のための重要な事項

グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

[注記事項]

(中間貸借対照表関係)

※1 減価償却累計額

	第40期中間会計期間 (2024年9月30日現在)
建物	590百万円
器具備品	1,894百万円
投資不動産	249百万円

※2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。

(中間損益計算書関係)

※1 減価償却実施額

	第40期中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
有形固定資産	331百万円
無形固定資産	886百万円
投資不動産	38百万円

※2 減損損失

当社は、以下のとおり減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額
東京都港区（本社）	インターネット直販サービス	ソフトウェア	1,306百万円

当社は資産運用業の単一セグメントであるため、事業用資産に区別はなく、全社を1つのグルーピングとしております。

現行のソフトウェアについて将来の利用終了が見込まれるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、回収可能価額として使用価値を用いておりますが、割引率については使用見込期間が短いため考慮しておりません。

(中間株主資本等変動計算書関係)

第40期中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当中間会計期間 増加株式数（株）	当中間会計期間 減少株式数（株）	当中間会計期間末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	—	—	211,581
合計	211,581	—	—	211,581

2. 配当に関する事項

2024年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

①	配当金の総額	45,747百万円
②	配当の原資	利益剰余金
③	1株当たり配当額	216,218円
④	基準日	2024年3月31日
⑤	効力発生日	2024年6月27日

（リース取引関係）

第40期中間会計期間(2024年9月30日現在)

〈借主側〉

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	681百万円
1年超	510百万円
合 計	1,192百万円

（金融商品関係）

第40期中間会計期間(2024年9月30日現在)

1. 金融商品の時価等に関する事項

2024年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

	中間貸借対照表 計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 有価証券	7	7	—
(2) 金銭の信託	1,999	1,999	—
(3) 投資有価証券	12,099	12,099	—
資産計	14,106	14,106	—

（注1）「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

（注2）市場価格のない株式等

関連会社株式（中間貸借対照表計上額 159百万円）は、市場価格がないため、記載していません。

（注3）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットが

それぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって中間貸借対照表計上額とする金融資産

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券	—	7	—	7
金銭の信託	—	1,999	—	1,999
投資有価証券	2,686	9,412	—	12,099
資産計	2,686	11,419	—	14,106

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

ETF（上場投資信託）は相場価格を用いて評価しております。ETFは活発な市場で取引されているため、レベル1の時価に分類しております。

ETF（上場投資信託）以外の投資信託は基準価額を用いて評価しております。基準価額は観察可能なインプットを用いて算出しているため、レベル2の時価に分類しております。

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

（有価証券関係）

第40期中間会計期間（2024年9月30日現在）

1. 子会社及び関連会社株式

関連会社株式（中間貸借対照表計上額 159百万円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

2. その他有価証券

	種類	中間貸借対照表 計上額（百万円）	取得原価 （百万円）	差額（百万円）
中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	10,113	7,534	2,578
	小 計	10,113	7,534	2,578
中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	3,993	4,349	△355
	小 計	3,993	4,349	△355
合 計		14,106	11,883	2,222

（注）「その他」には、中間貸借対照表の「金銭の信託」（中間貸借対照表計上額1,999百万円、取得価額2,000百万円）を含めております。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の総額の増減

第40期中間会計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）	
期首残高	1,428百万円
有形固定資産の取得に伴う増加	—
時の経過による調整額	7百万円
中間期末残高	1,436百万円

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

収益及び契約から生じるキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に影響を及ぼす主要な要因に基づく区分に当該収益を分解した情報については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

第40期中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第40期中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報**(1) 営業収益**

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

（1株当たり情報）

1株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第40期中間会計期間 (2024年9月30日現在)
1株当たり純資産額	262,445.12円
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額（百万円）	55,528
普通株式に係る中間期末の純資産額（百万円）	55,528
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末の普通株式の数（株）	211,581

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第40期中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
1株当たり中間純利益金額	25,633.62円
(算定上の基礎)	
中間純利益金額（百万円）	5,423
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—
普通株式に係る中間純利益金額（百万円）	5,423
普通株式の期中平均株式数（株）	211,581

(注)潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- ①自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

- ②運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
 ③通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下④⑤において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
 ④委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
 ⑤上記③④に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

- ①定款の変更等
 定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。
 ②訴訟事件その他重要事項
 該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

（1）受託会社

- ①名称：三菱UFJ信託銀行株式会社
 （再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
 ②資本金の額：324,279百万円（2024年9月末現在）
 ③事業の内容：銀行業務および信託業務を営んでいます。

（2）販売会社

①名称	②資本金の額 (2024年9月末現在)	③事業の内容
株式会社第四北越銀行	32,776 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社鹿児島銀行	18,130 百万円	銀行業務を営んでいます。
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279 百万円	銀行業務および信託業務を営んでいます。
九州FG証券株式会社	3,000 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

2【関係業務の概要】

- （1）受託会社：ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理等を行います。
 （2）販売会社：ファンドの募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱い等を行います。

3【資本関係】

該当ありません。（2025年2月末現在）

（注）関係法人が所有する委託会社の株式または委託会社が所有する関係法人の株式のうち、持株比率が3%以上のものを記載しています。

第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

提出年月日	提出書類
2024年11月 6日	有価証券届出書の訂正届出書
2024年11月 6日	有価証券報告書

独立監査人の監査報告書

2024年6月7日

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 山田 信之

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 田嶋 大士

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJアセットマネジメント株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第39期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱UFJアセットマネジメント株式会社の2024年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2025年4月9日

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）の2024年8月8日から2025年2月7日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）の2025年2月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2025年4月9日

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）の2024年8月8日から2025年2月7日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）の2025年2月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2025年4月9日

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社

取締役会 御 中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）の2024年8月8日から2025年2月7日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）の2025年2月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2025年4月9日

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）の2024年8月8日から2025年2月7日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）の2025年2月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2024年12月3日

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 鶴 見 将 史

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 田 嶋 大 士

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJアセットマネジメント株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの第40期事業年度の中間会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJアセットマネジメント株式会社の2024年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。